

造形専門科目

授業 コード	授業科目名	ページ
	造形専門科目	163

油絵学科

1080	絵画表現 I.....	164
1090	絵画表現 II.....	166
1100	複合的表現 I.....	168
1110	複合的表現 II.....	170
	・絵画コース	
1120	絵画 III.....	172
1130	絵画 IV.....	174
1140	絵画 V.....	176
1150	絵画 VI.....	178
1160	絵画 VII.....	180
1810	卒業制作.....	182
	・日本画コース	
1170	日本画 III.....	184
1180	日本画 IV.....	185
1190	日本画 V.....	186
1200	日本画 VI.....	187
1210	日本画 VII.....	188
1820	卒業制作.....	189
	・版画コース	
1220	版画 III.....	190
1230	版画 IV.....	191
1240	版画 V.....	192
1250	版画 VI.....	194
1260	版画 VII.....	195
1830	卒業制作.....	196

授業 コード	授業科目名	ページ
	工芸工業デザイン学科	

1270	工芸工業デザイン基礎 I.....	197
1280	工芸工業デザイン基礎 II.....	199
	・生活環境デザインコース	
1290	生活環境デザイン論.....	201
1300	生活環境計画 I.....	202
1310	生活環境計画 II.....	204
1320	生活環境デザイン研究.....	206
1840	卒業制作.....	208
	・スペースデザインコース	
1330	スペースデザイン論.....	209
1340	空間設計 I.....	211
1350	空間設計 II.....	212
1360	スペースデザイン研究.....	213
1850	卒業制作.....	214

授業 コード	授業科目名	ページ
-----------	-------	-----

芸術文化学科

1370	ミュゼオロジー I.....	215
1380	造形民俗学.....	216
1390	メディア論.....	217
1400	編集研究.....	218
2240	博物館資料保存論.....	219
2250	博物館展示論.....	220
2260	博物館教育論.....	221
	・造形研究コース	
1410	造形学概論.....	222
1420	資料情報処理.....	223
1430	媒体組成研究.....	224
1440	造形学研究.....	225
1860	卒業制作.....	226
	・文化支援コース	
1450	生涯学習概論.....	227
1460	ミュゼオロジー II.....	228
1470	博物館実習.....	229
1480	文化支援研究.....	230
1870	卒業制作.....	231

授業
コード

授業科目名

ページ

デザイン情報学科

1490 メディア環境論 232

1500 マルチメディア表現 234

・コミュニケーションデザインコース

1510 イメージ編集 I 236

1520 イメージ編集 II 238

1530 コミュニケーション研究 I 239

1540 コミュニケーション研究 II 241

1880 卒業制作 243

・デザインシステムコース

1570 情報通信ネットワーク 245

1550 画像表現研究 247

1560 データベース 249

1580 デザインシステム研究 251

1890 卒業制作 252

授業
コード

授業科目名

ページ

教職に関する科目 253

1640 美術教育法 I 254

1650 美術教育法 II 255

1660 美術教育法 III 257

1670 美術教育法 IV 258

1680 工芸教育法 I 259

1690 工芸教育法 II 260

1700 情報教育法 I 262

1710 情報教育法 II 263

1600 教育原理 I 264

1590 教師論 265

1610 教育原理 II 266

1620 教育心理学 267

1900 特別支援教育 268

1720 道徳教育の理論と方法 269

1910 総合的な学習の時間の指導法 270

1730 特別活動の理論と方法 271

1630 教育方法 272

1740 生活指導の理論と方法 274

1750 教育相談論 275

1770 教育実習 I 276

1780 教育実習 II 277

1790 教育実践の理論と方法 278

2100 }
2110 }

2270 教職実践演習 (中・高) 279

1800 介護等体験 281

科目名	絵画表現 I							
授業コード	1080	授業科目名	絵画表現 I				担当者	三浦明範教授、重政啓治教授、吉川民仁教授、袴田京太郎教授、権山祐和教授、丸山直文教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、喜多祥泰講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小島隆三講師、小森琢己講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、神彌佐子講師、畠山昌子講師、星晃講師、松村繁講師、室井佳世講師、山本晶講師、渡辺えつこ講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	3～4	指定		
科目区分	造形専門科目 (油絵学科各コース3年次必修科目)							
授業形態	通信授業 面接授業							

【授業の概要と目標】

ここでは、造形要素としての線と面の動きをテーマとして学ぶ。どのようなモチーフであっても、それをキャンバスや紙の上に表現するには、線や面などの造形要素として捉えることが重要になってくる。モチーフを漫然と見たまま描くのではなく、画面を構成する要素として捉えた場合、実際のモチーフにはない線や面が意識されてくる。そういった画面の自由な空間構築を通して単なる再現的な表現ではない、新たな表現の展開を通信授業と面接授業を通して模索する。

【課題の概要】

○通信授業課題「線と面」

1-1 身の周りにあるもので、線的、面的要素として捉えやすい無機的なものを中心にモチーフを組み立て、「線」による構成を主としてクロッキーする。

1-2 「1-1」と同じモチーフを「面」による構成を主としてクロッキーする。

1-3 「1-1」と同じモチーフから「線」と「面」による空間構成を意識してデッサンする。

○面接授業課題「造形要素としての面と線の動き」

1-1 無機的なものを中心に組み合わせたモチーフを設置し、造形的要素としての「線」や「面」による空間構成を意識して、デッサンする。B2 画用紙または木炭紙。描画材は鉛筆または木炭。

【授業計画】

○通信授業

学習指導書『絵画表現 I・II 2020 年度』の「絵画表現 I」を参照。

教科書『絵画の材料』を参照。

教科書『絵画—アートとは何か—』の第 1 章「美術の成り立ち」等を参照。

○面接授業

第 1 日 午前：前提講義及び制作／午後：制作（デッサン）

第 2 日 午前：制作／午後：制作

第 3 日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

「絵画 I・II」または「日本画 I・II」または「版画 I・II」の単位を修得していること（油絵学科 3 年次編入学生を除く）。

○備 考

油絵学科各コース 3 年次必修科目。

【教材等】

○教科書

『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局 2020 年）

『絵画—アートとは何か—』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

○学習指導書

『絵画表現 I・II 2020 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020 年）

科目名	絵画表現 II							
授業コード	1090	授業科目名	絵画表現 II				担当者	三浦明範教授、重政啓治教授、吉川民仁教授、袴田京太郎教授、権山祐和教授、丸山直文教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、今井庸介講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、喜多祥泰講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小島隆三講師、小森琢己講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、神彌佐子講師、畠山昌子講師、星晃講師、松村繁講師、室井佳世講師、山本晶講師、渡辺えつこ講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	3～4	指定		
科目区分	造形専門科目 (油絵学科各コース3年次必修科目)							
授業形態	通信授業 面接授業							

【授業の概要と目標】

ここでは、造形要素としての明暗と色彩の動きをテーマとして学ぶ。対象として設定した空間には、光による明暗の変化とともに、モチーフ個々の形態や色彩が生み出すフォルムなどが、相互に関わり合いながら存在している。また、モチーフだけでなくモチーフと床や壁との関係や、モチーフ相互を取り巻く空間などにも注意を払うことが必要となる。これら様々な造形要素を自分が設定した空間から感じ取り、画面上で用いられる色彩と形態の関係を、色の使い方（絵具どうしの混色や画面上での配色など）に留意して描きながら、造形的な絵画空間を構築していく。通信授業、面接授業ともに明暗の構成と色彩の構成をテーマとして制作する。

【課題の概要】

○通信課題授業「明暗と色彩」

1-1 卓上の静物をモチーフに、光によって生ずる陰影の差と、モチーフ個々の色彩の明度差を同時に比較し、明暗による構成を主としてデッサンする。

1-2 「1-1」と同じモチーフを明暗と色彩の関係を意識して、水彩または油彩で制作する。

○面接授業課題「造形要素としての明暗と色彩の動き」

1-1 人物を配置し、色彩の構成を意識して、水彩または油彩で制作する。B2 画用紙または 20 号キャンバス。描画材は鉛筆、透明水彩、ガッシュ、アクリル絵具、油彩等。

【授業計画】

○通信授業

学習指導書『絵画表現 I・II 2020 年度』の「絵画表現 II」を参照。

教科書『絵画の材料』を参照。

教科書『絵画—アートとは何か—』編の第 1 章「美術の成り立ち」等を参照。

○面接授業

第 1 日 午前：前提講義及び制作／午後：制作（彩画）

第 2 日 午前：制作／午後：制作

第 3 日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

「絵画Ⅰ・Ⅱ」または「日本画Ⅰ・Ⅱ」または「版画Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること（油絵学科3年次編入学生を除く）。

○備考

油絵学科各コース3年次必修科目。

「絵画表現Ⅰ」、「絵画表現Ⅱ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果が上がるように授業内容が設定されている。ただし、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講が出来ない場合は、受講順序は問わない。

【教材等】

○教科書

『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局 2020年）

『絵画—アートとは何か—』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

○学習指導書

『絵画表現Ⅰ・Ⅱ 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

科目名	複合的表現 I						
授業コード	1100	授業科目名	複合的表現 I			担当者	三浦明範教授、重政啓治教授、吉川民仁教授、袴田京太郎教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、小島隆三講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山昌子講師、山本晶講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目 (油絵学科各コース選択科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

複合的表現では、狭義の領域概念や既成の表現形式にとらわれず、様々な素材やメディアを複合的に扱うことによって、新たな表現の可能性を探る。ここでは、内的想像力をもとに、「物質と記憶」「物質と知覚」といったことを通して、その表出作用と空間化、構造化について学ぶ。

通信授業ではフォト・コラージュによる「内的空間の表出」をテーマとした平面による制作とし、面接授業では同じテーマのもとに平面に限ることなく様々な素材やメディアを使用し、より幅広い表現を目指す。

【課題の概要】

○通信授業課題「フォト・コラージュ」

1-1 「内的空間の表出」をテーマに、写真や雑誌の切り抜き、コピーなど、様々な画像を材料とし、それらを並べたり、重ねたり、変形させたりしながら複合的に組み合わせたフォト・コラージュによる制作をする。また、作品について200～400字で解説をする。

○面接授業課題「内的空間の表出」

1-1 「内的空間の表出」をテーマに立体作品を制作する。2種類のドローイング（A：音楽を聴く、目をつぶって描くなど外から刺激を受けながら B：自分の内的世界を探りながら）を行い、それらを手掛かりに、木箱等を支持体として、紙、金属、木、紙粘土等の様々な素材に、持参した思い出の品（写真、手紙、小物など）を加え、自己の内的世界を表現する。

【授業計画】

○通信授業

学習指導書『複合的表現I・II 2020年度』の「複合的表現I」を参照。

教科書『複合的表現—絵画からの展開—』を参照。

教科書『絵画の材料』を参照。

教科書『絵画—アートとは何か—』の第1章「美術の成り立ち」等を参照。

○面接授業

第1日 午前：前提講義及びドローイング／午後：ドローイング

第2日 午前：ドローイング／午後：中間講評及び立体制作

第3日 午前：立体制作／午後：立体制作

第4日 午前：立体制作／午後：立体制作

第5日 午前：立体制作／午後：立体制作

第6日 午前：立体制作／午後：立体制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

「絵画表現I・II」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考

油絵学科各コース選択科目。

【教材等】

○教科書

『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局 2020年）

『絵画—アートとは何か—』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

『複合的表現—絵画からの展開—』（武蔵野美術大学出版局 2005年）

○学習指導書

『複合的表現 I・II 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

科目名	複合的表現 II							
授業コード	1110	授業科目名	複合的表現 II				担当者	三浦明範教授、重政啓治教授、吉川民仁教授、袴田京太郎教授、小林耕平准教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、小島隆三講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山昌子講師、山本晶講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3～4	指定		
科目区分	造形専門科目（油絵学科各コース選択科目）							
授業形態	通信授業 面接授業							

【授業の概要と目標】

「場所と観察と表現」をテーマとする。ここでは身の回りの場所や空間をよく観察してることから始める。普段見慣れている日常の空間を形作っている物の位置をずらしたり、変形したり、何かを付け加えたりすることによって、思いがけない非日常的な空間が表れたりする。この様な経験を表現へと結実させてゆくプロセスを学ぶ。通信授業では自分の身の回りの素材や生活空間をもとに、平面による制作とし、面接授業では平面に限らず様々な素材やメディアを使用し、環境と造形表現の幅広い在り方を模索する。

【課題の概要】

○通信授業課題「場所と観察と表現」

1-1 スチレンボードを使って正六面体を作成し、身の回りの場所にそれを配置した場合と、配置しない場合の状態をクロッキーする。

1-2 「1-1」で正六面体がある場合のクロッキーから1点選び、それをもとに水彩または油彩で制作する。また、作品について200～400字で解説する。

○面接授業課題「場所から生まれるもの」

1-1 「場所から生まれるもの」をテーマにインスタレーションによる表現を試みる。教室内やその周辺で作品の基礎となる場所を設定し、そこからイメージされるものや、その場所の空間的な特性を活かしたり、変質させてしまうようなものを、様々な素材を用いて制作する。また、ドローイングから実制作にいたる過程を写真で記録しながら、記録集を作成する。

【授業計画】

○通信授業

学習指導書『複合的表現 I・II 2020年度』の「複合的表現 II」を参照。

教科書『複合的表現—絵画からの展開—』を参照。

教科書『絵画の材料』を参照。

教科書『絵画—アートとは何か—』の第1章「美術の成り立ち」等を参照。

○面接授業

第1日 午前：前提講義およびドローイング／午後：ドローイングおよび場所選び

第2日 午前：制作／午後：制作（中間指導）

第3日 午前：制作／午後：制作（中間指導）

第4日 午前：制作／午後：制作（中間指導）

第5日 午前：制作／午後：制作および記録集制作

第6日 午前：記録集制作／午後：採点・講評・撤去作業

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

「複合的表現 I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考

油絵学科各コース選択科目。

【教材等】

○教科書

『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局 2020年）

『絵画—アートとは何か—』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

『複合的表現—絵画からの展開—』（武蔵野美術大学出版局 2005年）

○学習指導書

『複合的表現 I・II 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

科目名	絵画 III						
授業コード	1120	授業科目名	絵画 III			担当者	三浦明範教授、吉川民仁教授、赤塚祐二教授、袴田京太郎教授、水上泰財教授、樺山祐和教授、丸山直文教授、小林孝巨教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、小島隆三講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、昌山昌子講師、松村繁講師、山本晶講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目 (油絵学科絵画コース3年次必修科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

A 系、B 系選択。

「自然と生命」をテーマに制作する。対象をじっくりと観察し、そこで得られた発見を基に制作を進めることが大切である。私達は自然を外側から観て描いているのではなく、自然の中にあり、その生動するリズムに反応している。通信授業では、見る、感じる、考える、行う、といったことを通して、自分らしさの感じられる、活き活きとした表現を目指す。面接授業では、同じモチーフやテーマに対しての個々の表現の多様性を知ることも重要である。

【課題の概要】

○通信授業課題

〈A 系〉「自然と生命」

1-1 人物（自分も含む）と植物、動物の組み合わせをクロッキーする。

1-2 人物（自分も含む）と植物、動物の組み合わせをデッサンする。

1-3 人物（自分も含む）と植物、動物の組み合わせを油彩で制作する。

〈B 系〉「自然と生命」

1-1 身の回りの自然や生命体を観察し、そこから様々な部分をクロッキー等により造形的要素として取り出す。

1-2 「1-1」で取り出した造形的要素を様々に構成し「1-3」のためのエスキースを制作する。

1-3 「1-2」をもとに平面作品を制作する。

○面接授業課題

〈A 系〉「自然と生命」

1-1 人物（ヌード）と複数の観葉植物を配置し、デッサンをする。B2 画用紙または木炭紙。描画材は鉛筆または木炭等。クロッキー・エスキース複数点、デッサン 1 点提出。

1-2 「1-1」と同じ組み合わせを油彩で制作する。支持体は 30 号キャンパス。

〈B 系〉「自然と生命」

1-1 人体（ヌード）、観葉植物、野外取材等から様々な部分をクロッキー等により造形的要素として抽出し、それらを構成してエスキースを制作する。支持体は自由で 30 号程度のフリーサイズ。描画材は自由でカラージェムも可。2 ～ 3 点提出。

1-2 エスキースをもとに平面作品を制作する。支持体は自由で 30 号程度。描画材は自由（油彩、アクリル絵具他）。

【授業計画】

○通信授業

学習指導書『絵画Ⅲ～Ⅴ 2020 年度』の「絵画Ⅲ」を参照。

教科書『絵画の材料』を参照。

教科書『絵画—アートとは何か—』の第 1 章「美術の成り立ち」等を参照。

○面接授業

〈A 系〉

第 1 日 午前：前提講義及び制作／午後：制作（クロッキー・エスキース）

第 2 日 午前：制作（デッサン）／午後：制作

第 3 日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評

第 4 日 午前：前提講義及び制作／午後：制作（油彩）

第 5 日 午前：制作／午後：制作

第 6 日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評

〈B系〉

第1日 午前：前提講義及び制作／午後：制作（クロッキー）

第2日 午前：制作／午後：制作

第3日 午前：制作（エスキース）／午後：制作及び採点・講評

第4日 午前：前提講義及び制作／午後：制作（平面作品）

第5日 午前：制作／午後：制作

第6日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評

※ 学外見学第2日に実施予定（天候等によっては変更する場合あり）

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

「絵画Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること（絵画コース3年次編入学生を除く）。

○備考

油絵学科絵画コース3年次必修科目。

「絵画Ⅲ」、「絵画Ⅳ」、「絵画Ⅴ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果が上がるように授業内容が設定されている。

ただし、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。

【教材等】

○教科書

『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局 2020年）

『絵画—アートとは何か—』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

『複合的表現—絵画からの展開—』（武蔵野美術大学出版局 2005年）

○学習指導書

『絵画Ⅲ～Ⅴ 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

科目名	絵画 IV							
授業コード	1130	授業科目名	絵画 IV				担当者	三浦明範教授、吉川民仁教授、赤塚祐二教授、袴田京太郎教授、水上泰財教授、榊山祐和教授、丸山直文教授、小林孝巨教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、小島隆三講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、昌山昌子講師、松村繁講師、山本晶講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3～4	指定		
科目区分	造形専門科目 (油絵学科絵画コース3年次必修科目)							
授業形態	通信授業 面接授業							

【授業の概要と目標】

A 系、B 系選択。

「人と身体性」をテーマに、とくに表現の身体性ということに注目し制作する。古来人間の体は造形表現の主要なテーマとなってきた。私達は人体を通して様々な人間的な経験や感情を呼び起こす。又、人体は一つの生命体であり、それを描くことは私達の身体を通してなされる。それは、観念的な捉え方を突き崩し、新たな表現の可能性を模索する場でもある。

通信授業、面接授業を通して「人と身体性」をテーマに制作する。

【課題の概要】

○通信授業課題

〈A 系〉「人と身体性」

1-1 二人の人物を組み合わせて描く。母と子、夫婦、兄弟姉妹、あるいは身近で見かけた二人の人物、会話する二人等を対象としてクロッキーする。

1-2 「1-1」のクロッキーや実際の対象をもとに二人の人物を画面構成してデッサンする。

1-3 クロッキー、デッサンや実際の対象をもとに油彩で制作する。

〈B 系〉「人と身体性」

1-1 動いている人や動物等を対象に、動きを捉えるという意識でドローイングする。

1-2 「1-1」をもとに自分の手の動きなど、身体性から出る形を加えて構成し「1-3」のためのエスキースを制作する。

1-3 「1-2」をもとに平面作品を制作する。

○面接授業課題

〈A 系〉「人と身体性」

1-1 固定ポーズの人物（ヌード）を 2 名配置し、クロッキー・エスキース、デッサンする。B2 画用紙または木炭紙。描画材は鉛筆または木炭等。クロッキー・エスキース複数点、デッサン 1 点提出。

1-2 「1-1」と同モチーフを油彩で制作する。30～40 号程度キャンバス。

〈B 系〉「人と身体性」

1-1 固定ポーズやムービングポーズの人体（ヌード）から造形的要素を取り出すという意識でクロッキーする。そこに自分の、身体性から出る形を加え、エスキースを制作する。支持体は自由で 30号程度のフリーサイズ。描画材は自由、コラージュ可。2～3 点提出。

1-2 エスキースをもとに平面作品を制作する。支持体は自由で 30～40 号程度。描画材は自由(油彩、アクリル絵具他)。

【授業計画】

○通信授業

学習指導書『絵画Ⅲ～Ⅴ 2020 年度』の「絵画Ⅳ」を参照。

教科書『絵画の材料』を参照。

教科書『絵画—アートとは何か—』の第 1 章「美術の成り立ち」等を参照。

○面接授業

〈A 系〉

第 1 日 午前：前提講義及び制作／午後：制作（クロッキー・エスキース及びデッサン）

第 2 日 午前：制作／午後：制作

第 3 日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評

第 4 日 午前：前提講義及び制作／午後：制作（油彩）

第 5 日 午前：制作／午後：制作

第 6 日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評

〈B系〉

- 第1日 午前：前提講義及び制作／午後：制作（クッキー）
- 第2日 午前：制作／午後：制作（エスキース）
- 第3日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評
- 第4日 午前：前提講義及び制作／午後：制作（平面作品）
- 第5日 午前：制作／午後：制作
- 第6日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

「絵画Ⅲ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考

油絵学科絵画コース3年次必修科目。

「絵画Ⅲ」、「絵画Ⅳ」、「絵画Ⅴ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果が上がるように授業内容が設定されている。ただし、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。

【教材等】

○教科書

『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局 2020年）

『絵画—アートとは何か—』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

『複合的表現—絵画からの展開—』（武蔵野美術大学出版局 2005年）

○学習指導書

『絵画Ⅲ～Ⅴ 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

科目名	絵画 V							
授業コード	1140	授業科目名	絵画 V				担当者	三浦明範教授、吉川民仁教授、赤塚祐二教授、袴田京太郎教授、水上泰財教授、樺山祐和教授、丸山直文教授、小林孝巨教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、小島隆三講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、昌山昌子講師、松村繁講師、山本晶講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	3~4	指定		
科目区分	造形専門科目 (油絵学科絵画コース3年次必修科目)							
授業形態	通信授業 面接授業							

【授業の概要と目標】

A 系、B 系選択。

「素材と表現」をテーマに制作する。絵画において材料は、技法とともに、表現の成り立ち及びその空間構造とも密接に関連するものである。ここでは絵画は心や精神だけでなく、素材が重要な役割を持つことを知って欲しい。支持体や絵具、その他の素材の物質としての面白さを感じ、それらを積極的に取り扱うことによって、思いがけない効果が生まれ、表現の豊かさにつながる。

通信授業、面接授業を通して、素材と表現の在り方を制作することにより学ぶ。

【課題の概要】

○通信授業課題

〈A 系〉「素材と表現」

1-1 質感の異なるモチーフを選び、それらを組み立てた静物を描く。ここでは絵具自体が物性を持つものとして捉え、その物質感（マチエール）を意識した表現を考えて制作する。また、普段使い慣れた油絵具とキャンバスに限らず、支持体や描画材などを工夫しても良い。

〈B 系〉「素材と表現」

1-1 様々な素材（木材、布、合成樹脂、金属など）を貼り込んで構成した作品（実材構成作品）を制作し、更にこの作品をもとにした平面作品を制作する。

○面接授業課題

〈A 系〉「素材と表現」

1-1 静物の組み合わせを配置した対象を、支持体や描画材などの素材を活かす工夫をして構成した平面作品を制作する。支持体は自由で 30 ～ 40 号程度、描画材は自由（油彩、アクリル絵具、水彩絵具他）。

〈B 系〉「素材と表現」

1-1 材質感の違う様々な布類を中心に、他の素材を組み合わせ構成し、普段意識されなかった感覚を呼び起こすような平面作品を制作する。支持体は木製パネルで 30 ～ 40 号程度、描画材は不使用。

【授業計画】

○通信授業

学習指導書『絵画Ⅲ～Ⅴ 2020 年度』の「絵画Ⅴ」を参照。

教科書『絵画の材料』を参照。

教科書『絵画—アートとは何か—』の第 1 章「美術の成り立ち」等を参照。

○面接授業

第 1 日 午前：前提講義及び制作／午後：制作（平面作品）

第 2 日 午前：制作／午後：制作

第 3 日 午前：制作／午後：採点・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

「絵画Ⅳ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考

油絵学科絵画コース 3年次必修科目。

「絵画Ⅲ」、「絵画Ⅳ」、「絵画Ⅴ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果が高まるように授業内容が設定されている。ただし、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。

【教材等】

○教科書

『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局 2020年）

『絵画—アートとは何か—』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

『複合的表現—絵画からの展開—』（武蔵野美術大学出版局 2005年）

○学習指導書

『絵画Ⅲ～Ⅴ 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

科目名	絵画 VI						
授業コード	1150	授業科目名	絵画 VI			担当者	三浦明範教授、吉川民仁教授、赤塚祐二教授、袴田京太郎教授、水上泰財教授、樺山祐和教授、丸山直文教授、小林孝巨教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、小島隆三講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、昌山昌子講師、松村繁講師、山本晶講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目 (油絵学科絵画コース4年次必修科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

A 系、B 系選択。

「空間と構造」がテーマとなる。絵画における空間は、人間の想像力の問題であり、民族や時代そして個人によってその在り方は多様である。感覚と観念、記憶と直感などのもとに、素材、構図、形態、色彩等の構造化された関係性の中から、絵画に固有の豊かな世界が立ち現われる。空間と構造の問題を意識することによって、絵画が単に描写力や色彩の美しさばかりで成り立つのではないことを知る。

通信授業、面接授業を通して、様々な空間の在り方を学び制作する。

【課題の概要】

○通信授業課題

〈A 系〉「空間と構造—断片の風景—」

1-1 日常ありふれた場所の中から美を発見する。視界を限定した「断片の風景」をもとにクロッキーする。また、場所を選んだ理由を 400 字程度で解説する。

1-2 「1-1」で見つけた対象をエスキースする。

1-3 「1-1」で見つけた対象を油彩で制作する。

〈B 系〉「空間と構造」

1-1 「風景」「静物」「人体」等を多視点的に様々な方向から捉え、クロッキーする。また、対象を選んだ理由を 400 字程度で解説する。

1-2 「1-1」をもとに「1-3」のための構成的クロッキーとエスキースを制作する。

1-3 「1-2」をもとに「記憶」や「想像」といった他の要素を加えて自由に構成し、多次元的な絵画空間をもつ平面作品を制作する。

○面接授業課題

〈A 系〉「空間と構造」

1-1 持参した資料やモチーフを基に、空間と構造を意識した制作をする。校舎内の取材も可とする。小エスキース複数枚と B2 以上の大エスキースを最低 1 枚制作する。描画材は自由。

1-2 「1-1」で制作したエスキースを基に、油彩またはそれに準ずる素材で制作する。支持体はキャンバスほか自由で 30 ～ 40 号の大きさ。

〈B 系〉「空間と構造」

1-1 体の部分を数箇所石膏取りし、それを B3 木製パネル上に構成して組み立てる。組み立てた立体を様々な角度から見てクロッキーする。B3 または F6 ～ 8 号の薄手の紙 (クロッキーブック等)。立体作品 1 点提出。クロッキーは複数枚描きその中から 4 点提出。

1-2 「1-1」のクロッキーをもとに他の要素も自由に加え構成した平面作品を制作する。支持体は自由で 30 ～ 40 号程度。紙類の場合は B1 程度。描画材は自由 (鉛筆、水彩、油彩他)。

【授業計画】

○通信授業

学習指導書『絵画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作 2020年度』の「絵画Ⅵ」を参照。

教科書『絵画の材料』を参照。

教科書『絵画—アートとは何か—』の第1章「美術の成り立ち」等を参照。

○面接授業

〈A系〉

第1日 午前：前提講義及び制作／午後：制作

第2日 午前：制作／午後：制作

第3日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評

第4日 午前：制作／午後：制作（油彩）

第5日 午前：制作／午後：制作

第6日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評

〈B系〉

第1日 午前：前提講義及び制作／午後：制作（石膏取り）

第2日 午前：制作／午後：制作

第3日 午前：制作（クロッキー）／午後：制作及び採点・講評

第4日 午前：前提講義及び制作／午後：制作（平面作品）

第5日 午前：制作／午後：制作

第6日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4年次

○履修条件

絵画コース3年次必修科目の単位をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.051の特例を除く）。

○備考

油絵学科絵画コース4年次必修科目。

【教材等】

○教科書

『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版社 2020年）

『絵画—アートとは何か—』（武蔵野美術大学出版社 2002年）

『複合的表現—絵画からの展開—』（武蔵野美術大学出版社 2005年）

○学習指導書

『絵画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

科目名	絵画 VII						
授業コード	1160	授業科目名	絵画 VII			担当者	三浦明範教授、吉川民仁教授、赤塚祐二教授、袴田京太郎教授、水上泰財教授、樺山祐和教授、丸山直文教授、小林孝亘教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、小島隆三講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、昌山昌子講師、松村繁講師、山本晶講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目 (油絵学科絵画コース4年次必修科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

「自主制作」。造形的経験の積み重ねによって段々に自分の描きたいもの、描くべきものが明らかになってくるものであるが、ここでは卒業制作につながるために、テーマや表現内容を更に掘り下げると共に、それをどのような素材でどのように表現して行くのか、自分自身の制作の方向性を明確にする。
通信授業、面接授業を通して、各自の「自主制作」のためのイメージ・デッサンやエスキース、素材研究等タブロー制作に入るまでのプロセスも重視する。

【課題の概要】

- 通信授業課題「自由制作」
 - 1-1 卒業制作を念頭においた「1-2」のための構想、エスキース、アイデア、テーマ、素材、写真、雑誌の切り抜き、メモ等あらゆるものを F10号スケッチブックに書き込み、貼り込んだ「制作ノート」を作成する。
 - 1-2 「1-1」で作成した「制作ノート」をもとに卒業制作の足掛かりとなる実験的な自主制作を行う。
- 面接授業課題「自由制作」
 - 1-1 通信授業課題で作成した「制作ノート」をもとに卒業制作を視野に入れ、さらに発展させたエスキースを制作する。支持体は自由（画用紙、木炭紙等）で B1 または倍判木炭紙大程度。描画材は自由。
 - 1-2 「1-1」のエスキースをもとに自主制作を行う。支持体は自由で 40 ～ 50 号程度、描画材は自由。

【授業計画】

- 通信授業
 - 学習指導書『絵画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作 2020 年度』の「絵画Ⅶ」を参照。
 - 教科書『絵画の材料』を参照。
 - 教科書『絵画—アートとは何か—』の第 1 章「美術の成り立ち」等を参照。
- 面接授業
 - 第 1 日 午前：前提講義及び制作／午後：制作（制作ノート・エスキース制作）
 - 第 2 日 午前：制作／午後：制作
 - 第 3 日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評
 - 第 4 日 午前：制作／午後：制作（平面作品）
 - 第 5 日 午前：制作／午後：制作
 - 第 6 日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

- 履修年次
 - 4 年次
- 履修条件
 - 「絵画Ⅵ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること（『学生ハンドブック』 p.051 の特例を除く）。
- 備考
 - 油絵学科絵画コース 4 年次必修科目。
 - 「絵画Ⅵ」を同時に履修する場合は、「絵画Ⅵ」のスクーリングを先に受講すること。

【教材等】

○教科書

『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局 2020年）

『絵画—アートとは何か—』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

『複合的表現—絵画からの展開—』（武蔵野美術大学出版局 2005年）

○学習指導書

『絵画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

科目名	卒業制作							
授業コード	1810	授業科目名	卒業制作				担当者	三浦明範教授、吉川民仁教授、赤塚祐二教授、袴田京太郎教授、水上泰財教授、樺山祐和教授、諏訪敦教授、丸山直文教授、小林孝亘教授、阿部英幸講師、伊藤仁講師、大家泰仁講師、加藤健二講師、小島隆三講師、坂本龍幸講師、清水健太郎講師、畠山昌子講師、松村繁講師、山本晶講師、渡辺えつこ講師
開講期間	通年	単位数	6単位 (T4、S2)	学年	4	指定		
科目区分	造形専門科目 (油絵学科絵画コース4年次必修科目)							
授業形態	通信授業 面接授業							

【授業の概要と目標】

卒業制作は通信教育課程での基礎的な造形学習の総まとめであると同時に、卒業後の創造活動を方向付けるスタート地点でもある。そのためにも結果を恐れず、それまでの学習体験を活かし、各々の資質にあった表現に向けての、精一杯悔いのない制作が望まれる。また、デッサンやエスキース等を積み重ねながら、テーマを絞り込み、それを画面にどのように組み立てて行くか、しっかりと手順を踏んで制作することも大切である。

【課題の概要】

自主制作 2 点を制作する。通信授業、面接授業通しての同一課題。作品は卒業制作展で展示。支持体は自由で、サイズは 80 ～ 100 号 (各1点につきS100号の縦横の幅に収まる大きさまで)。壁面に取り付け可能で、厚さ 15 cm以内とする。描画材は油彩等、その他自由。

【授業計画】

○通信授業

学習指導書『絵画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作 2020 年度』の「卒業制作」、教科書『絵画の材料』『絵画—アートとは何か—』『複合的表現—絵画からの展開—』を参照し、制作を進める。

○面接授業

卒業制作における中間指導として、制作途中の作品を基にした指導を中心に、エスキース指導、制作工程計画、技術的問題、各種絵画的対処法等の指導を受けながらの制作。

- ・前半 第 1 ～ 2 日 午前：制作及び中間指導／午後：制作及び中間指導
- ・後半 第 3 ～ 4 日 午前：制作及び中間指導／午後：制作及び中間指導

【成績評価の方法】

卒業制作提出作品、面接授業、講評の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4 年次

○履修条件

以下のすべての条件を満たすこと。

- ・絵画コースに在籍していること。
- ・絵画コース 3 年次必修科目をすべて修得していること (『学生ハンドブック』 p.051 の特例を除く)。
- ・「絵画Ⅵ」、「絵画Ⅶ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考

油絵学科絵画コース 4 年次必修科目。

面接授業の受講条件は以下のとおり。

今年度に卒業申請を行っていること。「卒業制作提出条件審査」に合格していること。

【教材等】

○教科書

『絵画の材料』（武蔵野美術大学出版局 2020年）

『絵画—アートとは何か—』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

『複合的表現—絵画からの展開—』（武蔵野美術大学出版局 2005年）

○学習指導書

『絵画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

科目名	日本画 III						
授業コード	1170	授業科目名	日本画 III			担当者	重政啓治教授、岩田壮平准教授、喜多祥泰講師、神彌佐子講師、星晃講師、室井佳世講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3~4	指定	
科目区分	造形専門科目 (油絵学科 日本画コース3年次必修科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

古典の模写を行うことで古来の作品を鑑賞しながら日本画の素材がどのように扱われ使用されて来たかを探り、その中にある様々な技法や様式を再現することで、基本としての日本画の素材を扱う方法や描法の研究をする。

通信授業では、線の美しさや勢いのある線の練習をして筆力を養う。面接授業では、鳥獣戯画等の絵巻物を模写することで、各種の線描法と上げ写し法を学び、彩色模写では、障壁画等に見られる多種多様な技法や技術、工程法などを知り、地作りから仕上げまでを行う。

【課題の概要】

○通信授業課題「墨で描く」

筆の種類（彩色、削用、則妙、面相筆等）、和紙の種類（生、ドウサ引き）などを使い分けたくさんの線描を行う。又、筆を使った線描法でデッサンをする。

○面接授業課題「古典模写」

古典の模本をもとに線描による模写、彩色による模写をする。

【授業計画】

○通信授業

学習指導書『日本画Ⅲ～Ⅴ 2020年度』の「日本画Ⅲ」、教科書『日本画・表現と技法』の「古典模写」をもとにした授業。

○面接授業

第1日 午前：前提講義及び制作「線描模写」／午後：制作
 第2日 午前：制作／午後：制作
 第3日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評
 第4日 午前：前提講義及び制作「彩色模写」／午後：制作
 第5日 午前：制作／午後：制作
 第6日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

「日本画Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること（日本画コース3年次編入学生を除く）。

○備考

油絵学科日本画コース3年次必修科目。

「日本画Ⅲ」、「日本画Ⅳ」、「日本画Ⅴ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果が上がるように授業内容が設定されている。ただし、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。

【教材等】

○教科書

『日本画 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局 2004年）

○学習指導書

『日本画Ⅲ～Ⅴ 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

科目名	日本画 IV						
授業コード	1180	授業科目名	日本画 IV			担当者	重政啓治教授、喜多祥泰講師、神彌佐子講師、星晃講師、室井佳世講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目 (油絵学科日本画コース3年次必修科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

人体をテーマに、形態としての人体の骨格、動き、自然造形の美しさを把握し、人から受ける内面性を探りながら、日本画の素材を使って独自の表現を追求する。

通信授業では、身近な人をモデルにイメージを捉えることを重点に学び、面接授業では、デッサンと制作を通して人を描くための下図の作り方、人体と空間の関係、構成等を学び、更に、独自の表現をするための岩絵具による色彩の研究、支持体、マチエール等、日本画の様々な技法を研究して人体制作をする。

【課題の概要】

○通信授業課題「人物を描く」

身近な人、又は自己をモデルに次の条件でクロッキー及びデッサンをする。又、デッサンをもとに日本画制作をする。

- ・人物の顔、上半身、全身のクロッキーをする。
- ・身近な人や自己をモデルに身体のデッサンをする。
- ・クロッキーやデッサンをもとに日本画制作をする。

○面接授業課題「身体を描く」

- ・人体デッサンをもとに 30 号以上の日本画制作をする。

【授業計画】

○通信授業

学習指導書『日本画Ⅲ～Ⅴ 2020 年度』の「日本画Ⅳ」、教科書『日本画・表現と技法』の「人間を描く」、『現代日本画の発想』をもとにした授業。

○面接授業

- | | |
|-------|-------------------------|
| 第 1 日 | 午前：前提講義及び制作／午後：制作（デッサン） |
| 第 2 日 | 午前：制作（デッサン）／午後：制作（デッサン） |
| 第 3 日 | 午前：制作（準備・下図）／午後：制作（下図） |
| 第 4 日 | 午前：制作／午後：制作 |
| 第 5 日 | 午前：制作／午後：制作 |
| 第 6 日 | 午前：制作／午後：制作及び採点・講評 |

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

「日本画Ⅲ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考

油絵学科日本画コース 3 年次必修科目。

「日本画Ⅲ」、「日本画Ⅳ」、「日本画Ⅴ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果上がるように授業内容が設定されている。ただし、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。

【教材等】

○教科書

『日本画 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局 2004 年）

○学習指導書

『日本画Ⅲ～Ⅴ 2020 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020 年）

科目名	日本画 V						
授業コード	1190	授業科目名	日本画 V			担当者	重政啓治教授、山本直彰教授、喜多祥泰講師、神彌佐子講師、星晃講師、室井佳世講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	3~4	指定	
科目区分	造形専門科目 (油絵学科 日本画コース3年次必修科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

和紙、絹本等、様々な支持体の研究を通して日本画表現を学ぶ。静物や自由な発想によるテーマをもとに描画材との関係と幅広い独自性のある表現法を知り体感することで、素材の重要性を知る。通信授業では、和紙の特性を知り、染める、加工する等の支持体を考察したものを利用して制作する。面接授業では、基本としての絹の扱い方を学び、制作する。

【課題の概要】

○通信授業課題「素材と技法」

天然染料としての草木などや化学染料を利用して和紙を染める。更に、それを支持体とし、静物などをモチーフに日本画制作をする。

- ・身の回りにある染料を用いて和紙を染める。
- ・染めた和紙を使い、日本画制作をする。

○面接授業課題「絹に描く」

尺八サイズの絹本に日本画制作をする。

【授業計画】

○通信授業

学習指導書『日本画Ⅲ～Ⅴ 2020年度』の「日本画Ⅴ」、教科書『日本画・表現と技法』の「自由に描く」、『現代日本画の発想』をもとにした授業。

○面接授業

第1日 午前：前提講義及び制作／午後：制作

第2日 午前：制作／午後：制作

第3日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

「日本画Ⅳ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考

油絵学科日本画コース3年次必修科目。

「日本画Ⅲ」、「日本画Ⅳ」、「日本画Ⅴ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果が上がるように授業内容が設定されている。ただし、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。

【教材等】

○教科書

『日本画 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局 2004年）

○学習指導書

『日本画Ⅲ～Ⅴ 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

科目名	日本画 VI						
授業コード	1200	授業科目名	日本画 VI			担当者	重政啓治教授、西田俊英教授、喜多祥泰講師、神彌佐子講師、星晃講師、室井佳世講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目 (油絵学科 日本画コース4年次必修科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

日本画における装飾性や意匠 (= 形象化) と構成について学ぶ。日本画素材の特徴のひとつである金箔、銀箔のあかし方、野毛等の技法や扱い方を知り、制作を通して箔を使用した絵画的空間表現を試み、自己の制作工程や描くモチーフの処理法などを考察する。

通信授業では、デッサン、下図等をもとにした画面上での構成、イメージによる造形、自由な展開への試みを行う。面接授業では、箔を扱い取り入れた描き方、描くことで発生する独自の形と構成を研究する。

【課題の概要】

○通信授業課題「意匠研究」

対象物を形象化し日本画の顔料を使うのに適した形を描く。又、制作工程を意識した日本画制作をする。

- ・制作を意識したデッサン、下図及び制作日記を制作する。
- ・制作工程を意識した F25 号以上の日本画制作をする。

○面接授業課題「表現研究」

素材と意匠を考え、構成による独自の形で 30 号以上の日本画制作をする。

【授業計画】

○通信授業

学習指導書『日本画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作 2020 年度』の「日本画Ⅵ」、教科書『日本画・表現と技法』、『現代日本画の発想』をもとにした授業。

○面接授業

第 1 日 午前：前提講義及び制作／午後：制作（下図研究）

第 2 日 午前：箔指導／午後：制作

第 3 日 午前：制作／午後：制作

第 4 日 午前：制作／午後：制作

第 5 日 午前：制作／午後：制作

第 6 日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4 年次

○履修条件

日本画コース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること（『学生ハンドブック』 p.051 の特例を除く）。

○備考

油絵学科日本画コース 4 年次必修科目。

【教材等】

○教科書

『日本画 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局 2004 年）

○学習指導書

『日本画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作 2020 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020 年）

科目名	日本画 VII						
授業コード	1210	授業科目名	日本画 VII			担当者	重政啓治教授、尾長良範教授、西田俊英教授、喜多祥泰講師、神彌佐子講師、星晃講師、室井佳世講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目 (油絵学科 日本画コース4年次必修科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

自由なテーマで日本画表現を学ぶ。個々にあったテーマ、素材や表現方法を探り、自己のオリジナルな表現へと展開して行く。独自の表現、描きたいものは何か、ということを常に問題意識として持ち、テーマの内容と日本画の素材との必然性を考えながら、制作する上での確かな描写力、技術力、表現力を追求する。

通信授業、面接授業ともに、卒業制作取り組み前の科目として自己の課題の研究に取り組む。

【課題の概要】

○通信授業課題「自由制作」

自己の制作をする為の資料として、各自それぞれの手法でデッサンをし、又は素材の引用などを行い下図やアイデア画を描く。さらにそれをもとに日本画制作をする。

○面接授業課題「自由制作研究」

「自由に描く」をテーマに、自己の課題を考え、高い完成度を目標に 50 ～ 100 号の日本画制作をする。

【授業計画】

○通信授業

学習指導書『日本画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作 2020 年度』の「日本画Ⅶ」、教科書『日本画・表現と技法』、『現代日本画の発想』をもとにした授業。

○面接授業

第1日 午前：前提講義及び制作／午後：制作（下図研究）

第2日 午前：裏打ち指導／午後：制作

第3日 午前：制作／午後：制作

第4日 午前：制作／午後：制作

第5日 午前：制作／午後：制作

第6日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4 年次

○履修条件

「日本画Ⅵ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること（『学生ハンドブック』 p.051の特例を除く）。

○備考

油絵学科日本画コース 4 年次必修科目。

「日本画Ⅵ」を同時に履修する場合は、「日本画Ⅵ」のスクーリングを先に受講すること。

【教材等】

○教科書

『日本画 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局 2004 年）

○学習指導書

『日本画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作 2020 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020 年）

科目名	卒業制作						
授業コード	1820	授業科目名	卒業制作			担当者	重政啓治教授、尾長良範教授、西田俊英教授、山本直彰教授、岩田壮平准教授、喜多祥泰講師、神彌佐子講師、星晃講師、室井佳世講師、和田雄一講師
開講期間	通年	単位数	6単位 (T4、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目 (油絵学科 日本画コース4年次必修科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

日本画の素材を使い自己の表現したいものをテーマに、学習の成果で得たものを十分出し、新しい日本画の可能性を示唆するような姿勢で、自己にとっても今後の指針を示せるような制作を行う。

【課題の概要】

日本画の素材を使つての作品制作 2 点とする。通信授業・面接授業通しての同一課題。作品は卒業制作展で展示。描画材は日本画絵具。支持体は自由で、サイズは 80 ～ 100 号。壁面取り付け可能な木製パネルとする。

【授業計画】

○通信授業

学習指導書『日本画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作 2020 年度』の「卒業制作」、教科書『日本画・表現と技法』、『現代日本画の発想』をもとにした授業。

○面接授業

卒業制作における中間指導として、下図指導、制作工程計画、技術的問題等の指導を受けながら制作をする。

- ・前半 第 1 日 午前：前提講義及び中間講評／午後：制作
第 2 日 午前：制作／午後：制作
- ・後半 第 3 日 午前：前提講義及び中間講評／午後：制作
第 4 日 午前：制作／午後：制作

【成績評価の方法】

卒業制作提出作品、面接授業、全体講評の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4 年次

○履修条件

以下のすべての条件を満たすこと。

- ・日本画コースに在籍していること。
- ・日本画コース 3 年次必修科目をすべて修得していること（『学生ハンドブック』 p.051 の特例を除く）。
- ・「日本画Ⅵ」、「日本画Ⅶ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考

油絵学科日本画コース 4 年次必修科目。

面接授業の受講条件は以下のとおり。

今年度に卒業申請を行っていること。「卒業制作提出条件審査」に合格していること。

【教材等】

○教科書

『日本画 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

『現代日本画の発想』（武蔵野美術大学出版局 2004 年）

○学習指導書

『日本画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作 2020 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020 年）

科目名	版画 III						
授業コード	1220	授業科目名	版画 III			担当者	遠藤竜太教授、高浜利也教授、元田久治教授、今井庸介講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小森琢己講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目 (油絵学科版画コース3年次必修科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

版画という造形表現を用い、各自がイメージを膨らませ、テーマや表現方法の可能性を探っていく。通信授業では、「自然」をテーマにして、各自が自由な解釈により、描く行為（ドローイング）を基に、版表現に結び付ける。また、版画作品は4版種（木版、リトグラフ、銅版、スクリーンプリント）のうちから1版種を選び学習する。版画制作のためのドローイングの重要性を認識するとともに、素材（版材、紙、インクなど）との関わり、技法の特性等を充分理解し、版技法をどの様に自己の表現に結びつけるかを考察する。面接授業では、「版画Ⅰ」と同様の「木版」「リトグラフ」を開講する。「版画Ⅰ」で選択していない版種を選び、その基本技法を習得する。

【課題の概要】

○通信授業課題「自然」

1-1 「自然」をテーマに指定された順番でドローイングする。

1-2 4版種（木版、リトグラフ、銅版、スクリーンプリント）の中から1版種を選択し、課題1-1のドローイングをもとに版画作品を制作する。

○面接授業課題「基本技法の習得」

1-1 「木版」「リトグラフ」のどちらかを選択し、基本技法を習得しながら制作する。「版画Ⅰ」で選択していない版種を選ぶこと。

・「木版」イメージサイズ：22.5cm×30cm

・「リトグラフ」イメージサイズ：30cm×40cm程度

【授業計画】

○通信授業

学習指導書『版画Ⅲ～Ⅴ 2020年度』の「版画Ⅲ」を参照して、制作を進める。

教科書『新版 版画』第2章「モノタイプ」を参照。

○面接授業

「木版」または「リトグラフ」（版画Ⅰにて選択してない方の版種を選択）

第1日 午前：前提講義及び制作／午後：制作

第2日 午前：制作／午後：制作

第3日 午前：制作／午後：制作

第4日 午前：制作／午後：制作

第5日 午前：制作／午後：制作

第6日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

「版画Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること（版画コース3年次編入学生を除く）。

○備考

油絵学科版画コース3年次必修科目。

「版画Ⅲ」、「版画Ⅳ」、「版画Ⅴ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果が上がるように授業内容が設定されているが、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。ただし、「版画Ⅴ」のスクーリングは受講経験のある版種を選択すること。

通信授業を受講するにあたり、選択版種に応じて設備・機材を使用できる環境にあることが望ましい。

【教材等】

○教科書

『新版 版画』（武蔵野美術大学出版局 2012年）

○学習指導書

『版画Ⅲ～Ⅴ 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

科目名	版画 IV						
授業コード	1230	授業科目名	版画 IV			担当者	遠藤竜大教授、高浜利也教授、元田久治教授、今井庸介講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小森琢己講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目 (油絵学科版画コース3年次必修科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

版画という造形表現を用い、各自がイメージを膨らませ、テーマや表現方法の可能性を探っていく。

通信授業では、「空間」をテーマにして、各自が自由に解釈し版表現に結び付ける。平面上にできる（絵画）空間は、奥行きのある空間、平面的な空間、錯綜した空間等、様々である。ここでは各自の表現としての空間とはどのようなものなのかを版を通して探っていく。面接授業では、「版画II」と同様の「銅版」「スクリーンプリント」を開講する。「版画 II」で選択していない版種を選び、その基本技法を習得する。ここで 4 版種すべてを修得したことになるので、改めて各版種の特性とは何かを考えてみる。

【課題の概要】

○通信授業課題「空間」

1-1 4 版種（木版、リトグラフ、銅版、スクリーンプリント）の中から 1 版種を選択し、「空間」をテーマに、ドローイング、版画作品を制作する。

1-2 自由にテーマを設定し、ドローイング、版画作品を制作する。

○面接授業課題「基本技法の習得」

1-1 「銅版」「スクリーンプリント」のどちらかを選択し、基本技法を習得しながら制作する。

・「銅版」イメージサイズ：18.2cm×24cm

・「スクリーンプリント」イメージサイズ：30cm×42cm 程度

【授業計画】

○通信授業

学習指導書『版画Ⅲ～Ⅴ 2020 年度』の「版画Ⅳ」、教科書『新版 版画』を参照して、制作を進める。

○面接授業

「銅版」または「スクリーンプリント」（版画Ⅱにて選択していない方の版種を選択）

第 1 日 午前：前提講義及び制作／午後：制作

第 2 日 午前：制作／午後：制作

第 3 日 午前：制作／午後：制作

第 4 日 午前：制作／午後：制作

第 5 日 午前：制作／午後：制作

第 6 日 午前：制作／午後：採点・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

「版画Ⅲ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考

油絵学科版画コース 3 年次必修科目。

「版画Ⅲ」、「版画Ⅳ」、「版画Ⅴ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果が上がるように授業内容が設定されているが、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。ただし、「版画Ⅴ」のスクーリングは受講経験のある版種を選択すること。

通信授業を受講するにあたり、選択版種に応じて設備・機材を使用できる環境にあることが望ましい。

【教材等】

○教科書

『新版 版画』（武蔵野美術大学出版局 2012 年）

○学習指導書

『版画Ⅲ～Ⅴ 2020 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020 年）

科目名	版画 V						
授業コード	1240	授業科目名	版画 V			担当者	遠藤竜大教授、高浜利也教授、元田久治教授、今井庸介講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小森琢己講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目 (油絵学科版画コース3年次必修科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

自己の表現を見つめて版や材料の特性を学び、「版画VI」以降の取り組みの中で専門性と造形表現を高める版種を明確にする。

通信授業では、「時間」をテーマにして、各自が自由な解釈を加え、版表現を試みる。「版画IV」までの履修によって、4版種の基本技法の習得を終えたことになる。ここからは積極的に表現方法を見出し、充実した研究制作が望まれる。面接授業では、各自が選択した版種の専門技法や特殊な製版などの実習を行い、基本的実習とは異なる視野を与えながら各自の表現を追求する（面接授業は開講する時期によって実習の内容が変わる）。

【課題の概要】

○通信授業課題「時間」

1-1 4版種（木版、リトグラフ、銅版、スクリーンプリント）の中から1版種を選択し、「時間」をテーマに、ドローイング、版画作品を制作する。

1-2 自由にテーマを設定し、ドローイング、版画作品を制作する。

○面接授業課題「版種の専門技法の実習」

1-1 4版種の中から1版種を選択し、自由テーマで制作する。版種ごとに行う専門性を高める実習を通して、以降の研究課題、表現内容、選択版種などを明確にする。

* 4年次の学習を視野に入れた版種を選択すること。

* スクーリングの実習内容は開講時期により異なる（下記参照）。

【夏期スクーリング】

- ・木版 [コラグラフ]
- ・リトグラフ [感光法 (PS版)]
- ・銅版 [メゾチント]
- ・スクリーンプリント [油性インク刷り]

【冬期週末スクーリング】

- ・木版 [木口木版]
- ・リトグラフ [石版]
- ・銅版 [フォトエッチング]
- ・スクリーンプリント [写真を使った作品制作]

【授業計画】

○通信授業

学習指導書『版画Ⅲ～Ⅴ 2020年度』の「版画Ⅴ」、教科書『新版 版画』を参照して、制作を進める。

○面接授業

「木版」「リトグラフ」「銅版」「スクリーンプリント」(1版種選択)

第1日 午前：前提講義及び制作／午後：制作及び指導

第2日 午前：制作及び指導／午後：制作及び指導

第3日 午前：制作及び指導／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

「版画Ⅳ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考

油絵学科版画コース3年次必修科目。

「版画Ⅲ」、「版画Ⅳ」、「版画Ⅴ」は、ローマ数字の順に学ぶことで学習効果が上がるように授業内容が設定されているが、スクーリング日程の都合などにより順序通りの受講ができない場合は、受講順序は問わない。ただし、「版画Ⅴ」のスクーリングは受講経験のある版種を選択すること。

【教材等】

○教科書

『新版 版画』（武蔵野美術大学出版局 2012 年）

○学習指導書

『版画Ⅲ～Ⅴ 2020 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020 年）

科目名	版画 VI						
授業コード	1250	授業科目名	版画 VI			担当者	遠藤竜太教授、高浜利也教授、元田久治教授、今井庸介講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小森琢己講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目 (油絵学科版画コース4年次必修科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

これまで幾つかのテーマについて、課題の中で取り組んできたが、この科目からは通信授業、面接授業ともに自由テーマによる制作となる。自己のテーマと表現に見合った研究課題を設定し、「卒業制作」を視野に入れた版種を選択する。制作過程で技術的修練を積み重ねることも重要だが、技法や材料への興味を越えて、版の特性を意図的に用いる具体的な取り組みが求められる。そこで、なぜ版を使うのか、如何に自らの表現の中で版を活かすのか、改めて考える機会にもなるであろう。それぞれの主題を決めるところから、版材、紙などの材料を研究し、自己の表現へと結びつけていくことを学習する。通信授業、面接授業ともに、「卒業制作」を視野に入れた版種を選択し、制作する。

【課題の概要】

○通信授業課題「自主制作 1」

1-1 自由テーマによる制作。4版種（木版、リトグラフ、銅版、スクリーンプリント）の中から卒業制作に予定している1版種を選択し、ドローイング、版画作品を制作する。

○面接授業課題「自由テーマによる制作」

1-1 自由テーマによる制作。4版種（木版、リトグラフ、銅版、スクリーンプリント）の中から卒業制作で選択する1版種を選び、版画作品を制作する。

【授業計画】

制作で選択する1版種を選び、版画作品を制作する。

○通信授業

学習指導書『版画VI・VII／卒業制作 2020年度』の「版画VI」、教科書『新版 版画』の第2章、第4章を参照し、制作を進める。

○面接授業

「木版」「リトグラフ」「銅版」「スクリーンプリント」(1版種選択)

第1日 午前：前提講義及びドローイング指導／午後：制作（個別に指導）

第2日 午前：制作／午後：制作

第3日 午前：制作／午後：制作

第4日 午前：制作／午後：制作

第5日 午前：制作／午後：制作

第6日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評

*第1日に卒業制作についてのオリエンテーションを行う予定。

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4年次

○履修条件

版画コース3年次必修科目の単位をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.051の特例を除く）。

○備考

油絵学科版画コース4年次必修科目。

通信授業を受講するにあたり、選択版種に応じて設備・機材を使用できる環境にあることが望ましい。

【教材等】

○教科書

『新版 版画』（武蔵野美術大学出版局 2012年）

○学習指導書

『版画VI・VII／卒業制作 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

科目名	版画 VII						
授業コード	1260	授業科目名	版画 VII			担当者	遠藤竜大教授、高浜利也教授、元田久治教授、今井庸介講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小森琢己講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目 (油絵学科版画コース4年次必修科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

各自の学習プランを基に、独自の版表現の確立を目指し、テーマや表現手法をより明確に示す研究が求められる。プランやテーマなど、この先にある「卒業制作」の軸となる部分が不明確な場合はここで再度、熟考しなければならない。美術として優れた表現とはどのようなものなのか。版を介して何を表現しようとしているのか。様々な課題に向かって各自が真剣に取り組み、確認作業をしていくことであろう。それは表現者としての基礎であり、最も重要な姿勢である。これまで積み重ねてきた制作をもとに、卒業制作を見据えた心の準備と、充実した制作を望む。通信授業、面接授業ともに、「卒業制作」で選択する版種を選び制作する。

【課題の概要】

○通信授業課題「自主制作 2」

1-1 自由テーマによる制作。4 版種 (木版、リトグラフ、銅版、スクリーンプリント) の中から卒業制作で選択する 1 版種を選び、ドローイング、版画作品を制作する。

○面接授業課題「自由テーマによる制作」

1-1 自由テーマによる制作。4 版種 (木版、リトグラフ、銅版、スクリーンプリント) の中から卒業制作で選択する 1 版種を選び、版画作品を制作する。

【授業計画】

○通信授業

学習指導書『版画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作 2020 年度』の「版画Ⅶ」、教科書『新版 版画』を参照し、制作を進める。

○面接授業

第 1 日 午前：前提講義及びドローイング指導／午後：制作 (個別に指導)

第 2 日 午前：制作／午後：制作

第 3 日 午前：制作／午後：制作

第 4 日 午前：制作／午後：制作

第 5 日 午前：制作／午後：制作

第 6 日 午前：制作／午後：制作及び採点・講評

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4 年次

○履修条件

「版画Ⅵ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること (『学生ハンドブック』p.051の特例を除く)。

○備考

油絵学科版画コース 4 年次必修科目。

「版画Ⅵ」を同時に履修する場合は、「版画Ⅵ」のスクーリングを先に受講すること。

通信授業を受講するにあたり、選択版種に応じて設備・機材を使用できる環境にあることが望ましい。

【教材等】

○教科書

『新版 版画』(武蔵野美術大学出版局 2012 年)

○学習指導書

『版画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作 2020 年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020 年)

科目名	卒業制作						
授業コード	1830	授業科目名	卒業制作			担当者	遠藤竜太教授、高浜利也教授、元田久治教授、今井庸介講師、木村繁之講師、木村真由美講師、小森琢己講師
開講期間	通年	単位数	6単位 (T4、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目 (油絵学科版画コース4年次必修科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

版画コースの教育課程においては、技術研究、材料研究を行い、各自のテーマに沿った版表現を考察してきた。「卒業制作」では、これをさらに深めてオリジナリティを導き出すことに取り組み、これまでの学習成果を十分に出し切る制作が求められる。総まとめであると同時に卒業後の創作の基盤になり、活動展開を方向付ける重要な科目でもある。結果を恐れず、これまでの学習体験を活かし、各々の資質に合った表現に向けて、精一杯悔いのない制作が望まれる。

【課題の概要】

4 版種 (木版、リトグラフ、銅版、スクリーンプリント) の中から 1 版種を選択し、版画作品 5 点又はそれに相当するものを制作する。通信授業、面接授業通しての同一課題。作品は卒業制作展で展示。

【授業計画】

○通信授業

学習指導書『版画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作 2020 年度』の「卒業制作」、教科書『新版 版画』を参照し、制作を進める。

○面接授業

卒業制作における中間指導として、模擬展示によるドローイング指導、制作工程計画、技術的問題、展示形態等の指導を受けながらの制作。

- ・前半 第 1 日 午前：下図を用いた模擬展示及び中間講評／午後：制作
第 2 日 午前：制作／午後：制作
- ・後半 第 3 日 午前：制作及び中間指導／午後：制作
第 4 日 午前：制作／午後：制作

【成績評価の方法】

卒業制作提出作品、面接授業、全体講評の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4 年次

○履修条件

以下のすべての条件を満たすこと。

- ・版画コースに在籍していること。
- ・版画コース 3 年次必修科目をすべて修得していること (『学生ハンドブック』 p.051 の特例を除く)。
- ・「版画Ⅵ」、「版画Ⅶ」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考

油絵学科版画コース 4 年次必修科目。

課題制作に必要な設備・機材を使用できる環境にあること。

面接授業の受講条件は以下のとおり。

今年度に卒業申請を行っていること。「卒業制作提出条件審査」に合格していること。

【教材等】

○教科書

『新版 版画』(武蔵野美術大学出版局 2012 年)

○学習指導書

『版画Ⅵ・Ⅶ／卒業制作 2020 年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020 年)

科目名	工芸工業デザイン基礎 I						
授業コード	1270	授業科目名	工芸工業デザイン基礎 I			担当者	牧野良三教授、西川聡教授、鈴木純子准教授、桜井隆樹講師、山本博一講師、萩原千春講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3~4	指定	
科目区分	造形専門科目 (工芸工業デザイン学科各コース3年次必修科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

この科目は、工芸工業デザイン学科において最初に学習する造形専門科目となっている。学科の必修科目ではあるが、スペースデザインコースと生活環境デザインコースプロダクトデザイン系は同じ題材に取り組み、生活環境デザインコースクラフトデザイン系各クラスにはこの科目から各素材別課題に取り組み。つまりここから、各自が目指す専門の学習に入る。スペースデザインコースと生活環境デザインコースプロダクトデザイン系の同じ題材とは、スペースと生活環境、いかに言えば空間とモノ、それぞれの立場で同じ題材に取り組みをいう。そうすることで、各自が、両者の関係性について包括的に考え、広い視野を獲得することを期待する。

【課題の概要】

課題はスペースデザインコースと生活環境デザインコースに分かれ、生活環境デザインコースはプロダクトデザイン系、クラフトデザイン系の各素材別クラスに分かれて行う。

○スペースデザインコース

通信授業では自宅周辺のミニパークを選定し、その利用実態や空間の機能を調査分析する。周辺環境との関係、自然の在り方、地域にとっての価値およびその可能性なども考察し、マップやスケッチでレポートを提出する。面接授業では、地域の環境の中で求められる空間の在り方を重視した公園のプランニングおよびデザインングについての実習を行う。面接授業内では、事例の見学を予定している。(見学は初日の午後には実施される場合もある。初日の前提講義内で説明予定。)

○生活環境デザインコース

プロダクトデザイン系

通信授業では自宅周辺のミニパークを選定し、その設備や空間プラン、地域的な役割や利用状況を観察・調査・分析して、マップやチャートで提出する。面接授業では作成した資料を基に主に設備や機器をデザインする。

クラフトデザイン系

・テキスタイルクラス

面接授業において、写真撮影によるテーマ対象となる素材の収集。触覚とサーフェイスというテーマのもとに、素材をイメージ化し、織りによるテクスチャー表現研究を行う。通信授業では、写真撮影によるテーマ対象となる素材の収集。素材を無彩色、及び有彩色によるイメージ化をし、テキスタイルとしての使用例を提案する。

・陶磁クラス

通信授業では板づくり技法による器物と装飾に関する調査をし、まとめる。それを参考にして、板づくり技法と印と象嵌による装飾を施した日常的な用途の器物のアイデアスケッチをする。

面接授業では、アイデアスケッチを基に、さらにデザインを検討して板づくり技法と印と象嵌による器物を制作する。

*課題については学習指導書『工芸工業デザイン基礎 I・II 2020 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

生活環境デザインコースプロダクトデザイン系、クラフトデザイン系・陶磁クラス、スペースデザインコース

通信授業→面接授業

生活環境デザインコースクラフトデザイン系・テキスタイルクラス

面接授業→通信授業

○面接授業

各コース、クラスにわかれて面接授業の出題及び説明が行われる。

スペースデザインコース、生活環境デザインコースプロダクトデザイン系ではミニパークをテーマに課題に取り組み最終日に発表、講評となる。

生活環境デザインコースクラフトデザイン系素材別各クラスではそれぞれのクラスで設定された課題で実材による作品制作を行い、最終日講評となる。

○通信授業

・生活環境デザインコースプロダクトデザイン系、クラフトデザイン系・陶磁クラス、スペースデザインコース

学習指導書をよく確認し、制作すること。課題は面接授業初日に必ず持参すること。

・生活環境デザインコースクラフトデザイン系・テキスタイルクラス

面接授業をふまえ、デザイン作業を完成させ提出する。

詳細は面接授業最終日に説明する。

【成績評価の方法】

面接授業と通信授業の総合評価。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

「プロダクトデザインI・II」または「インテリアデザインI・II」の単位を修得していること（工芸工業デザイン学科3年次編入学生を除く）。

○備考

工芸工業デザイン学科各コース3年次必修科目。

クラフトデザイン系の素材別クラスを選択する場合は、1・2年次において素材別基礎実習I・IIにおける、同素材実習を履修していることが望ましい。

【教材等】

○教科書

横溝健志、田中克明編『生活環境デザイン』（武蔵野美術大学出版局 2003年）

小石新八 監修『スペースデザイン論』（武蔵野美術大学出版局 2003年）

横溝健志、小石新八 編『ドローイング・モデリング』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

横溝健志 監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

田中秀穂 監修『テキスタイル 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2007年）

小松誠 監修『陶磁 発想と手法』（武蔵野美術大学出版局 2009年）

○学習指導書

『工芸工業デザイン基礎I・II 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

【その他】

スペースデザインコースは学外見学を予定している。

科目名	工芸工業デザイン基礎 II						
授業コード	1280	授業科目名	工芸工業デザイン基礎 II			担当者	牧野良三教授、西川聡教授、鈴木純子准教授、渡辺衆講師、萩原千春講師、馬場美次講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3~4	指定	
科目区分	造形専門科目 (工芸工業デザイン学科各コース3年次必修科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

この科目は、工芸工業デザイン基礎 I に引き続き学科共通の造形専門科目となっている。学科の必修科目ではあるが、工芸工業デザイン基礎 I と同様にスペースデザインコースと生活環境デザインコースプロダクトデザイン系は同じ題材に取り組み、生活環境デザインコースクラフトデザイン系各クラスは各素材別課題に取り組み。

【課題の概要】

スペースデザインコースと生活環境デザインコースプロダクトデザイン系はインターフェイスをテーマに具体的な機器や空間を事例に研究を深めデザインの提案を行う。

生活環境デザインコースクラフトデザイン系は素材別にそれぞれの課題とする。

〈スペースデザインコース〉

面接授業では、空間のインターフェイスをテーマとした空間と人の出合いの場について考察する。授業の課題は、エキシビジョン（見本市）の企業のブースデザインの設計計画を実習する。

〈生活環境デザインコース〉

プロダクトデザイン系

面接授業において、機器やサービスのデザインをユーザーインターフェイスの観点から調査分析する。使用シーンにそって問題点や顧客要求を明確にする。その上でラフモデルによるデザイン立案と操作の評価を実施する。通信授業では面接授業で作成した提案を修正し再提案する。対象は「音楽・音声放送を一对多で楽しむ機器（ラジオ）」で、web等の技術を活用する新サービスも是とする。

クラフトデザイン系

・テキスタイルクラス

面接授業において、触覚のビジュアル化を体得する為のシルクスクリーン捺染の実習を行い、レポート効果およびペーパープランにおける表現技法を学習する。

通信授業では、面接授業で実習したパターンの連続性による色彩効果を基に、色彩の面積比を考え、ストライプの分析研究を行う。

・陶磁クラス

通信授業において、ロクロ成形による製品の調査をしてみとめる。それを基に飯碗を制作するためのアイデアスケッチをする。

面接授業では、アイデアスケッチを基にさらにデザインに検討を加え、ロクロ成形による飯碗を制作する。

*課題については学習指導書『工芸工業デザイン基礎 I・II 2020年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

生活環境デザインコースクラフトデザイン系・陶磁クラス

通信授業→面接授業

スペースデザインコース、生活環境デザインコースクラフトデザイン系・テキスタイルクラス

面接授業→通信授業

プロダクトデザイン系

予習→面接授業→通信授業

○面接授業

各コース、クラスにわかれて面接授業の出題及び説明が行われる。

スペースデザインコース、生活環境デザインコースプロダクトデザイン系ではインターフェイスをテーマに課題に取り組み最終日に発表、講評となる。

生活環境デザインコースクラフトデザイン系素材別各クラスではそれぞれのクラスで設定された課題で実材による作品制作を行い、最終日講評となる。

※生活環境デザインコースプロダクトデザイン系は学習指導書をよく確認し、予習を行い、事前調査表を初日に持参すること。

○通信授業

・生活環境デザインコースクラフトデザイン系陶磁クラス

学習指導書をよく確認し、制作すること。課題は面接授業初日に必ず持参すること。

・スペースデザインコース、生活環境デザインコースプロダクトデザイン系、クラフトデザイン系テキスタイルクラス面接授業をふまえ、それぞれのコース、クラスごとにデザイン作業を完成させ提出する。

詳細は面接授業最終日に説明する。

【成績評価の方法】

面接授業と通信授業の総合評価。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

工芸工業デザイン基礎Ⅰの単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考

工芸工業デザイン学科各コース3年次必修科目。

【教材等】

○教科書

横溝健志、田中克明編『生活環境デザイン』（武蔵野美術大学出版局 2003年）

小石新八 監修『スペースデザイン論』（武蔵野美術大学出版局 2003年）

横溝健志、小石新八 編『ドローイング・モデリング』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

横溝健志 監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

田中秀穂 監修『テキスタイル 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2007年）

小松誠 監修『陶磁 発想と手法』（武蔵野美術大学出版局 2009年）

○学習指導書

『工芸工業デザイン基礎Ⅰ・Ⅱ 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

【その他】

生活環境デザインコースプロダクトデザイン系は、グループワーク及び学外実習がある。

科目名	生活環境デザイン論						
授業コード	1290	授業科目名	生活環境デザイン論	担当者	牧野良三教授、萩野美有紀講師、渡辺衆講師		
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目 (工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース3年次必修科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

私たちの生活環境を形成するさまざまな道具や機器のデザインは、便利さや快適さを追求するだけでなく、省資源、リサイクル、バリアフリーやユニバーサルデザインの視点に立った発想が求められるようになった。この科目では、これらの要件に敏感な生活者の視点に立って、人間とモノ、そして使われる環境との関係を多角的に捉え、それらのよりよい関係の在り方を考察したい。

授業は、面接授業において、生活環境に関わるプロダクトデザインの変遷を技術の進化と文化の変化から見た歴史的側面から、現在の状況をスライドによって俯瞰することから始める。また、生産の現場や、関係する施設や展示会などの見学等を折り込み、多角的にデザインを考察する。通信授業では、面接授業で触発されたテーマをもとに実製品のデザインを体験・考察し、その分析・評価をレポートする。

【課題の概要】

○面接授業

生活を取り巻くプロダクト製品のデザインのあり方について考える。

○通信授業

製品デザインの分析・評価

*課題については学習指導書『生活環境デザイン論 2020年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

面接授業→通信授業

○面接授業

授業の概要と目標で示した生活環境デザインの視点に立ち、下記の内容を講義、実習、見学などを織り交ぜて行うオムニバス形式の授業である。最終日はテーマを定めてのレポート制作となる。

1.プロダクトデザインを、映像をまじえた講義により歴史的側面から考察する。自身の生活環境の変化とプロダクトデザインの関係を掘り起こす「生活温度表」の作成も行う。

2.椅子のコレクションのデザイン分析

3.製品デザインの分析と評価を、グループワークを通して体験し、パネルにまとめ発表する。

4.施設や工場等の見学

5.バリアフリーの実体験

6.最終日に、各実体験の内容のまとめと感想、これからのプロダクトデザインの在り方など、レポートを制作し発表を行い提出する。

○通信授業

面接授業をふまえた取り組みが出題されるので、面接授業を先に受講すること。詳細は学習指導書による。面接授業最終日に説明がある。

【成績評価の方法】

面接授業と通信授業の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

「プロダクトデザイン I・II」の単位を修得していること (生活環境デザインコース 3年次編入学生を除く)。

○備考

工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース 3年次必修科目。

スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

○教科書

横溝健志、田中克明編『生活環境デザイン』(武蔵野美術大学出版局 2003年)

田中克明監修『プロダクトデザインの発想』(武蔵野美術大学出版局 2006年)

○学習指導書

『生活環境デザイン論 2020年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年)

【その他】

グループワーク及び学外実習がある。

科目名	生活環境計画 I						
授業コード	1300	授業科目名	生活環境計画 I			担当者	牧野良三教授、西川聡教授、鈴木純子准教授、萩原千春講師、渡来一彦講師、村松恵講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目 (工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース4年次必修科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

プロダクトデザイン系クラス及びクラフトデザイン系各素材別クラスに分かれて授業を行う。プロダクトデザイン系4年次は、現代の生活で避けては通れない問題である「環境保全のデザイン」と「すべての人に役立つデザイン」にテーマを絞る。エネルギーや資源問題など地球環境への配慮をしたエコロジーやリサイクルに関する製品と、本来デザインはすべての人のためにあるという観点からのユニバーサルデザインに関する製品の課題の発掘から製品企画を考え、具体的なプロダクト製品のデザイン提案を行う。

「生活環境計画 I」では“エコデザイン”を、「生活環境研究」では“ユニバーサルデザイン”の課題に、「生活環境計画 II」では問題提起から“デザイン計画書の作成”を学習し、卒業制作の自由テーマへとつなげていくことが望ましい。

【課題の概要】

プロダクトデザイン系クラス及びクラフトデザイン系各素材別クラスは、それぞれ別課題とする。

○面接授業および通信授業課題

プロダクトデザイン系

エコロジーやリサイクルをテーマとした機器や製品のデザイン・提案を行う。予習としてエコロジーやリサイクルをテーマとした機器や製品の調査分析を行い、問題点を明らかにしてキーワードを導き出し、多くのアイデアを抽出する演習を行う。面接授業では予習の案の中から1案、具体的なデザイン提案にまとめて、ラフモデルを製作し操作性の検証とプレゼンテーションの方法を学習する。通信授業では面接授業で提案したデザインを再検証、評価して、コンセプト、図面、レンダリング、モデルの写真等 A3 レポートにまとめて提出する。

クラフトデザイン系

・テキスタイルクラス

面接授業において、プリントデザインによる色彩研究、リピート効果および花の図案化を行う。コンピュータを使用したデザインプロセスの学習とプレゼンテーションを行う（実材実習は行わない）。

通信授業では、模写とリデザインを行う。

・陶磁クラス

通信授業において、各地の建造物や壁面に利用されている陶磁器の調査研究を行う。それを基にして、レリーフ表現によるユニットタイルのアイデアスケッチをする。

面接授業では、アイデアスケッチを基にしてデザインに検討を加えて、石膏型を用いて陶土によるレリーフ表現のユニットタイルを制作する。

*課題については学習指導書『生活環境計画 I・II /生活環境デザイン研究/卒業制作 2020 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

プロダクトデザイン系

予習→面接授業→通信授業

クラフトデザイン系・陶磁クラス

通信授業→面接授業

クラフトデザイン系・テキスタイルクラス

面接授業→通信授業

○面接授業

プロダクトデザイン系

前提講義、予習課題の発表に続いて、テーマの再検討、コンセプトの設定、デザイン作業と一般的なデザインプロセスを進め、簡易モデルとパソコンを使用したプレゼンテーションで講評を行う。

※ 面接授業前予習課題を初日に必ず持参する。

クラフトデザイン系、陶磁クラス

前提講義、通信授業課題の発表に続いて、デザイン作業、作図、制作を行う。

クラフトデザイン系、テキスタイルクラス

前提講義に続いて、各工房においてデザイン計画、実材による作品の制作を行い、最終日に講評となる。

○通信授業

プロダクトデザイン系

エコロジーやリサイクルをテーマとした機器を提案し、その背景となる様々な資料を収集して問題点を明らかにしてアイデアをスケッチで展開する。

クラフトデザイン系、陶磁クラス

学習指導書にしたがって学習し、面接授業初日に必ず持参する。

クラフトデザイン系、テキスタイルクラス

面接授業をふまえて、各素材別クラスごとに課題を提出する。詳細は面接授業最終日に説明する。

【成績評価の方法】

通信授業と面接授業の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4 年次

○履修条件

生活環境デザインコース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること（「学生ハンドブック」p.051 の特例を除く）。

○備考

工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース 4 年次必修科目。スクーリングは課題内容の順序性により生活環境計画 II →生活環境計画 I で受講することが望ましい。

【教材等】

○教科書

横溝健志、田中克明編『生活環境デザイン』（武蔵野美術大学出版局 2003 年）

田中克明監修『プロダクトデザインの発想』（武蔵野美術大学出版局 2006 年）

横溝健志 監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

田中秀穂 監修『テキスタイル 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2007 年）

小松誠 監修『陶磁 発想と手法』（武蔵野美術大学出版局 2009 年）

○学習指導書

『生活環境計画 I・II / 生活環境デザイン研究 / 卒業制作 2020 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020 年）

科目名	生活環境計画 II						
授業コード	1310	授業科目名	生活環境計画 II			担当者	牧野良三教授、西川聡教授、鈴木純子准教授、渡来一彦講師、渡辺衆講師、萩原千春講師、村松恵講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目 (工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース4年次必修科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

プロダクトデザイン系クラス及びクラフトデザイン系各素材別クラスに分かれて授業を行う。
 プロダクトデザイン系では、各自テーマを設定し、問題提起、調査、企画、デザイン提案までの各内容の掘り下げた学習を行い、デザイン計画書としてのプレゼンテーションの研究を行う。
 クラフトデザイン系では、技術の習得を中心とした実習の流れにおいて、実材を用いた作品制作と、その目的や役割などの学習も行う。

【課題の概要】

プロダクトデザイン系クラス及びクラフトデザイン系各素材別クラスは、それぞれ別課題とする。

○面接授業および通信授業課題

プロダクトデザイン系

各自デザインテーマを設定する。設定の理由、背景、問題点、デザイン提案などを纏めたプランを予習として、面接授業初日に持参すること。面接授業ではプランの評価と内容の再検討を行い、小論文の構成と論理的な表現形式に則ったデザイン提案書にまとめ、プレゼンテーションを行う。通信授業では面接授業で作成したデザイン提案書を基にデザイン計画書を作成する。

クラフトデザイン系

・テキスタイルクラス

面接授業において、インテリアファブリックス（寝装、クッション、椅子張りなど）を研究する。マップ制作を通してデザイン提案を行う。コンピュータを使用したデザインプロセスの学習とプレゼンテーションを行う（実材実習は行わない）。

通信授業においても同様のデザインを行う。

・陶磁クラス

通信授業において鋳込製品の調査を行う。それを基にして、注器（ピッチャー）のアイデアスケッチを行う。

面接授業では、アイデアスケッチを基にしてデザインに検討を加えて石膏による鋳込型を作り、鋳込み泥しようを用いて注器を制作する。

*課題については学習指導書『生活環境計画 I・II /生活環境デザイン研究/卒業制作 2020 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

プロダクトデザイン系

予習→面接授業→通信授業

クラフトデザイン系・テキスタイルクラス

面接授業→通信授業

クラフトデザイン系・陶磁クラス

通信授業→面接授業

○面接授業

プロダクトデザイン系

前提講義後、各自のプランを発表、グループワークによる各自テーマの評価と内容の検討を行い、小論文形式にまとめたものを発表し講評を行う。

クラフトデザイン系、テキスタイルクラス

前提講義に続いて、各工房においてデザイン計画、実材による作品の制作を行い、最終日に講評となる。

クラフトデザイン系、陶磁クラス

前提講義、通信授業課題の発表に続いて、デザイン作業、作図制作を行なう。

○通信授業

プロダクトデザイン系

面接授業で纏めた各自テーマの小論文を、デザイン計画書として、ビジュアル的にまとめて表現、提出する。

クラフトデザイン系、テキスタイルクラス

面接授業をふまえて、各素材別クラスごとに課題を提出する。詳細は面接授業最終日に説明する。

クラフトデザイン系、陶磁クラス

学習指導書にしたがって学習し、面接授業初日に必ず持参する。

【成績評価の方法】

通信授業と面接授業の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4 年次

○履修条件

生活環境デザインコース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること（「学生ハンドブック」p.051 の特例を除く）。

○備考

工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース 4 年次必修科目。スクーリングは課題内容の順序性により生活環境計画 II →生活環境計画 I で受講することが望ましい。

【教材等】

○教科書

横溝健志、田中克明編『生活環境デザイン』（武蔵野美術大学出版局 2003 年）

田中克明監修『プロダクトデザインの発想』（武蔵野美術大学出版局 2006 年）

横溝健志 監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）

田中秀穂 監修『テキスタイル 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2007 年）

小松誠 監修『陶磁 発想と手法』（武蔵野美術大学出版局 2009 年）

○学習指導書

『生活環境計画 I・II / 生活環境デザイン研究 / 卒業制作 2020 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020 年）

科目名	生活環境デザイン研究						
授業コード	1320	授業科目名	生活環境デザイン研究			担当者	牧野良三教授、西川聡教授、鈴木純子准教授、萩野美有紀講師、萩原千春講師、光主あゆみ講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目 (工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース4年次必修科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

プロダクトデザイン系クラス及びクラフトデザイン系各素材別クラスに分かれて授業を行う。
 プロダクトデザイン系では、高齢者や障害がある人を対象とした「バリアフリー」「福祉機器」「ユニバーサルデザイン」や「共用品」など、共に暮らせる社会と生活環境を実現するための具体的な機器の提案およびデザインを行う。
 クラフトデザイン系では、技術の習得を中心とした実習の流れにおいて、実材を用いた作品制作と、その目的や役割などの学習も行う。

【課題の概要】

プロダクトデザイン系クラス及びクラフトデザイン系各素材別クラスは、それぞれ別課題とする。

○面接授業および通信授業課題

プロダクトデザイン系

予習で行う「日常調査」をもとに、面接授業では分析と問題の抽出、生活のしやすさや楽しさを増すための機器の考案、技術的な裏付けなどから、具体的なデザインの提案を行う。

通信授業では、面接授業での提案をもとに機器のデザインを行う。

クラフトデザイン系

・テキスタイルクラス

面接授業において、格子（チェック）の研究を行い、室内空間におけるタペストリーあるいはスペースデバイダー（間仕切）を織物で制作する。通信授業では、商品計画の為の企画とプレゼンテーションを行う。

・陶磁クラス

通信授業において、花器をデザインする。面接授業では、通信授業でデザインした花器から1点を選んで、さらに検討を加えて制作する。

*課題については学習指導書『生活環境計画 I・II / 生活環境デザイン研究 / 卒業制作 2020 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

プロダクトデザイン系

予習（事前調査）→面接授業→通信授業

クラフトデザイン系・テキスタイルクラス

面接授業→通信授業

クラフトデザイン系・陶磁クラス

通信授業→面接授業

○面接授業

プロダクトデザイン系

前提講義後、予習の「日常調査」を分析、機器の考案、コンセプトの設定、デザイン作業、簡易モデルの制作、パソコンを使用したプレゼンテーションで講評を行う。

※ 面接授業前予習課題を初日に必ず持参する。

クラフトデザイン系、テキスタイルクラス

前提講義に続いて、工房においてデザイン計画、実材による作品の制作を行い、最終日に講評となる。

クラフトデザイン系、陶磁クラス

通信授業課題のデザイン案をもとに検討を加えて制作する。

○通信授業

プロダクトデザイン系

面接授業で考案した機器の検証と、評価を行い、その結果を踏まえた機器のデザインと企画書を作成する。

クラフトデザイン系、テキスタイルクラス

面接授業をふまえて、課題を提出する。詳細は面接授業最終日に説明する。

クラフトデザイン系、陶磁クラス

学習指導書にしたがって学習し、面接授業前、7月1日までに提出する。添削後、返却された課題は面接授業初日に必ず持参すること。

※ 提出期限については月刊誌『武蔵美通信』の「通信教育課程面接授業（スクーリング）受講条件」を参照のこと。

【成績評価の方法】

通信授業と面接授業の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4年次

○履修条件

生活環境デザインコース3年次必修科目の単位をすべて修得していること（「学生ハンドブック」p.051の特例を除く）。

○備考

工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース4年次必修科目。

【教材等】

○教科書

横溝健志、田中克明編『生活環境デザイン』（武蔵野美術大学出版局 2003年）

田中克明監修『プロダクトデザインの発想』（武蔵野美術大学出版局 2006年）

横溝健志 監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

田中秀穂 監修『テキスタイル 表現と技法』（武蔵野美術大学出版局 2007年）

小松誠 監修『陶磁 発想と手法』（武蔵野美術大学出版局 2009年）

○学習指導書

『生活環境計画 I・II / 生活環境デザイン研究 / 卒業制作 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

【その他】

グループワークあり。学外実習の可能性あり。

科目名	卒業制作						
授業コード	1840	授業科目名	卒業制作			担当者	牧野良三教授、西川聡教授、鈴木純子准教授、萩原千春講師、萩野美有紀講師、渡辺衆講師、桜井隆樹講師、後藤大樹講師、光主あゆみ講師
開講期間	通年	単位数	6単位 (T4、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目 (工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース4年次必修科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

工芸工業デザイン学科の各選択領域において自由にテーマを設定し、学習した内容を踏まえた総括的な提案を基本とする。

授業は、テーマの設定、デザイン、制作、提出といった流れの通信授業を、その間数回に渡って教員が、面接授業として直接チェックし指導するという形式をとる。面接授業は、担当の専門分野の教員と協議の上、2 単位に相当する個人面接あるいはグループ面接の形で適宜分散して行う。

提出作品は、製品あるいはモデル、さらにはパネルによるプレゼンテーションなどあらゆる媒体を駆使した形で発表し、卒業制作展や Web 上で公表される。

【課題の概要】

生活環境デザインコースで学習した内容を踏まえ、各領域に於いて各自のテーマを自由に設定し、デザイン・制作しなさい。プロダクトデザイン系では、「生活環境計画Ⅰ」「生活環境デザイン研究」で学習した“エコデザイン”“ユニバーサルデザイン”等のテーマ、「生活環境計画Ⅱ」の各自のテーマを発展させて卒業制作のテーマにつなげていくことを推奨する。

【授業計画】

○通信授業

卒業制作のテーマ及びそのコンセプトの立案を最初の課題とし、その後はデザイン作業を深め卒業制作展示の形で発表する。

○面接授業

各自のテーマ及びそのコンセプトの検討、中間指導、展示および最終講評を内容とし、年間スケジュールに準拠した期日を目安に行う。担当教員との直接面談による指導を基本とするが、クラス別合同の形が適宜設定される。

- ・クラフトデザイン系各素材別クラスは、鷹の台工房が主な会場となるが各クラスにより、吉祥寺校の場合もある。
- ・テキスタイルクラスは面接授業内で工場見学（岐阜）を行う。
- ・期日など詳細は学習指導書及び月刊誌『武蔵美通信』等を参照のこと。

【成績評価の方法】

各ステップでの学習状況を勘案し、卒業制作講評の結果で行う。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4 年次

○履修条件

以下のすべての条件を満たすこと。

- ・工芸工業デザイン学科生活環境デザインコースに在籍していること。
- ・工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース 3 年次必修科目をすべて修得していること（「学生ハンドブック」p.051 の特例を除く）。
- ・工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース 4 年次必修科目の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考

工芸工業デザイン学科生活環境デザインコース 4 年次必修科目。

【教材等】

○学習指導書

『生活環境計画Ⅰ・Ⅱ / 生活環境デザイン研究 / 卒業制作 2020 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020 年）

【その他】

テキスタイルクラスは、学外見学（岐阜）がある。

科目名	スペースデザイン論						
授業コード	1330	授業科目名	スペースデザイン論	担当者	牧野良三教授、馬場美次講師、大野洋平講師		
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目 (工芸工業デザイン学科スペースデザインコース3年次必修科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

観察と想像—空間構成と表現—

我々を取り巻く環境は、様々な生活機器や建築物がそれぞれの役割を担いながら互いに影響し合い、我々の暮らしを支えている。ここで、視点や次元を変えて対象を観察すると、その組み合わせなどから様々な言葉や意味を感じ取ることが出来る。これは、造形言語と呼ばれる本来的に我々に備わっている共通の意識や感覚から生まれる、イメージを介したコミュニケーションと言っている。

スペースデザイン論では、我々の思いを誘発する共振力、触発力といった造形の持つ力を認識し、空間と造形の意味について考察する。また、空間構成を行う上で必要となるキーワード（イメージ、プロセス、構成）を手掛かりに、造形表現のための方法を探り、自身の造形表現の方法を見つけ出す契機となることを目指している。

【課題の概要】

○通信授業課題 物語性の発見

身近な環境の意味やイメージを造形的、空間的なものとして捉え、造形的表情と構成要素の関係を明確にして考察する。
Step1 日常の風景を画像として切り取り、画像から想起されるイメージや思いを200字程度にまとめ、コメントとして表す。

Step2 コメントに記されたイメージを定着させるために、エスキースケッチを繰り返し行い、造形表現のための準備をする。

Step3 イメージ構成として完成させる。

*課題については学習指導書『スペースデザイン論 2020年度』を必ず参照する事。

○面接授業課題

指定された楽曲のイメージの造形化、空間化を目標とするが、合わせて制作の過程をコンセプトボードとして制作する。

【授業計画】

○通信授業

教科書『スペースデザイン論』及び、学習指導書をよく読み、学習指導書の指示に従って提出する。

○面接授業

前半 第1日 前提講義 課題説明
エスキースケッチ制作
第2日 エスキースケッチ制作 コンセプト制作
中間発表
後半 第3日 模型制作 コンセプトボード制作
第4日 模型制作 コンセプトボード制作
発表 講評

【成績評価の方法】

通信授業と面接授業の評価による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

「インテリアデザインⅠ・Ⅱ」の単位を修得していること（スペースデザインコース3年次編入学生を除く）。

○備考

工芸工業デザイン学科スペースデザインコース3年次必修科目。

スペースデザインコース3年次編入学生でも、「インテリアデザインⅠ・Ⅱ」を履修することが望ましい。

【教材等】

○教科書

小石新八監修『スペースデザイン論』（武蔵野美術大学出版局 2003年）

寺原芳彦監修『インテリアデザイン』（武蔵野美術大学出版 2002年）

○学習指導書

『スペースデザイン論 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

【その他】

インテリア事典、映像イベント事典、現代デザイン事典などがコンパクトな参考書となるが、建築、インテリア、その他の雑誌類も新しい資料として役立つ。
身の回りの空間を見つめ直すためには、様々な作例の情報収集などにも注意しておく。

科目名	空間設計 I						
授業コード	1340	授業科目名	空間設計 I			担当者	牧野良三教授、大抜久敏講師、坂本周講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目 (工芸工業デザイン学科スペースデザインコース4年次必修科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

〔商空間の考察と設計〕

店舗や商業施設、展示会、ウインドウディスプレイなどにおける商空間の在り方を考える。授業では任意に設定した既存の商空間をリサーチし、その空間におけるデザインの意味や役割を分析し考察する。更にそれらの基礎データをもとに、あらたなデザインを企画し設計する。

商空間には企業やブランドのロゴタイプをはじめ展示される商品や広告映像など多様なデザイン要素が集積する。これらを編集し適正に消費者に伝達することと共に、創造的で個性的な空間も求められている。斬新な発想と現代的な商業価値を合致させるための商空間の新しい方向性を探る。

【課題の概要】

○通信授業課題

店舗のデザインリサーチと分析により商空間を論理的に考察する。

○面接授業課題

通信授業におけるデザインリサーチのデータをもとにあらたな空間設計を行う。

*課題については学習指導書『空間設計 I・II / スペースデザイン研究 / 卒業制作 2020 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

通信授業→面接授業

○通信授業

任意で地域の店舗を選択し、そのデザインリサーチを行う。リサーチの主眼として店舗を構成するデザイン要素を抽出し、分析する。すなわち店舗のサイン(看板)などにおける企業やブランドのロゴタイプ、色彩などのデザイン。店舗で販売される商品のデザイン。販売台や壁面、床など空間のデザイン。

リサーチの成果を面接授業の初日に各自プレゼンテーションを行う。

※ 通信課題を面接授業初日に必ず持参すること。

○面接授業

デザインリサーチに基づき独自の発想で店舗デザインを設計する。店舗のロゴタイプ、色彩、および商品など既存のデザインは通信授業で収集したデータを標準的に使用する。

第1日 前提講義、通信授業のプレゼンテーション

第2日 コンセプトメイキング

第3日 設計

第4日 制作実習

第5日 制作実習

第6日 プレゼンテーション、講評

【成績評価の方法】

通信授業および面接授業における課題への取り組み姿勢、プレゼンテーションの内容を主体に、出席状況を総合して評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4年次

○履修条件

スペースデザインコース3年次必修科目をすべて修得していること(「学生ハンドブック」p.051の特例を除く)。

○備考

工芸工業デザイン学科スペースデザインコース4年次必修科目。

【教材等】

○教科書

小石新八監修『スペースデザイン論』(武蔵野美術大学出版局 2003年)

寺原芳彦監修『インテリアデザイン』(武蔵野美術大学出版局 2002年)

○学習指導書

『空間設計 I・II / スペースデザイン研究 / 卒業制作 2020 年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年)

【その他】

教科書の他に、各種の専門誌、商業施設関連の単行本等も、参考書として適宜利用する。

リサーチ、設計等においてデジタルメディアの活用も組み入れていく。

科目名	空間設計 II						
授業コード	1350	授業科目名	空間設計 II			担当者	牧野良三教授、馬場美次講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目 (工芸工業デザイン学科スペースデザインコース4年次必修科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

空間を語る上で欠くことの出来ないエレメントのひとつである光は、効果的な演出により空間に表情を与える。空間の構造や機能と光の密接な関係を探りながら、光の特性を効果的に用いることで生まれる新しい空間の在り方を考察する。公共空間（商業施設、文化施設など）に於ける光の演出や、劇場空間での光の効果などを参考に、光と影を活用した空間の演出プランとその方法も探る。

【課題の概要】

○面接授業課題〔光と空間の造形〕

光の特性と演出効果を用いた照明の基本実習。

演出テーマに向けた照明計画とその表現方法の確立。

○通信授業課題〔光と空間の演出効果〕

光と空間の造形をまとめ、新たに設定されるコンセプトによる照明計画とその展開をまとめる。

*課題については学習指導書『空間設計 I・II / スペースデザイン研究 / 卒業制作 2020 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

面接授業→通信授業

○面接授業

第1日 前提講義、課題説明、テーマ設定①

第2日 照明実験、表現実習

第3日 表現実習

第4日 テーマ設定②、照明実験

第5日 表現実習

第6日 表現実習、講評

○通信授業

面接授業の光と空間の造形をまとめて、分析する。写真、図表、図面、見取図等によるレポートとして提出。

【成績評価の方法】

通信授業と面接授業を総合的に評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4年次

○履修条件

スペースデザインコース3年次必修科目の単位をすべて修得していること（「学生ハンドブック」p.051の特例を除く）。

○備考

工芸工業デザイン学科スペースデザインコース4年次必修科目。

【教材等】

○教科書

小石新八監修『スペースデザイン論』（武蔵野美術大学出版局 2003年）

寺原芳彦監修『インテリアデザイン』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

○学習指導書

『空間設計 I・II / スペースデザイン研究 / 卒業制作 2020 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

【その他】

グループワークあり。

科目名	スペースデザイン研究						
授業コード	1360	授業科目名	スペースデザイン研究			担当者	牧野良三教授、車田幸道講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目 (工芸工業デザイン学科スペースデザインコース4年次必修科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

[劇空間の演出性の考察と表現]

都市には、様々な演出された空間が混在する。例えば、イベントのための空間、演劇等の上演のための空間など特定の目的をもった施設、照明や造形物によって新たな意味を加えていく環境演出など多様な事例がある。その中軸となるのは、空間に劇的要素を加える演劇的手法である。テーマに応じて表現メディアをどのように組み合わせるか、演出手法の分析を通して学習する。

【課題の概要】

○面接授業課題

前半：劇的な空間表現手法の解説と事例の学習。台本分析。

後半：テーマを設定して、イメージを展開していく。

○通信授業課題

面接授業で実習したテーマのイメージスケッチ及び見取図を完成し、提出する。

* 課題については学習指導書『空間設計 I・II / スペースデザイン研究 / 卒業制作 2020 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

面接授業→通信授業

○面接授業

第1日 前提講義と課題説明

第2日 コンセプト作成と資料収集

第3日 イメージデザインの提示

第4日 イメージドローイング

第5日 ドローイングとプレゼンテーション・ボードの制作

第6日 制作、発表と講評

○通信授業

面接授業で指定された空間とテーマに則して、スケッチと図面及び完成予想図を作成する。

【成績評価の方法】

通信授業と面接授業を総合的に評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4年次

○履修条件

スペースデザインコース3年次必修科目の単位をすべて修得していること（「学生ハンドブック」p.051の特例を除く）。

○備考

工芸工業デザイン学科スペースデザインコース4年次必修科目。

【教材等】

○教科書

小石新八監修『スペースデザイン論』（武蔵野美術大学出版局 2003年）

寺原芳彦監修『インテリアデザイン』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

○学習指導書

『空間設計 I・II / スペースデザイン研究 / 卒業制作 2020 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

【その他】

教科書の他、面接授業では劇場、イベント、テーマパークなどの事例を紹介する。

人工的な空間ばかりでなく都市と自然の関係にも対応して授業を進める予定。

科目名	卒業制作						
授業コード	1850	授業科目名	卒業制作			担当者	牧野良三教授、山本博一講師、富谷智講師
開講期間	通年	単位数	6単位 (T4、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目 (工芸工業デザイン学科スペースデザインコース4年次必修科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

工芸工業デザイン学科スペースデザインコースの領域において自由にテーマを設定し、選択した各領域で学習した内容を踏まえた総括的な提案を基本とする。

授業は、テーマの設定、デザイン、制作、提出といった流れの通信授業を、その間数回に渡って教員が、面接授業として直接チェックし指導するという形式をとる。面接授業は、担当の専門分野の教員と協議の上、2単位に相当する個人面接あるいはグループ面接の形で適宜分散して行う。

提出作品は、製品あるいはモデル、さらにはパネルによるプレゼンテーションなどあらゆる媒体を駆使した形で発表し、卒業制作展や Web 上で公表される。

【課題の概要】

スペースデザインコースで学習した内容を踏まえ、各領域に於いて各自のテーマを自由に設定し、デザイン・制作しなさい。

【授業計画】

○通信授業

卒業制作のテーマ及びそのコンセプトの立案を最初の課題とし、その後はデザイン作業を深め卒業制作展示の形で発表する。

○面接授業

各自のテーマ及びそのコンセプトの検討、中間指導、展示および最終講評を内容とし、年間スケジュールに準拠した期日を目安に行う。担当教員との直接面談による指導を基本とする。

・期日など詳細は学習指導書及び月刊誌『武蔵美通信』等を参照のこと。

【成績評価の方法】

各ステップでの学習状況を勘案し、卒業制作講評の結果で行う。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4年次

○履修条件

以下のすべての条件を満たすこと。

・工芸工業デザイン学科スペースデザインコースに在籍していること。

・工芸工業デザイン学科スペースデザインコース 3年次必修科目をすべて修得していること（「学生ハンドブック」p.051の特例を除く）。

・工芸工業デザイン学科スペースデザインコース 4年次必修科目の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考

工芸工業デザイン学科スペースデザインコース 4年次必修科目。

【教材等】

○学習指導書

『空間設計Ⅰ・Ⅱ / スペースデザイン研究 / 卒業制作 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

科目名	ミュゼオロジー I						
授業コード	1370	授業科目名	ミュゼオロジー I			担当者	新見隆教授、 河原啓子講 師、中島智講 師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、 S1)	学年	3~4	指定	
科目区分	造形専門科目 (芸術文化学科各コース3年次必修科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

「ミュゼオロジー (博物館学)」の概念についての基本的理解を獲得し、世界と日本における博物館の成立から現在までの展開、現行の博物館法に基づく博物館の定義と分類、博物館と博覧会等との関係、博物館における資料の条件と区分法、資料の保存と公開との関係、現代のヨーロッパと日本における博物館の動向、博物館の施設と活動との関係などについての基礎的知識を、美術館の事例を中心として学修すること。

【課題の概要】

○面接授業課題

学芸員の業務や美術館活動の実際を、講義と見学、グループ議論等により指導。

○通信授業課題

教材による学習の後、博物館施設の事例調査に基づく研究を課題とする学修報告書を課し、添削指導を行う。

*課題については学習指導書『ミュゼオロジー I 2020 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

面接授業→通信授業

○面接授業

- ・コレクション形成と美術館の成立／美術館と展覧会／学芸員の業務／美術館評価／美術館の動向 等
- ・美術館見学／学芸員・職員による説明／施設、展示、来場者等に関する調査
- ・見学施設への美術館評価のグループ発表と講評指導

○通信授業

- ・(教材による学習) ミュゼオロジーの概念／ミュージアム体験の意味／博物館法／博物館の種類／ミュージアムの歴史／各国博物館の特徴と社会背景／設置形態と収集理念／ミュージアムの空間／キュレーターの視点 等
- ・(学修報告と添削指導) 美術館の人・物・場の関係について事例調査に基づく研究

【成績評価の方法】

通信授業、面接授業評価の平均点とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3 年次～

○履修条件

「デザインリサーチ I・II」の単位を修得していること (芸術文化学科各コース 3 年次編入学生を除く)。

○備考

芸術文化学科各コース 3 年次必修科目。

芸術文化学科以外の学芸員課程履修者は、「デザインリサーチ I・II」の単位修得が無くても履修できる。

【教材等】

○教科書

新見隆編『ミュゼオロジーへの招待』(武蔵野美術大学出版局 2015 年)

○学習指導書

『ミュゼオロジー I 2020 年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020 年)

【その他】

日頃からできるだけさまざまなミュージアムに実際に足を運び、そこで何を見て、体験し、そして何を感じたかについて振り返りつつ、学習をすすめてほしい。

また、レポート作成の際は、課題の趣旨を理解するために、よく学習指導書を読むこと。

学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。

面接授業ではグループワーク及び学外見学を予定。

科目名	造形民俗学						
授業コード	1380	授業科目名	造形民俗学			担当者	亀井好恵講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	3~4	指定	
科目区分	造形専門科目 (芸術文化学科造形研究コース3年次必修科目、文化支援コース3年次選択必修科目)						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

ここでは、民具とよばれる道具類を対象として日本、日本人の築きあげてきた生活文化、生活意識のありようを考える。民具は比較的身近にある材料を素材として、伝統的な技法で作られ、日常生活に欠くことのできない必須のものとして使い続けられてきたものである。特別なモノではない。存在するのが当たり前として研究や観賞の対象として取り上げられることもなかったものである。しかし、それらの一つ一つを取り上げて、制作技術、使用方法、暮らしの中での役割・機能等を仔細に観察する時、そのモノに込められた作る人、使う人の心情をも読み取ることができる筈である。それこそが造形やデザインの原点ともなるものであろう。

【課題の概要】

○通信授業課題 1「伝統的生活用具の機能と造形」

伝統的だと考えられる生活用具（民具）の一つを取り上げて、そのものの使われ方、生活の中での役割、機能をそのものに即して具体的に調査・研究し、その形の持つ意味を考察すること。本文 2000～3000字以内にまとめ、他に形態、大きさのわかる計測図を何点かつけること。ものによっては使い方等も図示すること。なお参考文献、引用文献は当然のことであるが明確に示すこと。引用部分は「」でくくって示すこと。

○通信授業課題 2「新しい生活用具の導入と生活の変化」

1960年代以降の高度経済成長等による急速な社会変化にともなって、新しい生活機器類（農器具・電気器具等）が導入普及され、従来の民具がそれに置き換えられる傾向が広範にみられる。それらの機器が家庭内に入ることによって、生活の中には変わった部面とそれにもかかわらず変化のない側面があるはずである。具体的に一つの機器あるいは民具を取り上げて調査・研究し、レポートすること。本文2000～3000字以内にまとめること。また大きさのわかる計測図を何点かつけること。なお参考文献、引用文献は当然のことであるが明確に示すこと。引用部分は「」でくくって示すこと。

*課題については学習指導書『造形民俗学 2020年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書として使用する『藁の力』は、ここで対象とする造形物（民具）の研究方法を具体的に提示したものであるからそれを十分に読み込み、研究・調査、観察の手引きとすること。

【成績評価の方法】

科目試験は行わない。通信課題のみによって評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位を修得していること（芸術文化学科各コース3年次編入学生を除く）。

○備考

芸術文化学科造形研究コース3年次必修科目。

芸術文化学科文化支援コース3年次選択必修科目。

【教材等】

○教科書

田村善次郎、佐藤健一郎『藁の力』（淡交社 1996年）

○学習指導書

『造形民俗学 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

科目名	メディア論						
授業コード	1390	授業科目名	メディア論			担当者	金子伸二教授、岡川純子講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目 (芸術文化学科文化支援コース3年次必修科目、造形研究コース3年次選択必修科目)						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

社会における情報・知識の拠点としての博物館の役割を理解するとともに、博物館活動においてメディアが果たしている教育・普及・研究面での機能を、メディアを活用した展示や資料解説、インターネットによる情報サービス、美術館における画像等のデータ活用などを題材に、メディア・リテラシーの視点から学ぶことで、メディアの形式と情報の意味との関係を把握し、情報発信の担い手としての知見と責任意識を獲得すること。

【課題の概要】

○通信授業課題 1、2

教材による学習の後、博物館を見学調査する。博物館内での情報発信の取り組み、視聴覚メディアによる展示解説の調査報告をまとめる。博物館における情報やメディアの扱い、活用、その効果と可能性を考察する 2 点の学修報告書を課し、個々に添削指導を行う。

*課題については学習指導書『メディア論 2020 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

・(教材による学習) 教育におけるメディア活用/視聴覚教育の源流と展開/視聴覚メディアの諸形態/メディアの概念と歴史/メディア「による」教育と、メディア「についての」教育/メディア・リテラシー教育の成立と展開/博物館におけるメッセージ伝達/メディアを活用した展示/教育の情報化/メディアに関わる諸権利等

・(学修報告と添削指導) 博物館内における情報発信の取り組みについての調査/博物館展示における視聴覚メディアを用いた展示解説の調査

【成績評価の方法】

通信授業課題 1 と 2 を総合して評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3 年次～

○履修条件

「デザインリサーチ I・II」の単位を修得していること (芸術文化学科各コース 3 年次編入学生を除く)。

○備考

芸術文化学科文化支援コース 3 年次必修科目。

芸術文化学科造形研究コース 3 年次選択必修科目。

芸術文化学科以外の学芸員課程履修者は、「デザインリサーチ I・II」の単位修得が無くても履修できる。

【教材等】

○教科書

佐賀啓男編著『改訂 視聴覚メディアと教育』(樹村房 2010 年)

○学習指導書

『メディア論 2020 年度』(武蔵野美術大学造形大学通信教育課程 2020 年)

【その他】

○参考文献

『メディア・リテラシー』(菅谷明子著 岩波書店 2000 年)ほか

学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。

科目名	編集研究						
授業コード	1400	授業科目名	編集研究			担当者	田村裕教授、 金子伸二教授
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、 S1)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目 (芸術文化学科各コース3年次必修科目)						
授業形態	通信授業 (科目試験あり) 面接授業						

【授業の概要と目標】

芸術文化を社会に伝えるうえで出版編集が果たしてきた役割とは何か？ 主に出版メディアを対象に、編集意図や主張、恣意性、作為性を読み取り、政治・社会への働きかけや流行・文化との関係、執筆者や読者との関係、編まれ方の変遷などについて、観察と構造的な分析・研究を行なうことで、編集の役割について考える。

【課題の概要】

○通信授業課題

A6判 16ページの小冊子の編集制作および 800字程度の「制作レポート」(学習指導書参照)。

○面接授業課題

出席による学習と、グループ・ディスカッションにおける積極発言を期待する。

*課題については学習指導書『編集研究 2020年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書に収録された以下の文章を批判的に検討し、自分の考え方を明確にして、小論文執筆の構想を練る。教科書の構成は以下のとおり。

「第一部」編集とは何か、プロデューサー(統括者)としての編集者、《編集》行為からみた宮沢賢治の《文学行為》、美術全集と東山魁夷

「第二部」書籍の装釘の話(内田魯庵、昭和3年)、教化機関としての小説及び浮世絵(市島春城、大正14年)、『文章世界』のこと(前田晃、昭和17年)、挿絵文化の意義(木村毅、昭和16年)

○面接授業

第1日 前提講義、造本・印刷・編集と挿絵表現に関する講義、実物観察、編集研究のための基礎学習。

第2日「表現」としての編集行為に関する講義、編集研究のための基礎学習。

第3日 編集研究事例及び電子書籍とデジタル情報資源の活用に関する講義、実物観察、本を構造的に読み取るための観察分析トレーニング(グループ・ディスカッション)。

【成績評価の方法】

◎科目試験

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位を修得していること(芸術文化学科各コース3年次編入学生を除く)。

○備考

芸術文化学科各コース3年次必修科目。

スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

○教科書

酒井道夫編『教養としての編集』(武蔵野美術大学出版局 2009年)

○学習指導書

『編集研究 2020年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年)

【その他】

面接授業3日目にグループ・ディスカッションを行う。

科目名	博物館資料保存論						
授業コード	2240	授業科目名	博物館資料保存論			担当者	金子伸二教授、 神庭信幸講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目 (芸術文化学科各コース選択科目)						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

博物館において資料を保存することの意義と保存の歴史、文化財保存の理念、保存を支える関係要素を理解したうえで、資料の材質・形状・状態に合わせた調査・保存・修理方法、資料の劣化因子と保存のための環境整備の重要性を認識し、あわせて展示・梱包・輸送など博物館活動に伴う資料の扱いと保存との関係などへの考察を通して、博物館における資料保存のための基礎的知識を、美術工芸、考古、民俗資料を中心として学ぶ。

【課題の概要】

○通信授業課題 1、2

教材による学習の後、博物館における資料の保存と公開の取り組みに関する事例研究、資料の劣化につながる保存環境因子についての調査報告の2点の学修報告書を課し、個々に添削指導を行う。

【授業計画】

○通信授業

・(教材による学習) 博物館における資料保存の意義(文化財資料に求めるもの/保全をおびやかすリスクとは/臨床的保存の必要性/職業倫理/資料保存を支える専門家)、環境と資料の状態診断(資料の保存公開と環境の関係/環境をモニタリングして状態を評価する/資料の調査診断と記録)、環境と予防保存(環境を改善して資料を保全する/博物館資料を安全に輸送する/保存箱で安全な環境をつくる)、劣化と修理保存(修理を行う前に状態を調査する/対症修理と本格修理の役割/修理報告書を作成する/本格修理の事例)、教育と普及(保存活動の公開/保存教育)、環境保護と博物館の役割(低炭素社会との共存/自然災害への対応/環境と調和する資料保存)

・(学修報告と添削指導) 博物館における資料の保存公開活動の事例研究/資料劣化につながる環境因子についての調査報告

【成績評価の方法】

通信授業課題をもとに評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位を修得していること(芸術文化学科各コース3年次編入学生を除く)。

○備考

芸術文化学科各コース3～4年次選択科目。

芸術文化学科以外の学芸員課程履修者は、「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位修得が無くても履修できる。

【教材等】

○教科書

神庭信幸著『博物館資料の臨床保存学』(武蔵野美術大学出版局 2014年)

○学習指導書

『博物館資料保存論 2020年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年)

【その他】

学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。

科目名	博物館展示論						
授業コード	2250	授業科目名	博物館展示論			担当者	田村裕教授、 牧野良三教 授、足立圭講 師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目 (芸術文化学科各コース選択科目)						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

博物館における展示活動の起源と変遷、近年の動向を把握したうえで、展示を成り立たせる条件、展示の目的と形式との関係、展示を構成する諸要素、展示計画の進め方についての基礎的な知識を学修し、あわせて展示という行為に伴う課題や展示において求められる配慮に対する意識を養い、展覧会の企画趣旨と資料の特性や空間の条件、来場者の状態やニーズを勘案した展示計画の基本構想を立案し伝達する能力を獲得すること。

【課題の概要】

○通信授業課題 1、2

教材による学習の後、実際の博物館展示から企画趣旨と展示構成との関係を観察・把握し評価・改善提案を行う事例研究、収集された身近な事物を資料と見立てた小規模展示を計画し、実施した結果を記録・文書化する2点の学修報告書を課し、個々に添削指導を行う。

【授業計画】

○通信授業

・(教材による学習) 博物館機能での展示の位置/展示の起源と展示学の成立/展示のインタラクティブ化・デジタル化/展示活動のプロセスと体制/展示に関する諸法令/館種等による展示の違い/展示を構成する諸要素/展示における解説活動/展示での資料劣化と管理/映像展示の特徴/展示におけるバリアフリー/展示の政治性・社会性/展示と知的財産権 等

・(学修報告と添削指導) 展示の企画と構成との関係を把握し評価を行う事例研究/身近な事物を資料とした小規模展示の計画と実施

【成績評価の方法】

通信授業課題をもとに評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位を修得していること(芸術文化学科各コース3年次編入学生を除く)。

○備考

芸術文化学科各コース3～4年次選択科目。

芸術文化学科以外の学芸員課程履修者は、「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位修得が無くても履修できる。

【教材等】

○教科書

日本展示学会編『展示論 博物館の展示をつくる』(雄山閣 2010年)

○学習指導書

『博物館展示論 2020年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年)

【その他】

学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。

科目名	博物館教育論						
授業コード	2260	授業科目名	博物館教育論			担当者	三澤一実教授、金子伸二教授、松永康講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	3~4	指定	
科目区分	造形専門科目 (芸術文化学科各コース選択科目)						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

社会教育施設としての博物館の役割と博物館における教育的機能の種類や特徴を理解したうえで、実際の活動事例の把握を踏まえて、活動実践のための考え方や具体化に向けた手法、学校や地域社会など館外との連携のあり方などを、美術館における教育普及活動を中心的な題材として学び、博物館における教育活動への理解を深めるとともに、教育の担い手としての基本的な認識と活動計画のための基礎的な能力を獲得すること。

【課題の概要】

○通信授業課題 1、2

教材による学習の後、博物館で行われている教育プログラムに参加しその目的と内容構成について考察する事例研究、博物館における教育プログラム案および関連ツールの作成の2点の学修報告書を課し、個々に添削指導を行う。

【授業計画】

○通信授業

・(教材による学習) 博物館における教育活動の背景/学校教育との関係/来館者とのかかわり/博物館の種類に応じた取り組み事例/博物館とまちづくり/体験型展示/ワークシートの位置づけと事例/ワークシート開発の流れと留意点/学校における鑑賞教育事業 等

・(学修報告と添削指導) 教育プログラムの目的と内容構成を考察する事例研究/教育プログラムの立案と実施のための関連ツール制作

【成績評価の方法】

通信授業課題をもとに評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位を修得していること(芸術文化学科各コース3年次編入学生を除く)。

○備考

芸術文化学科各コース3～4年次選択科目。

芸術文化学科以外の学芸員課程履修者は、「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位修得が無くても履修できる。

【教材等】

○教科書

小笠原喜康、チルドレンズ・ミュージアム研究会編著『博物館の学びをつくりだす その実践へのアドバイス』(ぎょうせい 2006年)

○学習指導書

『博物館教育論 2020年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年)

【その他】

学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。

科目名	造形学概論						
授業コード	1410	授業科目名	造形学概論			担当者	金子伸二教授
開講期間	通年	単位数	2単位 (T2)	学年	3~4	指定	
科目区分	造形専門科目 (芸術文化学科造形研究コース3年次必修科目、文化支援コース3年次選択必修科目)						
授業形態	通信授業 (web提出可、科目試験あり)						

【授業の概要と目標】

造形にかかわる諸学についてその成立事情と問題意識を把握することを通して、造形研究の基本的な視座を獲得することを目的とする。授業では、近・現代日本における造形関連諸学の文献研究を行う。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

教科書の読解を踏まえて、美学、芸術学、美術史学等、造形関連諸学の成り立ちについて考える課題。

○通信授業課題 2

近・現代日本における造形関連文献の精読を通して、造形と学問との関係について考える課題。

* 課題については学習指導書『造形学概論 2020年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書による。

- 第1章 美術の枠組み
- 第2章 美的経験と感覚
- 第3章 美をめぐる知識
- 第4章 芸術家という個性
- 第5章 純粹なる作品
- 第6章 生活からの離脱
- 第7章 美術と造形

【成績評価の方法】

◎科目試験

教科書の該当部分を中心に出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位を修得していること (芸術文化学科各コース3年次編入学生を除く)。

○備考

芸術文化学科造形研究コース3年次必修科目。

芸術文化学科文化支援コース3年次選択必修科目。

【教材等】

○教科書

金子伸二『造形学概論』(武蔵野美術大学出版局 2004年)

○学習指導書

『造形学概論 2020年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年)

科目名	資料情報処理						
授業コード	1420	授業科目名	資料情報処理			担当者	堀越洋一郎講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目 (芸術文化学科造形研究コース4年次必修科目)						
授業形態	通信授業 (web提出可) 面接授業						

【授業の概要と目標】

美術を広く人々の「鑑賞」に提供することを企画する者にとって、資料情報処理の理論を学ぶことは不可欠である。美術に関する各種データの研究及び表現の基礎として、美術資料及び情報の処理について研究する科目である。美術・デザイン分野で扱う資料は文字情報のみならず、作品写真等の静止画像や映画、ビデオ等の動画像、音楽等の音声等多様であり、記録メディアも、印刷物から電子メディアまで多種類にわたるが、最近ではインターネット上での情報提供に見られるように、資料の電子化（デジタル化）が情報共有のために重要になってきている。この科目では、多様な資料の特性、資料の収集から整理／提示手法、特にデータベース化などの電子化に関して学習する。通信授業では、文献資料の収集、書目、書誌、索引等の参考図書やレファレンスツールを理解し、面接授業では、図書や Web を通じた文献・画像資料の検索演習、個々人で小規模な書目類のデータベースを制作することを通して資料の収集、分析、再構築により様々な情報資源について理解することを目標とする。

【課題の概要】

○通信授業課題

各自が利用できる図書館に行き、各自が決めたテーマ（美術史、デザイン分野など）についての参考図書を調査し、それを基に、レポート作成する。

○面接授業課題

個々人で小規模な書目類のデータベースを、市販ソフトウェア（FileMaker Pro.）を使って制作する。収録データについては、手持ちの資料等より各自が選んで収集する。

*課題については学習指導書『資料情報処理 2020 年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

美術を鑑賞に供するとはどういうことか。そのために必要なメディアや技術を理解するため、以下の項目を内容とする。制作にあたっては、学習指導書を精読してから取り組むこと。

- ・美術・デザイン分野の書目、書誌、索引等参考図書、Web（レファレンスツール）の概要。
- ・作品情報（作品写真、履歴、展覧会出品履歴等）、作家情報（氏名、生没年、参考文献、年譜等）の実例（記述項目、表記）を所蔵品目録、展覧会カタログ、カタログレゾネで検証するプロセス等。

○面接授業

- ・参考図書や Web 上の美術・デザイン分野のデータベースの紹介と検索演習。
- ・個々人のテーマに沿った小規模なデータベースを制作する。

スクーリング前に各自が制作するデータベースのテーマについてメールで提出すること。提出方法はネットフォーラムを参照すること。

【成績評価の方法】

○通信授業

課題に関するレポートの調査、考察の深度、完成度（レイアウト等）。

○面接授業

作成したデータベースの完成度。

以上を総合的に評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4 年次

○履修条件

造形研究コース 3 年次必修科目の単位をすべて修得していること（「学生ハンドブック」p.051 の特例を除く）。

○備考

芸術文化学科造形研究コース 4 年次必修科目。

スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

○教科書

藤田節子『図書館活用術 新訂第 3 版』（日外アソシエーツ 2011 年）

○学習指導書

『資料情報処理 2020 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020 年）

【その他】

面接授業では第 1 日目に学外見学を予定。

科目名	媒体組成研究						
授業コード	1430	授業科目名	媒体組成研究			担当者	金子伸二教授、前多令子講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T2、S1)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目 (芸術文化学科造形研究コース4年次必修科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

芸術文化とりわけ造形芸術は、材料やその使用技法という物質的な要素を抜きに存在しえない。この授業では、造形芸術におけるこうした物質的要素を、記録や伝達、表現といった機能を個別的な作品として成立させる媒体としてとらえ、その時代的・地域的な特性や、例えば絵画における壁画・タブロー・挿絵等といった媒体の形式と美術館・印刷物・映像等による作品の鑑賞・受容のあり方とのかかわりを把握することをおして、造形芸術に対するより深い理解を獲得することを目的とする。通信授業では、造形芸術と媒体とのかかわりについて、近代における複製技術の役割を中心に、理論的・歴史的観点から学習する。面接授業では、研究のケーススタディとして、今日まで造形芸術の主要な媒体の一つとなってきた書物について、その素材や構造を伝統的な書物工芸によりながら学習する。

【課題の概要】

○面接授業課題

書物工芸の歴史についての理解をもとに、西洋と日本の書物における材料・技法の特性と書物の機能について分析する課題。

○通信授業課題 1・2

教科書の読解をおして得られた理解をもとに、近代の造形芸術における媒体の変化および複製の概念について考察する課題。

*課題については学習指導書『媒体組成研究 2020年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

○面接授業

- ・書物工芸の歴史に関する前提講義と博物館等の見学。
- ・書物の材料・技法と機能の分析に関する演習 (西洋の書物)
- ・書物の材料・技法と機能の分析に関する演習 (日本の書物)
- ・演習の報告と総括

○通信授業

教科書 (とりわけ、芸術作品におけるアウラの複製技術による凋落についての論述) の精読、参考文献等の資料調査およびレポートの作成。

【成績評価の方法】

○通信授業

レポートによる。

○面接授業

演習での報告による。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4年次

○履修条件

造形研究コース3年次必修科目の単位をすべて修得していること (「学生ハンドブック」p.051の特例を除く)。

○備考

芸術文化学科造形研究コース4年次必修科目。

「印刷文化論」、「ブックバイディング」の単位を修得しておくことが望ましい。

スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

○教科書

ヴァルター・ベンヤミン「複製技術の時代における芸術作品」『ボードレール他五篇』所収 (岩波書店 1994年)

○学習指導書

『媒体組成研究 2020年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年)

【その他】

面接授業では学外見学を予定。

科目名	造形学研究						
授業コード	1440	授業科目名	造形学研究			担当者	田村裕教授、 金子伸二教授、 坂上桂子 講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T3)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目 (芸術文化学科造形研究コース4年次必修科目)						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

造形研究の多様な視点を把握し、各自の研究の立脚点を把握する視点を構築することを目的とする。様々な方法論を、歴史的に遡及して探索したうえで、その今日的な意味を検討する。授業では、研究のための基礎資料の収集と分析を行う。

【課題の概要】

○通信授業課題 1～3

特定の主題に関する基本文献の探索と学説を把握する課題。

*課題については学習指導書『造形学研究 2020年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書による。

- ・モダニズムを超えるために
- ・ヌードのへそ
- ・通俗造形論
- ・私的マンガ論
- ・ノート
- ・リズム都市・浅草
- ・「紙のうえの都市」フィールドノート
- ・20世紀デザイン運動の意味
- ・「装釘時代」について

【成績評価の方法】

レポートによる。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4年次

○履修条件

造形研究コース3年次必修科目の単位をすべて修得していること（「学生ハンドブック」p.051の特例を除く）。

○備考

芸術文化学科造形研究コース4年次必修科目。

【教材等】

○教科書

『造形学研究』（武蔵野美術大学出版局 2003年）

○学習指導書

『造形学研究 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

科目名	卒業制作						
授業コード	1860	授業科目名	卒業制作			担当者	田村裕教授、 金子伸二教授
開講期間	通年	単位数	6単位 (T4、 S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目 (芸術文化学科造形研究コース4年次必修科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

卒業論文の制作。大学で学ぶということは、すなわち自ら課題を発見し、その研究の仕方を身につけるということである。このことは、本学が美術大学だからといって、変わるものではない。美術大学とは、美術作品やデザイン製品の制作技法を習得する場であるだけでなく、美術やデザインにかかわる現象を学的に捉え探究する場でもあるからである。とりわけ、芸術と社会とを結びつける接点を主な領域としている芸術文化学科においては、その方法においても真摯な学問的姿勢が求められることになる。それゆえ本学科における学習の最終成果としての研究論文の制作は、きわめて大きな意味を有している。この重要性は、将来的に教育・研究の職に進む場合に限られるものではない。なぜなら、一つの研究論文を制作することは、その制作の過程を通して、自らの認識基盤への省察を促すとともに、知的領野を拡大させ、問題意識を深化させる有効な手だてであり、そこで獲得した種々の理解は、今後の生活や仕事の様々な局面において活用されうるものだからである。本科目では、各自が問題を設定するとともに、その探究のための方法を獲得して、学部卒業に相応しい研究論文を完成させることを目標とする。

【課題の概要】

芸術文化学の領域において主題を設定して研究を行い、論文を制作する。最終的な論文提出のほかに、途中の通信授業および面接授業において、制作経過についての報告書作成や発表等が課せられる。

*課題については学習指導書『卒業制作 2020年度 (芸術文化学科)』を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

制作経過の報告書を作成する。最終的な論文提出までに、学習指導書に記載された所定の時期に報告書を複数回提出し、教員のチェックを受ける。

初回の研究計画書の提出期限は5月9日必着。

○面接授業

研究の進め方や論文制作の技法等についての講義、および受講者の研究状況についての発表等。

【成績評価の方法】

論文と提出後の講評との総合評価。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4年次

○履修条件

以下のすべての条件を満たすこと。

- ・芸術文化学科各コースに在籍していること。
- ・芸術文化学科各コース3年次必修科目の単位をすべて修得していること (『学生ハンドブック』p.051の特例を除く)。
- ・芸術文化学科各コース4年次必修科目の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考

芸術文化学科各コース4年次必修科目。

【教材等】

○学習指導書

『卒業制作 2020年度 (芸術文化学科)』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年)

科目名	生涯学習概論						
授業コード	1450	授業科目名	生涯学習概論			担当者	加藤幸治教授、紫牟田伸子講師、田中洋江講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目 (芸術文化学科文化支援コース3年次必修科目、造形研究コース3年次選択必修科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

「自ら学ぶ」ことを中心テーマとし、誰もが・いつでも・どこでも学べる生涯学習社会の実現が提唱されて以来の教育施策の理念と具体的な歩みを把握したうえで、博物館と美術館を中心として、図書館や公民館などの社会教育機関が市民の学習活動に貢献するために必要な取り組みを理解し、生涯にわたって学習を継続するうえで求められる基本的態度を自らが獲得するとともに、他者の学習を支援することへの意識を高めることを目標とする。

【課題の概要】

○面接授業課題

博物館の生涯学習活用について講義と見学、グループ議論等により指導。

○通信授業課題

教材による学習の後、社会教育施設の事例調査に基づく活動事業提案を課題とする学修報告書を課し、添削指導を行う。

*課題については学習指導書『生涯学習概論 2020年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

面接授業→通信授業

○面接授業

スクーリング受講前に教科書をよく読むこと。

- ・博物館資料から学びを構成する／情報を知識にするための場／教化装置としての博物館 等
- ・施設見学／職員による説明／施設の運営と学習への対応／学習情報提供の観察
- ・調査発表と質疑応答／発表への講評とディスカッション

○通信授業

・(教材による学習) 生涯学習実践者としての学芸員／生涯学習の基本／実物学習の価値／ラングランの理念／生涯学習行政の展開／生涯学習における指導者の役割／生涯学習の先達者たち／社会的条件と学びとの関係／社会教育における出会いと自己発見 等

・(学修報告と添削指導) 社会教育施設の事例調査に基づく活動プログラム提案

【成績評価の方法】

通信授業と面接授業との総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位を修得していること (芸術文化学科各コース3年次編入学生を除く)。

○備考

芸術文化学科文化支援コース3年次必修科目。

芸術文化学科造形研究コース3年次選択必修科目。

芸術文化学科以外の学芸員課程履修者は、「デザインリサーチⅠ・Ⅱ」の単位修得が無くとも履修できる。

スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

○教科書

神野善治監修『ミュージアムと生涯学習』(武蔵野美術大学出版局 2008年)

○学習指導書

『生涯学習概論 2020年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年)

【その他】

レポート作成の際は、課題の趣旨を理解するために、よく学習指導書を読むこと。

学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。

面接授業ではグループワーク及び学外見学を予定。

科目名	ミュージオロジー II						
授業コード	1460	授業科目名	ミュージオロジー II			担当者	金子伸二教授、杉浦幸子教授、嘉藤笑子講師、弘中智子講師、若山満大講師
開講期間	通年	単位数	4単位 (T4)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目 (芸術文化学科文化支援コース4年次必修科目)						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

「ミュージオロジー」概念についての理解を踏まえ、博物館の経営（経営基盤、管理・運営、他機関・地域連携等）と資料（収集、整理保管、活用、調査研究等）に関する基礎的な知識を修得するとともに、美術館を中心とした国内外の博物館の具体的な諸事例を通じて、博物館における機能や事業との関連、今日の動向や課題について学修すること。

【課題の概要】

○通信授業課題 1～4

教材による学習の後、資料収集の意義に関する事例調査、収蔵資料と企画展示との関係、博物館の個性化・多様化傾向の要因、文化行政の変化と博物館の役割を考察する4点の学修報告書を課し、個々に添削指導を行う。

*課題については学習指導書『ミュージオロジー II 2020年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

・(教材による学習) ミュージアムと経営(組織・人材/行財政/使命・評価/施設・設備/教育)、ミュージアムと資料(理念/収集/調査・研究/整理/活用)等

・(学修報告と添削指導) 資料収集の意義に関する事例調査/収蔵資料と企画展示との関係についての考察/博物館の個性化・多様化傾向の要因についての考察/文化行政の変化と博物館の役割についての考察

【成績評価の方法】

レポートによる。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4年次

○履修条件

文化支援コース3年次必修科目の単位をすべて修得していること(「学生ハンドブック」p.051の特例を除く)。

○備考

芸術文化学科文化支援コース4年次必修科目。

芸術文化学科文化支援コース以外の学芸員課程履修者は、学芸員課程の3年次担当科目の単位をすべて修得していれば履修できる。

【教材等】

○教科書

金子伸二・杉浦幸子編『ミュージオロジーの展開 経営論・資料論』(武蔵野美術大学出版局 2016年)

○学習指導書

『ミュージオロジー II 2020年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年)

【その他】

現場での体験を得るために、美術館・博物館などが募集するボランティア活動などに積極的に参加することが望ましい。インターネットなどを活用し、情報を収集する。

学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。

科目名	博物館実習						
授業コード	1470	授業科目名	博物館実習			担当者	新見隆教授、 榎本寿紀講師、 嘉藤笑子講師、 岡しげみ講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、 S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目 (芸術文化学科文化支援コース4年次必修科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

博物館に関する科目において学習した内容を総合的に点検・整理する機会とするとともに、資料管理・展覧会の企画・運営・展示・普及に関わる各種業務を模擬的に体験することを通して、博物館活動や学芸員の職務に対する実際的な理解を深め、あわせてワークショップ活動やアウトリーチ活動など、美術館が施設以外の場へと展開している事業についてファシリテーターの立場でプログラム企画に取り組むことによって体験を積む。

【課題の概要】

○通信授業課題

展覧会企画案の作成を課し、添削指導を行う。

○面接授業課題

学内実習として大学美術館および民俗資料室の施設と業務内容を理解した上で、ワークショップ等教育普及活動の手法を体験するとともに、資料データベースの活用法を修得する。また館園実習として大学美術館および民俗資料室での所蔵資料調査作成、資料貸借業務と梱包作業等の訓練を踏まえ、展示室での資料展示の実習までを行う。

* 課題については学習指導書『博物館実習 2020年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

・(学修報告と添削指導) 学内実習(見学実習) 該当 テーマ検討/展覧会の領域決定/対象館の所蔵資料調査/展覧会会場の空間条件考慮/対象館の基礎情報把握/所蔵資料の詳細調査/展覧会趣旨・目的の構想/展覧会の章立てと展示作品確定/展示作品のデータ整理/作家履歴の調査/企画書の作成/対象館の展示状況調査/会場配置と表示構成検討/関連事業立案 等

○面接授業

・学内実習(事前指導) 該当 オリエンテーション/実習の目標とテーマ/大学美術館の沿革と所蔵資料 等
 ・学内実習(実務実習) 該当 ワークショップの立案・実践に向けた演習/ワークショップの計画/アウトリーチ活動の現状/ワークショップ企画の発表と講評指導/今日の美術と社会をめぐる状況/実習全体についての質疑応答 等
 ・館園実習 該当 作品調査の作成/資料の梱包/資料借用の手続き/美術館の広報活動/展覧会の企画/展示作品の解説/展示方法の演習/保存科学と修復/展覧会企画の発表と講評指導 等
 ・学内実習(事後指導) 該当 文化遺産の保存/収蔵品管理の諸問題/美術館・学芸員に関するディスカッション 等

【成績評価の方法】

通信授業のレポートの考査を加味した面接授業で評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4年次

○履修条件

文化支援コース3年次必修科目の単位をすべて修得していること(「学生ハンドブック」p.051の特例を除く)。

○備考

芸術文化学科文化支援コース4年次必修科目。

芸術文化学科文化支援コース以外の学芸員課程履修者は、学芸員課程の3年次配当科目の単位をすべて修得していれば履修できる。

【教材等】

○学習指導書

『博物館実習 2020年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年)

【その他】

レポート作成の際は、課題の趣旨をよく理解するために、よく学習指導書を読むこと。

学芸員課程履修者は、この授業科目は「博物館に関する科目」として取り扱われる。

※ この授業科目の面接授業(スクーリング)を受講する以前に、本学が定める必修科目8単位を修得している場合のみ、本学における「学芸員資格取得証明書」の発行対象となる。

面接授業ではグループワークを予定。

科目名	文化支援研究						
授業コード	1480	授業科目名	文化支援研究			担当者	金子伸二教授
開講期間	通年	単位数	1単位 (T1)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目 (芸術文化学科文化支援コース4年次必修科目)						
授業形態	通信授業						

【授業の概要と目標】

来るべき生涯学習社会を目指し、造形の立場に立脚しつつ、文化と社会との関わりを理解し支援するための方法論の探究を行う。

授業では、文化の概念と文化環境の動向把握、今後の展開に向けた検討を行う。

【課題の概要】

○通信授業課題

今日の文化支援をめぐる議論を理解・評価する課題。

*課題については学習指導書『文化支援研究 2020年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

- ・文化の概念と近代以降の文化研究の系譜を把握する。
- ・今日の文化支援をめぐる議論を理解・評価する。
- ・データを通して文化施設や文化行動の現状と地域文化環境を把握する。

【成績評価の方法】

レポートによる。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4年次

○履修条件

文化支援コース3年次必修科目の単位をすべて修得していること（「学生ハンドブック」p.051の特例を除く）。

○備考

芸術文化学科文化支援コース4年次必修科目。

【教材等】

○学習指導書

『文化支援研究 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

科目名	卒業制作						
授業コード	1870	授業科目名	卒業制作			担当者	田村裕教授、 金子伸二教授
開講期間	通年	単位数	6単位 (T4、 S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目 (芸術文化学科文化支援コース4年次必修科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

卒業論文の制作。大学で学ぶということは、すなわち自ら課題を発見し、その研究の仕方を身につけるといえる。このことは、本学が美術大学だからといって、変わるものではない。美術大学とは、美術作品やデザイン製品の制作技法を習得する場であるだけでなく、美術やデザインにかかわる現象を学的に捉え探究する場でもあるからである。とりわけ、芸術と社会とを結びつける接点を主な領域としている芸術文化学科においては、その方法においても真摯な学問的姿勢が求められることになる。それゆえ本学科における学習の最終成果としての研究論文の制作は、きわめて大きな意味を有している。この重要性は、将来的に教育・研究の職に進む場合に限られるものではない。なぜなら、一つの研究論文を制作することは、その制作の過程を通して、自らの認識基盤への省察を促すとともに、知的領野を拡大させ、問題意識を深化させる有効な手だてであり、そこで獲得した種々の理解は、今後の生活や仕事の様々な局面において活用されうるものだからである。本科目では、各自が問題を設定するとともに、その探究のための方法を獲得して、学部卒業に相応しい研究論文を完成させることを目標とする。

【課題の概要】

芸術文化学の領域において主題を設定して研究を行い、論文を制作する。最終的な論文提出のほかに、途中の通信授業および面接授業において、制作経過についての報告書作成や発表等が課せられる。

*課題については学習指導書『卒業制作 2020年度 (芸術文化学科)』を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

制作経過の報告書を作成する。最終的な論文提出までに、学習指導書に記載された所定の時期に報告書を複数回提出し、教員のチェックを受ける。

初回の研究計画書の提出期限は5月9日必着。

○面接授業

研究の進め方や論文制作の技法等についての講義、および受講者の研究状況についての発表等。

【成績評価の方法】

論文と提出後の講評との総合評価。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4年次

○履修条件

以下のすべての条件を満たすこと。

- ・芸術文化学科各コースに在籍していること。
- ・芸術文化学科各コース3年次必修科目の単位をすべて修得していること (『学生ハンドブック』p.051の特例を除く)。
- ・芸術文化学科各コース4年次必修科目の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考

芸術文化学科各コース4年次必修科目。

【教材等】

○学習指導書

『卒業制作 2020年度 (芸術文化学科)』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年)

科目名	メディア環境論						
授業コード	1490	授業科目名	メディア環境論			担当者	白尾隆太郎教授、上原幸子教授、棚橋早苗講師、敷内新太講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目 (デザイン情報学科各コース3年次必修科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

「メディア環境論」では、「メディア」を広く捉え直し、身のまわりのメディアによって何かしらのコミュニケーションが成立しているのは、それを支えている「メディア環境」が存在しているからだという事を理解する。

メディアを取り巻く環境としては、例えば社会体制や経済のしくみ・技術力・科学・歴史・思想・教育……等々があり、それらは相互に関係し合いながら、総体としてのメディア環境を形づくってきたと考えられる。この授業では、「メディア」をメディア環境まで含めて認識し直し、広く考察する。

通信授業課題『メディアの解剖』では、自身にとって身近なメディアをひとつ取り上げ、そのメディアとメディア環境を考察・解剖・分析・考察し、ビジュアルブックとして表現する。

また、面接授業課題『メディアの発明』では、現在のメディア環境を踏まえた上で、自らの手で実際にメディアとメディア環境を制作し、実践・提案をする。

面接授業の発表の場は、それぞれが発明したメディアの実験場である。その後、発表の場で何か起こり、何が伝わったのか・伝わらなかったのかをふりかえり、共有・検証・考察を試みる。

【課題の概要】

○通信授業課題 課題名 『メディアの解剖』

身近なモノの中から「メディア」として考察する対象を1つ決め、その「メディア環境」がどのように成り立っているのかを観察、分析し、その解剖を試みる。制作物は[メディア解剖図鑑]。

[メディア解剖図鑑] あなたの『メディアの解剖』の過程と成果が分かりやすく、目で見て分かるように、ビジュアル表現を中心に編集・デザインを行って冊子のかたちにとまとめた作品。

○面接授業課題 課題名 『メディアの発明』

「メディアで遊ぼう!」をキーワードに、グループ単位でフィールドワークを行いながら、身のまわりに広がる「メディア環境」を多角的に考察する。プレゼンテーションでは「新たなメディア」の提案を行う。授業での共通テーマを「水」とし、「吉祥寺周辺・井の頭公園」を考察のフィールドとする。

【授業計画】

○通信授業

教科書と学習指導書を読み、学習指導書に沿って[メディア解剖図鑑]を作成し、提出。

○面接授業

1日目：オリエンテーション、関係づくりワークショップなど

2日目以降：フィールドワーク、グループ制作

4日目：発表、講評、ふりかえり

※オンラインプラス [中間] —BBS 上での中間アドバイス

Web キャンパス学生メニューの【ネットフォーラム】にて制作中の課題に対して中間アドバイスを行う。

【成績評価の方法】

面接授業と通信授業課題の総合評価とする。

○通信授業

提出された作品の総合評価とする。

○面接授業

発表とふりかえりを評価の基本とし、制作過程や出席状況も評価の対象となる。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

「グラフィックデザイン基礎 I・II」または「情報システム基礎 I・II」の単位を修得していること (デザイン情報学科3年次編入学生を除く)。

○備考

デザイン情報学科各コース3年次必修科目。

オンラインプラス (Web 上で行う面接授業補助プログラム) を受講する場合は、インターネットに接続できる環境が必要となる。

【教材等】

○教科書

若林直樹監修『メディア環境論』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

○学習指導書

『メディア環境論 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

【その他】

面接授業について：学外見学とフィールドワーク、およびグループワークを行う。

科目名	マルチメディア表現						
授業コード	1500	授業科目名	マルチメディア表現			担当者	白石学教授、清水恒平准教授、角めぐみ講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目 (デザイン情報学科各コース3年次必修科目)						
授業形態	通信授業 (Web提出のみ) 面接授業						

【授業の概要と目標】

現在のマルチメディアの意味を再考することからはじめ、ネットワーク技術、ソーシャルメディア等の現状を把握し、その問題点と可能性を考察する。その上でそれらの技術を応用したマルチメディアコンテンツの企画と提案を行う。面接授業はグループワークを行う。リサーチやフィールドワーク、課題発見、アイデア発想のプロセスを通して、マルチメディアの特性や可能性を探りながら、解決につながるマルチメディアコンテンツを企画する。利用シーンを想定した、試作品の制作やプレゼンテーションにも取り組む。テクノロジーは日々進化している。国内外含め、どんなサービスが生まれているのかアンテナを張っておこう。また、普段から身近な問題に目を向け、なぜその問題が生じているのか、どんな課題が潜んでいるのかを考えてみてほしい。

【課題の概要】

○面接授業課題「グループワークによるマルチメディアコンテンツの企画と提案」

提示されたテーマにおける課題を見つけ、解決につながるマルチメディアコンテンツを企画する。また、試作品を制作し、プレゼンテーションを行う。

○通信授業課題「任意のテーマによるマルチメディアコンテンツの企画と提案」

自分自身の問題意識からテーマを設定し、課題を見つけ、解決につながるマルチメディアコンテンツを企画書にまとめる。

*課題については、学習指導書『マルチメディア表現 2020年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

○面接授業

第1日 オリエンテーション、企画検討

第2日 企画検討、企画案発表

第3日 試作品制作、プレゼンテーション準備

第4日 試作品制作、プレゼンテーション準備、プレゼンテーション、講評

※オンラインプラス [準備] 一面接授業事前説明動画配信

Web キャンパス学生メニューの【動画視聴】にて面接授業の事前説明動画を配信する。

※オンラインプラス [中間] —BBS 上での中間アドバイス

Web キャンパス学生メニューの【ネットフォーラム】にて制作中の課題に対して中間アドバイスをを行う。

○通信授業

教科書『マルチメディアを考える』の全章を範囲とする。

【成績評価の方法】

提出された課題作品によって評価を行うものとする。面接授業においては出席状況も評価の対象となる。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

「グラフィックデザイン基礎 I・II」または「情報システム基礎 I・II」の単位を修得していること (デザイン情報学科3年次編入学生を除く)。

○備考

デザイン情報学科各コース3年次必修科目。

下記の条件を満たすコンピュータ、ソフトウェアを所有するか、もしくは利用できること。

・Macintosh または Windows で、少なくとも 300 万画素画像をストレスなく処理できるもの。

・画像の編集作業ができるソフトウェア (Adobe Photoshop など)

・企画書作成のためのページレイアウト用ソフトウェア (Adobe Illustrator、InDesign など)

・コンテンツのサンプルを Web として作成するためのソフトウェア (テキストエディタあるいは Web ページ作成ソフト)

・指定された Web サイトにアクセスできること。

【教材等】

○教科書

清水恒平『マルチメディアを考える』（武蔵野美術大学出版局 2016年）

○学習指導書

『マルチメディア表現 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

【その他】

面接授業について：グループワーク・発表を行う。

科目名	イメージ編集 I						
授業コード	1510	授業科目名	イメージ編集 I			担当者	白尾隆太郎教授、石垣貴子講師、深澤涼子講師、山口弘毅講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3~4	指定	
科目区分	造形専門科目 (デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース3年次必修科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

「イメージ編集 I」では、編集を多義的に捉え、さまざまなメディアでの表現が、人間の共通感覚に根ざしたイメージの編集によって成り立っていることを理解する。

ここでは、自らの視点から捉えたテーマを、日常の身体を通した、視る・聴く・味わう・触れるなどの体験に基づいて記録する。取材や情報の収集を含め、編集し、表現することのプロセス全体を実践することで、コミュニケーションとしての適切な方法を考える。

※この科目は実務経験を有する教員（白尾隆太郎教授）による授業科目である。デザイナーとして豊富な実績を有する担当教員が、紙によるメディア制作を通して編集デザインを実務経験を交えて指導する。

【課題の概要】

○通信授業課題

個人の明確な情報の発信を他者に行うコミュニケーションの手段として、「私の博物誌」「私の食文化誌」を A to Z という形式で考え、紙によるメディアを制作する。

A1 サイズ 1 枚分の紙を、折る・切る・束ねる・連ねる、その他自由な形態を考え、自らの視点で編集し、テーマを受け手にわかりやすく伝え、面白いコミュニケーションツールを考える。

○面接授業課題

通信課題で得られた理解を応用した編集デザインの実習及び広告デザインの実習。

*課題については、学習指導書『イメージ編集 I・II 2020年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

日常の中にある物事を改めて自らの視点で眺め、問題や関心を深めていくことから、体験的に集められてくる情報や物事の成り立ちのプロセスを探っていくことでさまざまな発見をする。それらを独自の方法で編集することで、より良好なコミュニケーションの手段を考える。編集デザインの計画をなるべく 9 月上旬までに送り、チェックを受けた後、本制作をする。

○面接授業

編集デザインを中心とした授業（3 日間）+ 広告デザインを主とした授業（3 日間）。

【成績評価の方法】

○通信授業

提出作品、制作プロセスの総合評価とする。

○面接授業

制作プロセス、全体講評と作品の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3 年次～

○履修条件

「グラフィックデザイン基礎 I・II」の単位を修得していること（コミュニケーションデザインコース 3 年次編入学生を除く）。

○備考

デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース 3 年次必修科目。

コミュニケーションデザインコース 3 年次編入学生は「グラフィックデザイン基礎 I・II」の単位を修得しているか、同時に履修することが望ましい。

【教材等】

○教科書

若林直樹・白尾隆太郎編『イメージ編集』（武蔵野美術大学出版局 2003年）

○学習指導書

『イメージ編集 I・II 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

【その他】

○参考文献

石毛直道監修、熊倉功夫編『講座 食の文化 2 日本の食事文化』（味の素食の文化センター 1999年）

芳賀登・石川寛子監修『全集 日本の食文化 第12巻 郷土と行事の食』（雄山閣出版 1999年）

石川英輔『大江戸えねるぎー事情』（講談社 1993年）

工藤強勝監修 日経デザイン編『編集デザインの教科書』（日経 BP 社 1999年）

科目名	イメージ編集 II						
授業コード	1520	授業科目名	イメージ編集 II			担当者	白尾隆太郎教授、上原幸子教授、小川明日香講師、山崎連基講師、杉山衛講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目 (デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース4年次必修科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

「イメージ編集 II」は、編集を多義的に捉え、さまざまなメディアでの表現が人間の共通感覚に根ざしたイメージの編集によって成り立っていることを理解する。教科書『イメージ編集』にあげた「比較」「反復」「反転」「転置」「拡大縮小」「演出」「省略と純化」「変換」の8つのテーマは、それらを分類することによって、背景にある作家の動機や思想を浮き彫りにしようとするものである。その思想に触れることにより、どのようにして表現されたものが成立してきたかを理解し、自らがコミュニケーションの担い手として、自らがイメージの世界を追求する。

※この科目は実務経験を有する教員（白尾隆太郎教授）による授業科目である。デザイナーとして豊富な実績を有する担当教員が、エディトリアルデザインなどの編集デザインの実務経験を交えて指導する。

【課題の概要】

○通信授業課題

教科書『イメージ編集』にある「比較」「反復」「反転」「転置」「拡大縮小」「演出」「省略と純化」「変換」の8つのテーマから、3つを選んで、あなた自身がそれぞれ2種類の作例に相応しいと思われる作品を、デザイン・美術作品・写真・建築・コミックス・音楽などから選択し、図版と解説を指定されたデザインフォーマットにまとめる。また、8つのうちから1つのテーマを選び、作品をつくる。

○面接授業課題

ビデオによる表現の実習。

*課題については、学習指導書『イメージ編集 I・II 2020年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

教科書『イメージ編集』と学習指導書『イメージ編集 I・II 2020年度』による。

【成績評価の方法】

○通信授業

提出作品、制作プロセスの総合評価とする。

○面接授業

制作プロセス、全体講評と作品の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4年次

○履修条件

コミュニケーションデザインコース3年次必修科目の単位をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.051の特例を除く）。

○備考

デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース4年次必修科目。

【教材等】

○教科書

若林直樹・白尾隆太郎編『イメージ編集』（武蔵野美術大学出版局 2003年）

○学習指導書

『イメージ編集 I・II 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

【その他】

面接授業について：グループワークを行う。

科目名	コミュニケーション研究 I						
授業コード	1530	授業科目名	コミュニケーション研究 I			担当者	上原幸子教授、朝比奈ゆり講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目 (デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース3年次必修科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

「コミュニケーション研究 I」では、私たちが普段何気なく行っているコミュニケーションについて考察し、人と意識共有していくためのワークショップとメディア制作を体験する。自分の足元を見つめ直すことで独自の視点を掘り起こし、身近な人に伝え、その経験をもとに共同作業を試みる。イメージやストーリーを媒介にして、コミュニケーションを深めていくことを学習する。

この授業では、メディアをコミュニケーションの道具として捉え、自己から他者へ、そして社会へと情報発信していくための課題が、段階的に設定されている。メディア制作そのものに主軸があるのではなく、誰に対してどんな意図をもった発信なのか、対象と目的に対して適切な表現を目指すことが重要となる。

※この科目は実務経験を有する教員（上原幸子教授、朝比奈ゆり講師）による授業科目である。地域活動の豊富な経験を有する担当教員が、ワークショップとメディア制作を通して情報発信の基礎を実務経験を交えて指導する。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

身近な対象を素材に、自分を紹介する紙芝居を制作する。

○面接授業課題

まちづくり活動の現場をグループで訪問し、体験したことをもとにテーマを決め、ワークショップ・企画・取材・編集・デザイン・プレゼンテーションなど、人にはたらしかけていくメディアについて実践的に学ぶ。

○通信授業課題 2

身近な仲間に魅力あるプランをはたらきかけ、その記録をデザインする。

*課題については学習指導書『コミュニケーション研究 I・II 2020年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

通信授業 1 → 面接授業 → 通信授業 2

○通信授業 ※ 通信課題 1 を面接授業の初日に持参すること。

自己紹介の紙芝居

○面接授業 ※ 面接授業の受講前に教科書を熟読すること。通信課題 2 の企画書を持参すること。

ワークショップ・取材・プレゼンテーション

○通信授業

日常生活活性プロジェクト

【成績評価の方法】

通信授業と面接授業の評点による総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

「グラフィックデザイン基礎 I・II」の単位を修得していること（コミュニケーションデザインコース 3年次編入学生を除く）。

○備考

デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース 3年次必修科目。

【教材等】

○教科書

上原幸子編『デザインとコミュニティ』（武蔵野美術大学出版局 2018年）

○学習指導書

『コミュニケーション研究 I・II 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

【その他】

○参考文献

高橋陽一監修、杉山貴洋編『ワークショップ実践研究』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

浅海義治ほか企画、編集『参加のデザイン道具箱 PART1 ～ 4』（一般財団法人世田谷トラストまちづくり）

原研哉／阿部雅世『なぜデザインなのか。』（平凡社）

山崎亮著『コミュニティデザイン—人がつながるしくみをつくる—』（学芸出版社）

加藤哲夫著『市民の日本語—NPOの可能性とコミュニケーション—』（ひつじ書房）

西村佳哲『かかわり方のまなび方』（筑摩書房）

面接授業について：学外での見学と取材、およびグループワークを行う。

科目名	コミュニケーション研究 II						
授業コード	1540	授業科目名	コミュニケーション研究 II		担当者	上原幸子教授、朝比奈ゆり講師	
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目 (デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース4年次必修科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

「コミュニケーション研究 I」での学習を踏まえ、個人と社会のかかわりをテーマにさらに発展的に学習する。制作のプロセスにおいて、人との協議や意識共有、リサーチを重視し、その成果物をコミュニケーションツールとして活用した実践活動を行う。その体験を通して、人と人・人と社会など、さまざまな場面でのインタラクティブなコミュニケーションデザインの可能性を探る。そして、誰にでもわかりやすい見せ方、企画やテーマが最も生かされる表現手法など、メディアリテラシーの獲得を目指す。

※この科目は実務経験を有する教員（上原幸子教授、朝比奈ゆり講師）による授業科目である。地域活動の豊富な経験を有する担当教員が、インタラクティブなコミュニケーションデザインについて実務経験を交えて指導する。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

身の回りにある地域の活動を調べ、その経過をファイルにまとめる。また、面接授業で予定されている発表にむけて、その活動を紹介する展示パネルを制作する。

○面接授業課題

通信授業で取り上げた活動の展示パネルをもとに、「コミュニケーションデザイン展」を計画し実施する。

○通信授業課題 2

面接授業で得られた情報を、訪問先に報告するためのレポートを作成する。

* 課題については学習指導書『コミュニケーション研究 I・II 2020年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

通信授業 1 → 面接授業 → 通信授業 2

○通信授業 ※ 面接授業の初日に持参する。

取材のファイリング 展示パネルなどメディアの制作

○面接授業 ※ 面接授業の受講前に展覧会やワークショップ、イベント会場などに足を運び、展示空間を体感してリサーチする。

展覧会イベントの企画と開催

○通信授業

展覧会イベントの報告書の作成

【成績評価の方法】

通信授業と面接授業の評点による総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4年次

○履修条件

コミュニケーションデザインコース 3年次必修科目の単位をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.051の特例を除く）。

○備考

デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース 4年次必修科目。

展示会場の都合により、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

○教科書

上原幸子編『デザインとコミュニティ』（武蔵野美術大学出版局 2018年）

○学習指導書

『コミュニケーション研究 I・II 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

【その他】

○参考文献

高橋陽一監修、杉山貴洋編『ワークショップ実践研究』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

浅海義治ほか企画、編集『参加のデザイン道工具箱 PART1 ～ 4』（一般財団法人世田谷トラストまちづくり）

原研哉／阿部雅世『なぜデザインなのか。』（平凡社）

山崎亮著『コミュニティデザイン—人がつながるしくみをつくる—』（学芸出版社）

加藤哲夫著『市民の日本語—NPOの可能性とコミュニケーション—』（ひつじ書房）

西村佳哲『かかわり方のまなび方』（筑摩書房）

通信授業について：学外での取材を行う。

面接授業について：グループワークと展示を行う。

科目名	卒業制作						
授業コード	1880	授業科目名	卒業制作			担当者	白尾隆太郎教授、上原幸子教授、清水恒平准教授、敷内新太講師
開講期間	通年	単位数	6単位 (T4、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目 (デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース4年次必修科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

これまでにコミュニケーションデザインコースで学習してきた内容の集大成として、各自がテーマを設定して研究を行い、作品としてまとめる。

この「卒業制作」という科目は、与えられた課題にそって作品を制作するという科目ではない。これまで学習してきた科目および各自のバックグラウンドの中からテーマを各自が設定し、作品を制作する過程において研究の方法を学び、個々の知識や技術をあわせて利用する方法を考え、その結果として、各自がこの学科を卒業するのに相応しい作品を生み出すことが目標である。

「卒業制作」は、年度の当初から計画し、4年次の専門科目も「卒業制作」を念頭に置きながら受講する方が良いだろう。学生とは電子メール・面接指導などを用いて意見の交換や助言、情報提供を行う。

「卒業制作」の提出物としては多様な形態が考えられる。グラフィックデザイン、コミュニケーションデザイン、メディアデザインなどの各分野を俯瞰し、各自のテーマをまとめるのにふさわしい形態を模索し、制作することが期待される。

【課題の概要】

各自が考えるデザイン情報学の領域のテーマを自由に設定し、担当教員の指導の下に研究し、制作を行う。テーマによっては、他の科目の教員に指導を受けることも可能である。教員や他の学生とのディスカッション、資料・事例調査などを通して各自のテーマや作品を検討し、質の高い研究、制作を行う方法を学びながら、その最終到達点としての作品を提出する。個人による制作を原則とする。

*課題については、学習指導書『卒業制作 2020年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

○面接授業

各自のテーマ・作品案などに関して計画書を用意し、プレゼンテーションを行う。教員、他の学生とディスカッションをし、また、テーマ・作品の具体化に関して教員からの個別指導を受ける。

※オンラインプラス [準備] —BBS 上での計画案相談

面接授業の機会を生かすために、ネット上で計画案の相談を行う。

※オンラインプラス [中間] —BBS 上での中間アドバイス

制作中の課題に対して中間アドバイスをを行う。

○通信授業

テーマを決定するまでに文献・資料・事例を調査するのはもちろんのこと、オンラインでテーマを共有し担当教員と相談しながら、決定したテーマを作品としてまとめる。既修の技術や知識を総合し、場合によっては新たに必要技術を習得しながら、最終提出物を制作する。

【成績評価の方法】

各ステップでの学習状況を勘案し、卒業制作提出作品、全体講評の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4年次

○履修条件

以下のすべての条件を満たすこと。

・デザイン情報学科コミュニケーションデザインコースに在籍していること。

・デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース 3年次必修科目の単位をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.051の特例を除く）。

・デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース 4年次必修科目の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考

デザイン情報学科コミュニケーションデザインコース 4年次必修科目

オンラインプラス（Web 上で行う面接授業補助プログラム）を受講する場合は、インターネットに接続できる環境が必要となる。

【教材等】

○学習指導書

『卒業制作 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

【その他】

卒業制作展で発表し、講評を行う。

面接授業について：グループワークを行う。

科目名	情報通信ネットワーク						
授業コード	1570	授業科目名	情報通信ネットワーク			担当者	清水恒平准教授、山田興生講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	3～4	指定	
科目区分	造形専門科目 (デザイン情報学科デザインシステムコース3年次必修科目)						
授業形態	通信授業 (Web提出可)		面接授業				

【授業の概要と目標】

情報技術を“学ぶための技術と姿勢”を学ぶことを目標とします。

スマートフォンやインターネットといった情報技術は、わたしたちのビジネスや消費活動になくはならないものとなっています。しかし情報技術はもともとは売上の計算したり便利に買い物するために作られたわけではありません。情報技術はさまざまな問題に立ち向かうための新しい「道具」として進化してきました。そして今も科学だけではなく表現活動も含めさまざまな分野において、情報技術はなにかを生み出す道具であるという本質は変わりません。消費者の立場からアプリケーションやネットサービスという「商品」を使いこなすだけでは、いつまでも作品の作り手になることは難しいでしょう。

木工を経験したことがある人ならわかるとおり、それぞれの道具は時代を通じて洗練され、正しく使うためにはその形態の意味や歴史的背景を学び、身体を訓練する必要があります。洗練された道具を適切に扱うことでしか生まれないものがあるという点においては、情報技術も木工も変わりありません。授業では、作る道具としてのコンピュータとインターネットの歴史に触れるとともに、それらを自力で学び、使い、作るため何が必要かというテーマを掘り下げてみたいと思います。実習を通じて、消費者として触れるのとは異なる世界の道具観、論理的思考、解決に向けた問題の切り分けかた、身体訓練、記録方法といった、個別技術に依存しない学ぶための技術と姿勢を学びます。

※この科目は実務経験を有する教員（清水恒平准教授、山田興生講師）による授業科目である。インタラクティブデザインを中心に活動している担当教員が、ネットワーク技術について実務経験を交えて指導する。

【課題の概要】

○通信授業課題

ネットワーク技術についての概要レポート

○面接授業課題

前半 最初にネットワークの仕組みについてのディスカッションと発表を行う。その後、Linux の基本操作、Markdown による作業記録、AWS (Amazon Web Services) の利用方法、そしてこれらの未知の技術を調べて自力で理解するための基本姿勢を学ぶ。

※オンラインプラス [中間]

Facebook のグループ機能を通じて、課題の進捗報告、作業記録公開、ディスカッションを行う。Facebook のアカウントを持たない者は新規に作成すること。

後半 構築した AWS 上で Python をつけた Web ページのスクレイピングを行う。プログラムの自動実行の仕組みを学び、構築したサーバをデータ収集システムとして利用可能にする。なおこの仕組みは 4 年次にも使用する前提で構築を進める。

【授業計画】

面接授業の前に、教科書に目を通しておくこと。

【成績評価の方法】

面接授業及び通信授業の総合評価とする。

面接授業ではとくに技術的な到達点ではなく、ドキュメントの内容や論理的思考・問題解決にあたる姿勢を評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3 年次～

○履修条件

「情報システム基礎 I・II」の単位を修得していること（デザインシステムコース 3 年次編入学生除く）。

○備考

デザイン情報学科デザインシステムコース 3 年次必修科目。

以下の条件を満たすコンピュータ、ソフトウェアを所有するか、もしくは利用できること。

・ Macintosh または Windows で、少なくとも 300 万画素の画像をストレスなく処理できるもの

・ 画像の編集作業ができるソフトウェア (Adobe Photoshop など)

・ 企画書制作のためのページレイアウト用ソフトウェア (Adobe Illustrator、InDesign など)

・ インターネット接続環境

・ 面接授業では大学の Mac を使用することも可能だが、自分のノート PC を持参することを強く勧める。

・ 購入を検討中であれば持ち運び可能な Mac (MacBook、MacBook Pro、MacBook Air) を勧める。

※ スターリング時に受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

○教科書

『基本からわかる 情報通信ネットワーク講義ノート』（大塚裕幸 オーム社 2016年）

○学習指導書

『情報通信ネットワーク 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

【その他】

○参考文献

『新しい Linux の教科書』（三宅英明 大角祐介 SB クリエイティブ 2015年）

『Amazon Web Services 基礎からのネットワーク&サーバー構築 改訂版』（玉川憲 片山暁雄 今井雄太 大澤文孝 日経 BP 社 2017年）

『みんなの Python 第 4 版』（柴田淳 SB クリエイティブ 2016年）

『エンジニアの知的生産術』（西尾泰和 技術評論社 2018年）

面接授業について：グループワークおよびディスカッションを行う場合がある。

科目名	画像表現研究						
授業コード	1550	授業科目名	画像表現研究			担当者	清水恒平准教授、青木聖也講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目 (デザイン情報学科デザインシステムコース4年次必修科目)						
授業形態	通信授業 (Web提出のみ) 面接授業						

【授業の概要と目標】

本科目では画像表現を通して、人の知覚や認知について考察する。

画像に関する技術を用いて、人が感覚的に捉えている視覚イメージを解析し、尺度化していく。

最終的にその結果をインスタレーションとして表現し、実際に体験することで、人間の認識がどのように影響を受けるのかを確認しながら、背景技術に対する深い理解とその習得を目指す。

※この科目は実務経験を有する教員（清水恒平准教授、青木聖也講師）による授業科目である。インタラクティブデザインを中心に活動している担当教員が、画像表現について実務経験を交えて指導する。

【課題の概要】

○通信授業課題

・画像表現、インスタレーション作品の調査分析と研究提案

○面接授業課題

・画像表現の実制作とプレゼンテーション。

※ 課題については、学習指導書『画像表現研究 2020年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書『ビジュアル情報処理 —CG・画像処理入門—』の全章を範囲とする。

○面接授業

第1日 オリエンテーション・各自課題設定

第2日 企画制作／カウンセリング（ネットワーク上でヒアリング）

第3日 制作／チェック（ネットワーク上でヒアリング）

第4日 制作／チェック／講評／リフレクション

※オンラインプラス [中間] —BBS 上での中間アドバイス

Web キャンパス学生メニューの【ネットフォーラム】にて制作中の課題に対して中間アドバイスを行う。

【成績評価の方法】

提出された課題によって評価を行うものとする。面接授業においては出席状況も評価の対象とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4年次

○履修条件

デザインシステムコース3年次必修科目の単位をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.051の特例を除く）。

○備考

デザイン情報学科デザインシステムコース4年次必修科目。

下記の条件を満たすコンピュータ、ソフトウェアを所有するか、もしくは利用できること。

・Macintosh または Windows で、少なくとも 300 万画素画像をストレスなく処理できるもの

・Adobe Photoshop 等の画像編集ソフトウェア

・Web ブラウザ

・processing

・skype / messenger 等

下記の条件のコンピュータネットワーク環境が活用できること。

文字・音声チャットが可能なインターネット接続

※スクリーニング時に大学の PC を使用することが可能だが、自分の PC（ノート PC）を持参できる者は、持参することをお勧めする。

【教材等】

○教科書

『ビジュアル情報処理 —CG・画像処理入門—』（公益財団法人画像情報教育振興協会 2017年）

○学習指導書

『画像表現研究 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

【その他】

○参考文献

『Beyond the Display : 21 世紀における、現象のアートとデザイン』（岩坂未佳著・編 ビー・エヌ・エヌ新社 2015）
面接授業について：グループワークを行う。

科目名	データベース						
授業コード	1560	授業科目名	データベース			担当者	清水恒平准教授、山田興生講師
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目 (デザイン情報学科デザインシステムコース4年次必修科目)						
授業形態	通信授業 (Web提出可)		面接授業				

【授業の概要と目標】

データを通して考察できる社会の変化、表現手段、技術的な背景について実習を通じて学びます。

近年データという単語そのものが注目され、メディアでは AI、データ分析、ビッグデータという言葉を目にしない日はありません。私たちの社会はビジネス、行政、教育、医療、そして表現活動の分野においてもデータを有効に活用するよう変化しつつあります。この授業ではそうした多様なインパクトをもつデータの世界を技術背景、社会的な影響、さらに表現の視点から掘り下げてみたいと思います。

具体的にはデータ分析環境を構築し、インターネット上に公開されたデータを実際に分析・視覚化する実習を通じてデータとその世界への理解を深めます。特に個人の表現方法の一つとしてデータ分析的な視点を持つことを目標とします。※この科目は実務経験を有する教員（清水恒平准教授、山田興生講師）による授業科目である。インタラクションデザインを中心に活動している担当教員が、データビジュアライゼーションの手法と事例について実務経験を交えて指導する。

【課題の概要】

○通信授業課題

データビジュアライゼーションの手法と事例のリサーチ

○面接授業課題

第1日 データから見える世界の事例紹介、分析環境のインストールと操作、その作業記録

第2日 データから見える世界の事例紹介、分析環境のインストールと操作、その作業記録

※オンラインプラス [中間]

Facebook のグループ機能を通じて、インストールした分析環境でのデータビジュアライゼーション、検証、作業記録、ディスカッションを行う (Facebook アカウントを持たないものは新規に作成すること)。

第3日 分析環境を用いた制作・ディスカッション

第4日 分析環境を用いた制作・発表・ディスカッション

【授業計画】

原則として、通信授業課題は面接授業の後で取り組むこと。また、面接授業の前に、教科書に目を通しておくことが望ましい。

【成績評価の方法】

○通信授業

課題に関するレポート

○面接授業

制作・プレゼンテーションした分析内容、論理的思考、問題解決能力などを総合的に判断する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4年次

○履修条件

デザインシステムコース3年次必修科目の単位をすべて修得していること (『学生ハンドブック』p.051の特例を除く)。

○備考

デザイン情報学科デザインシステムコース4年次必修科目。

3年次科目情報通信ネットワークの面接授業で学んだLinuxの基本操作とPythonプログラミングの理解を前提として面接授業を進める。各自作業記録を復習しておくこと。

事前準備ができる場合は下記の内容をリサーチして作業しておくことと良い。

- ・Pythonの基本操作
- ・AnacondaもしくはMinicondaによるPython環境構築とパッケージ管理
- ・Jupyter Notebookのインストール (日本語フォントの設定)
- ・pandasによるデータ操作
- ・matplotlibによるデータ視覚化

以下の条件を満たすコンピュータ、ソフトウェアを所有するか、もしくは利用できること。

- ・macOS, Linux, Windows8以上のいずれかのOSが動作すること。
- ・PythonなどのプログラミングやWebブラウザが可能な画面サイズとキーボードを備えていること。
- ・面接授業では大学のMacを使用することも可能だが、所有するコンピュータを持参することを強く奨める。(ノート型でなくても持ち込み可能)
- ・購入を検討中であれば (MacBook, MacBook Pro, MacBook Air) を勧める。

【教材等】

○教科書

『Data Points: Visualization That Means Something』(Nathan Yau 著 Wiley 2013)

○学習指導書

『データベース 2020年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年)

【その他】

○参考文献

『Python によるデータ分析入門 第2版—NumPy, pandas を使ったデータ処理』(Wes McKinney 著、瀬戸山雅人、小林儀匡、滝口開資 訳 オライリージャパン 2018)

『ビューティフルビジュアライゼーション』(Julie Steele, Noah Iliinsky 編、増井俊之 監訳、牧野聡 訳 オライリージャパン 2011)

『ヤバい経済学 [増補改訂版]』(レヴィット, スティーヴン . D . 著、ダブナー, スティーヴン . J . 著、望月衛 訳 東洋経済新報社2007)

『エンジニアの知的生産術』(西尾泰和 技術評論社 2018)

『新しい Linux の教科書』(三宅英明 大角祐介 SB クリエイティブ 2015)

『スラスラ読める Python ふりがなプログラミング』(リブワークス 著、株式会社ビープラウド 監修 インプレス 2018)

『退屈なことは Python にやらせよう—ノンプログラマーにもできる自動化処理プログラミング』(Al Sweigart 著、相川愛三 訳 オライリージャパン 2017)

Web サイト動画：デビッド・マキヤンドレス「データビジュアライゼーションの美」<https://bit.ly/2HEERp3>

面接授業について：グループワークおよびディスカッションを行う場合がある。

科目名	デザインシステム研究						
授業コード	1580	授業科目名	デザインシステム研究			担当者	今泉洋教授、清水恒平准教授
開講期間	通年	単位数	3単位 (T1、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目 (デザイン情報学科デザインシステムコース4年次必修科目)						
授業形態	通信授業 (Web提出のみ) 面接授業						

【授業の概要と目標】

「情報システム基礎」「マルチメディア表現」「メディア環境論」「情報通信ネットワーク」などの科目の学習内容を踏まえ、マルチメディアやネットワークを活用した表現、情報の提示の仕方など、現在は個別に存在している各分野の知識・技術を組み合わせ、デザイン・美術の分野への有効な活用方法を探求することを目的とする。「卒業制作」の前段階として、課題においては各自が自由にテーマを設定しレポートを作成する。面接授業ではオムニバス形式の講義や、各自の研究テーマに関するゼミ形式での報告、討議を行う。
※この科目は実務経験を有する教員（清水恒平准教授）による授業科目である。インタラクティブデザインを中心に活動している担当教員が、マルチメディア、ネットワークを活用した表現について実務経験を交えて指導する。

【課題の概要】

○通信授業課題

マルチメディアやネットワークを活用した表現、情報提示の仕方など複数の分野にまたがる研究テーマを各自が自由に設定し、文献、資料調査、フィールドワークなどを行い、レポートを作成する。

○面接授業課題

初日に各自の通信授業課題についての発表を行い、それを基にディスカッションを行う。その後、さまざまなデザインの分野に関する講義と課題制作をオムニバス形式で行う。

*課題については、学習指導書『デザインシステム研究 2020年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

デザイン、情報学の分野から、興味を持ったテーマを複数選び、その分野に関する調査を行った後、課題レポートを制作する。

○面接授業

各日に設定されたテーマに関する講義と課題制作を行う。通信課題のテーマ案を持参すること。

※オンラインプラス [中間] —BBS 上での中間アドバイス

Web キャンパス学生メニューの【ネットフォーラム】にて制作中の課題に対して中間アドバイスを行う。

【成績評価の方法】

通信授業課題と面接授業課題、および発表・ディスカッションの発言等の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4年次

○履修条件

デザインシステムコース3年次必修科目の単位をすべて修得していること（『学生ハンドブック』p.051の特例を除く）。

○備考

デザイン情報学科デザインシステムコース4年次必修科目。

以下の条件を満たすコンピュータ、ソフトウェア、周辺機器を所有するか、もしくは利用できること。

- ・Macintosh または Windows で、少なくとも 300 万画素画像をストレスなく処理できるもの
- ・画像の編集作業ができるソフトウェア (Adobe Photoshop)
- ・ページレイアウト用ソフトウェア (Adobe Illustrator, Indesign など)
- ・インターネットに接続して利用できること

※ スクーリングでは大学の PC を使用することが可能だが、自分の PC (ノート PC) を持参できる者は、持参することをお勧めする。

【教材等】

○教科書

『デザイン情報学入門』（日本規格協会 2000年）

○学習指導書

『デザインシステム研究 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

科目名	卒業制作						
授業コード	1890	授業科目名	卒業制作			担当者	白尾隆太郎教授、上原幸子教授、清水恒平准教授、藪内新太講師
開講期間	通年	単位数	6単位 (T4、S2)	学年	4	指定	
科目区分	造形専門科目 (デザイン情報学科デザインシステムコース4年次必修科目)						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

これまでにデザインシステムコースで学習してきた内容の集大成として、各自がテーマを設定して研究を行い、作品としてまとめる。

この「卒業制作」という科目は、与えられた課題にそって作品を制作するという科目ではない。これまで学習してきた科目および各自のバックグラウンドの中からテーマを各自が設定し、作品を制作する過程において研究の方法を学び、個々の知識や技術をあわせて利用する方法を考え、その結果として、各自がこの学科を卒業するのに相応しい作品を生み出すことが目標である。

「卒業制作」は、年度の当初から計画し、4年次の専門科目も「卒業制作」を念頭に置きながら受講する方が良いだろう。学生とは電子メール・面接指導などを用いて意見の交換や助言、情報提供を行う。

「卒業制作」の提出物としては多様な形態が考えられる。情報システム、情報通信ネットワーク、データベースなどの各分野を俯瞰し、各自のテーマをまとめるのにふさわしい形態を模索し、制作することが期待される。

【課題の概要】

各自が考えるデザイン情報学の領域のテーマを自由に設定し、担当教員の指導の下に研究し、制作を行う。テーマによっては、他の科目の教員に指導を受けることも可能である。教員や他の学生とのディスカッション、資料・事例調査などを通して各自のテーマや作品を検討し、質の高い研究、制作を行う方法を学びながら、その最終到達点としての作品を提出する。個人による制作を原則とする。

*課題については、学習指導書『卒業制作 2020年度』を必ず参照すること。

【授業計画】

○面接授業

各自のテーマ・作品案などに関して計画書を用意し、プレゼンテーションを行う。教員、他の学生とディスカッションをし、また、テーマ・作品の具体化に関して教員からの個別指導を受ける。

※オンラインプラス [準備] —BBS 上での計画案相談

面接授業の機会を生かすために、ネット上で計画案の相談を行う。

※オンラインプラス [中間] —BBS 上での中間アドバイス

制作中の課題に対して中間アドバイスをを行う。

○通信授業

テーマを決定するまでに文献・資料・事例を調査するのはもちろんのこと、オンラインでテーマを共有し担当教員と相談しながら、決定したテーマを作品としてまとめる。既修の技術や知識を総合し、場合によっては新たに必要技術習得しながら、最終提出物を制作する。

【成績評価の方法】

各ステップでの学習状況を勘案し、卒業制作提出作品、全体講評の総合評価とする。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4年次

○履修条件

以下のすべての条件を満たすこと。

・デザイン情報学科デザインシステムコースに在籍していること。

・デザイン情報学科デザインシステムコース 3年次必修科目の単位をすべて修得していること (『学生ハンドブック』p.051の特例を除く)。

・デザイン情報学科デザインシステムコース 4年次必修科目の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考

デザイン情報学科デザインシステムコース 4年次必修科目

オンラインプラス (Web 上で行う面接授業補助プログラム) を受講する場合は、インターネットに接続できる環境が必要となる。

【教材等】

○学習指導書

『卒業制作 2020年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年)

【その他】

卒業制作展で発表し、講評を行う。

面接授業について：グループワークを行う。

教職に関する科目

科目名	美術教育法 I					
授業コード	1640	授業科目名	美術教育法 I		担当者	三澤一実教授
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2~4	指定
科目区分	教職に関する科目					
授業形態	通信授業 (Web提出可 科目試験あり)					

【授業の概要と目標】

造形美術教育の実践者として身に付けるべき知識や経験、資質は、広範囲であり多種多様である。また、それらの基礎として子ども達の造形活動をさまざまな視点から観察する姿勢と、子ども達の作品の中にある優れた造形性や教育的意義を発見できる視点を持つことがまず重要である。子どものどこにどのような光を当てればよいのか、そこからどのような教育的な展望を持つことができるのかという問題は、造形美術教育の入門でもあり、永遠のテーマでもある。ここでは、現在の具体的な実践事例を含む造形美術教育の諸相を概括し、その基本理念の考察へと学習を進め、造形美術教育者としての視点育成を目的とする。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

身近な幼児・児童（3歳～10歳）の年齢の違う描画作品2点を取り上げ、造形美術教育の視点から解説すること。実際にその子どもが描いているところを観察するほうが望ましいが、雑誌や各種教科書などに掲載されているものでもよい。作品のコピーを添付し、子どもの年齢や性別、作品の出典などを明示すること。

○通信授業課題 2

昨今の初等教育における教育問題をひとつ取り上げ、ハーバード・リードの教育理念や造形表現における発達段階、小学校学習指導要領などと対比し、造形美術教育の視点から論評すること。

新聞、雑誌、WEBサイトなどを閲覧し、注目すべき教育問題を取り上げること。その情報の出典を明示すること。

*課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書『美術教育資料研究』第I章と第II章、同じく教科書『美術の授業のつくりかた』第I章を中心として学習するとともに、教育問題についての情報を集め考察し、造形美術教育者としての視点を育成する。

- ・『美術教育資料研究』第I章 美術教育法の目的と意義
- ・『美術教育資料研究』第II章 子どもの造形表現
- ・『美術の授業のつくりかた』第I章 美術科の特徴と今日的課題
- ・『小学校学習指導要領解説 図画工作編』／図画工作科の考え方についての理解
- ・『中学校学習指導要領解説 美術編』／美術科の考え方についての理解
- ・情報収集／新聞、雑誌、WEBサイトなどを閲覧し、昨今の教育問題についての見識を広める

【成績評価の方法】

◎科目試験

上記授業内容から出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

教職課程（中学、高校1種 [美術]）に登録していること。

○備考

なし

【教材等】

○教科書

大坪圭輔『美術教育資料研究』（武蔵野美術大学出版局 2014年）

三澤一実編者『美術の授業のつくりかた』（武蔵野美術大学出版局 2020年）

文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』（日本文教出版 2017年）

文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』（日本文教出版 2017年）

※Webからのプリントアウトも可

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

【その他】

○参考図書

ハーバード・リード『芸術による教育』（フィルムアート社 2001年）

大坪圭輔編『求められる美術教育』（武蔵野美術大学出版局 2020年）

科目名	美術教育法 II						
授業コード	1650	授業科目名	美術教育法 II			担当者	大坪圭輔教授、山口正己講師、松本敏裕講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T1、S1)	学年	2~4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

造形美術教育は子どもの成長の様相を基に行われる。特に「美術教育法 I」で学んだ造形表現における子どもの発達については、造形美術教育実践者の基礎的な知識として重要である。ここではそのような発達に対応した指導の実践事例として、チゼックスクールと自由画教育運動を取り上げる。また、中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領の内容について学習し、それらの考え方と比較検討する。これらの学習を通して、中等教育段階での造形美術教育の構造を明らかにし、中でも学習指導要領が重視する鑑賞領域の指導を模擬授業の形で実施し、実践的に学習することを目的とする。

【課題の概要】

○ 通信授業課題 ※ 面接授業で提出

『美術教育資料研究』第Ⅲ章第4節に掲載のチゼック問答集を読み、現在の造形美術教科と比較考察し論述すること。面接授業ではこれらの考察を中心として講義を進める。

大学指定のレポート用紙を用い返信可能な状態で持参、提出すること。

○ 面接授業課題

「中学校および高等学校における鑑賞題材を設定し、研究発表を行うこと。」

講義の中で鑑賞題材の研究発表を行い、相互に検討をする。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

通信授業 → 面接授業

○ 通信授業 ※ 面接授業で提出

教科書『美術教育資料研究』第Ⅲ章第4節に掲載のチゼック問答集を精読し、現在の美術教育と比較することになるが、各質問に対するチゼックの答えについて、賛同できるもの、疑問に思うものなどに分類し、その中でもとくに重要と考えるものについて、自身の考察を加えるようにする。

・『美術教育資料研究』第Ⅲ章第4節 チゼックスクール

○ 面接授業

チゼックスクールの実践と自由画教育運動を比較するとともに、近現代の造形美術教育史を概観する。

また中学校、高等学校の学習指導要領についての理解を深め、中等教育段階における授業題材開発の視点を育成する。

第1日 チゼックスクールの実践についての考察と日本美術教育史概説

第2日 自由画教育運動と中学校、高等学校学習指導要領

第3日 鑑賞題材の開発と研究発表

【成績評価の方法】

通信授業課題及び面接授業課題を基に評価する。

【履修条件及び履修年次】

○ 履修年次

2年次～

○ 履修条件

教職課程（中学、高校1種 [美術]）に登録していること。

「美術教育法 I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○ 備考

なし

【教材等】

○ 教科書

大坪圭輔『美術教育資料研究』（武蔵野美術大学出版局 2014年）

文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』（日本文教出版 2017年）

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編』（教育図書 2019年）

○ 学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

* スクーリング時にセット販売

・文部科学省検定済小学校教科書

『ずがこうさく 1・2 上』『ずがこうさく 1・2 下』『図画工作 3・4 上』『図画工作 3・4 下』『図画工作 5・6 上』『図画工作 5・6 下』（開隆堂出版）

・文部科学省検定済中学校教科書

『美術 1』『美術 2・3』（開隆堂出版）

・文部科学省検定済高等学校教科書

『高校美術 1』『高校美術 2』『高校美術 3』（日本文教出版）

【その他】

○参考図書

大坪圭輔編『求められる美術教育』（武蔵野美術大学出版局 2020 年）

三澤一実監修『美術の授業のつくりかた』（武蔵野美術大学出版局 2020 年）

科目名	美術教育法 III						
授業コード	1660	授業科目名	美術教育法 III			担当者	大坪圭輔教授、山口正己講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	3～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業（科目試験あり）						

【授業の概要と目標】

教育活動の理念やシステムは時代の思潮によって変革され、変容していく。教育実践者はその改革が在るべき姿として正しいものといえるのか、その目指すところは未来の理想となり得るものかを絶えず検証する姿勢を持たねばならない。また造形美術教育はその性格や内容から、社会思潮を積極的に受け止め、時代に対応した教育の意義や価値を検証する必要がある。そのような研究は教育史論をはじめとして、実践論、教育哲学論、造形芸術論などを踏まえた学際的な性格を持つものである。ここでは障害者の造形美術教育にまで視野を広げ、今日的な課題を中心として、研究的姿勢を身に付けることを目的とする。

【課題の概要】

○ 通信授業課題 1

「身近な中学生の作品 2 点を取り上げ、造形美術教育の視点から解説すること」

実際にその中学生が描いているところを観察するほうが望ましいが、雑誌や各種教科書などに掲載されているものでもよい。また、作品は平面でも立体でもよい。

作品のコピーを添付し、作者の学年や性別、素材や技法、出典などを明示すること。

○ 通信授業課題 2

教科書『美術教育資料研究』第 IV 章及び『美術の授業のつくりかた』の中から、今日的課題として重要な内容をひとつ選び、その内容について自分の意見や考えを述べること。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書『美術教育資料研究』第 IV 章及び『美術の授業のつくりかた』を精読し、自身の教育観を広げられるようにする。また、現在の教育改革についても情報を集め、考察を深めて行くようにする。

・『美術教育資料研究』第 IV 章 現代美術教育の諸相

・『美術の授業のつくりかた』

【成績評価の方法】

◎ 科目試験

上記授業内容から出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～（但し、別表第4での登録の場合は2年次～履修可）

○履修条件

教職課程（中学、高校 1 種 [美術]）に登録していること。

「美術教育法 I・II」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備 考

なし

【教材等】

○教科書

大坪圭輔『美術教育資料研究』（武蔵野美術大学出版局 2014 年）

三澤一実監修『美術の授業のつくりかた』（武蔵野美術大学出版局 2020 年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2020 年度』（武蔵野美術大造形学部学通信教育課程 2020 年）

* 「美術教育法 II」のスクーリング時にセット販売

・文部科学省検定済小学校教科書

『ずがこうさく 1・2 上』『ずがこうさく 1・2 下』『図画工作 3.4 上』『図画工作 3・4 下』『図画工作 5・6 上』『図画工作 5・6 下』（開隆堂出版）

・文部科学省検定済中学校教科書

『美術 1』『美術 2・3』（開隆堂出版）

・文部科学省検定済高等学校教科書

『高校美術 1』『高校美術 2』『高校美術 3』（日本文教出版）

【その他】

○参考図書

大坪圭輔編『求められる美術教育』（武蔵野美術大学出版局 2020 年）

科目名	美術教育法 IV						
授業コード	1670	授業科目名	美術教育法 IV			担当者	大坪圭輔教授、山口正己講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T1、S1)	学年	3～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

「開かれた学校」のことが意味するものは、情報公開や地域、保護者、生徒などの学校経営参加だけでなく、教育活動そのものを学外にまで広げ、社会や地域の教育力を活用することにある。芸術関係教科は、いち早く学外の教育活動との連携を模索してきている。ここではまず、造形美術教育に関する学外の教育活動についての理解を深め、教科学習との理想的な関係性を考察する。また、造形美術教育の歴史を概観し、今日の造形美術教育の様相や将来のあるべき姿について研究を深めることを目的とする。

【課題の概要】

○通信授業課題 ※ 面接授業で提出

「学校外での造形美術教育の事例をひとつ取り上げ、美術教科と学校外の造形美術教育の関わりや、将来像について論述すること」

面接授業ではこれらの考察を中心として講義を進める。

大学指定のレポート用紙を用いて返信可能な状態で持参、提出すること。

○面接授業課題

「中等教育段階の学校教育における造形美術教育の意義や将来像を、日本の美術教育史を踏まえて論述すること」

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

通信授業 → 面接授業

○通信授業

教科書『美術教育資料研究』及び『美術の授業のつくりかた』を総覧するとともに、美術館の Web サイトなどを閲覧し、美術館教育など学校外での美術教育の事例について情報を集めるなどして、学校教育外の造形美術教育の現状について考察する。

○面接授業

現在の造形美術教育の状況を歴史的視点などから包括的に考察し、中学校及び高等学校学習指導要領についての理解を深め、中等教育段階での造形美術教育の意義や実際についての研究を進めることができるようにする。

第1日 学外での造形美術教育（通信課題発表を中心として）／日本の美術の重視

第2日 日本美術教育史／中学校学習指導要領についての考察（小学校、高等学校との関連など）

第3日 題材研究・題材設定、発表講評／面接授業課題

【成績評価の方法】

通信授業課題及び面接授業課題を基に評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～（但し、別表第4での登録の場合は2年次～履修可）

○履修条件

教職課程（中学、高校1種 [美術]）に登録していること。

旧課程登録者は、別表第4（中学、高校1種 [美術]）に登録していること。

「美術教育法 I・II・III」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考

なし

【教材等】

○教科書

大坪圭輔『美術教育資料研究』（武蔵野美術大学出版局 2014年）

三澤一実監修『美術の授業のつくりかた』（武蔵野美術大学出版局 2014年）

文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』（日本文教出版 2017年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2020年度』（武蔵野美術大造形学部学通信教育課程 2020年）

【その他】

○参考図書

大坪圭輔編『求められる美術教育』（武蔵野美術大学出版局 2020年）

文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』（日本文教出版 2017年）

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編』（教育図書 2019年）

科目名	工芸教育法 I						
授業コード	1680	授業科目名	工芸教育法 I			担当者	大坪圭輔教授
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2~4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業(Web提出可 科目試験あり)						

【授業の概要と目標】

人としての身体機能の低下は、多方面から指摘されている。その中で「手仕事」や「もの作り」の教育についての再評価の動きが強まっている。手工教育として明治期に導入された日本の工芸教育は、スロイドシステムに大きな影響を受けている。またその教科性から、手工教育は国策とのつながりも強い。ここでは手工教育の具体的な目的や内容を明らかにすることによって、現在の工芸教育の位置付けを考察する。また、構成教育や国民学校での実践などへも視野を広げ、「手仕事」の持つ教育的な意義を考え、工芸教育の理念を構築できるようにする。

【課題の概要】

○通信授業課題1

身近な幼稚園児、もしくは小学校児童の工作作品2点を取り上げ、工芸教育の視点から解説する。

実際にその子どもが制作しているところを観察するほうが望ましいが、雑誌や各種教科書、WEBサイトなどに掲載されているものでもよい。作品のコピーを添付し、子どもの年齢や性別、出典などを明示すること。

○通信授業課題2

教科書『工芸の教育』第3章手工教育の変遷・第2節手工教育のはじまりとしての「思物」に示されている「フレール恩物」について調べ、その意義と現代の知育玩具等とを比較考察する。

*課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書『工芸の教育』第3章手工教育の変遷の中から、下に示すような手工教育、工芸教育に関する事例を取り上げて学修する。また、小学校図画工作科における子どもの発達の様相及び、工作指導について理解を深め、上級学校での工芸教育の理念や目的について考察する。

- ・『工芸の教育』第3章手工教育の変遷／恩物、ネース講習、構成教育、国民学校令
- ・『小学校学習指導要領解説 図画工作編』 工作領域の学習の目的と内容
- ・『中学校学習指導要領解説 美術編』 工芸領域の学習の目的と内容
- ・『高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編』 工芸科の学習の目的と内容

【成績評価の方法】

○科目試験

上記授業内容から出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

教職課程（高校1種 [工芸]）に登録していること。

○備考

なし

【教材等】

○教科書

大坪圭輔『工芸の教育』（武蔵野美術大学出版局 2017年）

文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』（日本文教出版 2017年）

文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』（日本文教出版 2017年）

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編』（教育図書 2019年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

*スクーリング時にセット販売

文部科学省検定済 小学校教科書

『ずがこうさく1・2上』『ずがこうさく1・2下』『図画工作3・4上』『図画工作3・4下』

『図画工作5・6上』『図画工作5・6下』（開隆堂出版）

【その他】

○参考書

大坪圭輔編『求められる美術教育』（武蔵野美術大学出版局 2020年）

三澤一実監修『美術の授業のつくりかた』（武蔵野美術大学出版局 2020年）

大坪圭輔『美術教育資料研究』（武蔵野美術大学出版局 2014年）

科目名	工芸教育法 II						
授業コード	1690	授業科目名	工芸教育法 II			担当者	大坪圭輔教授
開講期間	通年	単位数	2単位(T1、S1)	学年	3～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

「手仕事」や「もの作り」の視点から工芸教育法の理念を考察した工芸教育法 I を基に、ここでは工芸教育の歴史及びデザイン・工芸史を概観し、現代の学校教育の中での工芸教育の位置付けを明らかにしていく。また現在の学習指導要領は地域の特色ある材料を生かすことや、伝統的な工芸についての理解や鑑賞、そこからの発想などを重視している。これらを踏まえて、身近な自然や環境との出会いを基にして始まる初等教育段階の造形美術教育と、中等教育段階の工芸領域における材料体験を重視した学習とのつながりを考察し、中学校美術科工芸領域及び高等学校芸術科工芸の具体的な題材について学習する。

【課題の概要】

- 通信授業課題 面接授業で提出
身近な伝統工芸をひとつ取り上げ解説をし、それを基にした中学校美術科工芸領域あるいは、高等学校芸術科工芸の授業題材としての展開の可能性を論述する。
面接授業ではこれらの考察を中心として講義を進める。
所定の用紙を用い返信可能な状態で持参、提出すること。
取り上げた伝統工芸作品の写真などを添付すること。
授業題材としての展開ではその目的や方法などを具体的に想定する。
- 面接授業課題
高等学校芸術科工芸 I における表現と鑑賞の授業計画案を作成し、その評価の観点を論述する。
学習指導要領の主旨を生かし、発展的な授業計画案を考える。
*課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

通信授業 → 面接授業

- 通信授業
地域の伝統工芸について調査するとともに、『中学校学習指導要領解説美術編』、『高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編』を中心として、現代の学校教育における工芸授業実践の目的や内容、方法などを考察し、題材展開の実際を学習する。
・『中学校学習指導要領解説 美術編』 工芸領域の学習の目的と内容、指導計画の作成と内容の取り扱い
・『高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編』 工芸科の学習の目的と内容、内容の取り扱い
- 面接授業
工芸教育の意義を歴史的視点から考察し、中学校及び高等学校学習指導要領についての理解を深め、現代の中等教育における工芸の指導の実際を学習する。
第1日 伝統工芸の題材化（通信課題を中心として）／工芸学習の実際
第2日 デザイン史、工芸史、工芸教育史概説／中学美術工芸領域、高等学校学習指導要領芸術科工芸についての考察、／工芸技法の基礎理解
第3日 題材設定の作成、発表、講評

【成績評価の方法】

通信授業課題及び面接授業課題を基に評価する。

【履修条件及び履修年次】

- 履修年次
3年次～（但し、別表第4での登録の場合は2年次～履修可）
- 履修条件
教職課程（高校1種 [工芸]）に登録していること。
「工芸教育法 I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。
- 備考
なし

【教材等】

- 教科書
大坪圭輔『工芸の教育』（武蔵野美術大学出版局 2017年）
文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』（日本文教出版 2017年）
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編』（教育図書 2019年）

○学習指導書

『造形文化科目/文化総合科目・教職に関する科目 2020 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020 年）

※ スクーリング時にセット販売

・文部科学省検定済中学校教科書

『美術 1』『美術 2・3』（開隆堂出版）

・文部科学省検定済高等学校教科書

『工芸 I』『工芸 II』（日本文教出版）

【その他】

○参考図書

大坪圭輔編『求められる美術教育』（武蔵野美術大学出版局 2020 年）

大坪圭輔『美術教育資料研究』（武蔵野美術大学出版局 2014 年）

三澤一実監修『美術の授業のつくりかた』（武蔵野美術大学出版局 2020 年）

科目名	情報教育法 I (2020年度をもって廃止)						
授業コード	1700	授業科目名	情報教育法 I			担当者	大坪圭輔教授、栗田るみ子講師、小林道夫講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2~4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業(Web提出可 科目試験あり)						

【授業の概要と目標】

教科「情報」は2000年度からスタートした。この教科は道具としての情報通信メディアが持つ、科学的、技術的、社会的、文化的、そして人間的な内容をトータルに学んでいくものである。「情報教育法 I」では、技術の進歩の変遷や社会環境の変化などを具体的に取り上げ、文部科学省指導要領解説などを用いて進める。特に初歩的なリテラシーの教授法と生徒の応用力を高める部分についてはインターネットを活用した情報収集や情報の加工について実体験的に考えられるようにする。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

コンピュータを使ってなにができるか。

マルチメディア情報の受信と発信について学ぶ。

情報化社会の変遷に伴い様々なコミュニケーションの方法が誕生しているが、中でも Web サイトは、文字、静止画、動画、音声など、多様な形態の情報を統合してインタラクティブに扱うことができ、現代の最も利用されている情報収集・発信のツールとなっている。

○通信授業課題 2

情報化が社会に及ぼす影響と課題について考える。

現在ユビキタスコンピューティングの時代といわれ、私たちの生活の中の何処にでもコンピュータが存在しているが、1950 年頃から今日に至るまでのコンピュータの歴史を調べ、私たちの生活がどのように変化してきたか調べる。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

指定されている教材等を読み、高等学校「情報」の概要とそこに求められている課題を理解すること。

『高等学校学習指導要領解説 情報編』2019 年版「社会と情報」「情報の科学」についてそれぞれの指導内容を理解する。

- 1 情報とは何か
- 2 情報機器のしくみと歴史
- 3 情報通信ネットワークの仕組みと理解
- 4 情報化社会に及ぼす影響

『キーワードで理解する最新情報リテラシー』

IT 分野のキーワードを理解し、教材として利用する場合の指導方法等を考える。

【成績評価の方法】

◎科目試験

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

教職課程（高校 1 種 [情報]）に登録していること。

○備考

「情報教育法 I」を2年次に履修し、「情報教育法 II」を3年次に履修するのが望ましい。

3年次編入学生は、ともに3年次に履修すること。

【教材等】

○教科書

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 情報編』（開隆堂出版 2019 年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2020 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020 年）

科目名	情報教育法 II (2020年度をもって廃止)						
授業コード	1710	授業科目名	情報教育法 II	担当者	大坪圭輔教授、栗田るみ子講師、小林道夫講師		
開講期間	通年	単位数	2単位(T1、S1)	学年	3~4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業 (Web提出可) 面接授業						

【授業の概要と目標】

普通教科「情報」の指導を中心とした「情報教育法 I」の受講を前提に、「社会と情報」「情報の科学」の2つの教科内容の指導方法を中心に講義を行う。特に、指導の工夫を高等学校における実践例をもとに解説し、学習指導の在り方を考察する。機器やソフトウェア等の教材の活用方法を含めて行うが、コンピュータ関連の技術の進歩のなかでは特定技術に依拠した指導方法は有効とは言えず、受講者にはあくまでも教材活用の基本を獲得することを期待する。なお、面接授業においては、授業計画案についてのレポート等の課題の提出を求め、発表・講評などを行う。レポートの書式は自由とし、各自の指導したい内容をまとめる。

【課題の概要】

- 通信授業課題
情報科の授業題材として「情報化が社会に及ぼす影響」の事例をひとつ取り上げ、その目的や方法を論述すること。
- 面接授業課題
普通教科「情報」の学習指導計画案についてレポートを作成すること。
面接授業には通信授業課題を持参すること。
*課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

通信授業 → 面接授業

- 通信授業
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 情報編』の普通教科「情報」の部分において、以下の内容を理解すること。
第2章 共通教科情報科の各科目
第3章 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い
- 面接授業
「情報教育法 I」の学習と「情報教育法 II」の通信授業課題、および面接授業での学習指導案作成を踏まえて、高等学校における情報教育を考える。
1 高等学校「情報」における学習指導案と年間指導計画
普通教科における実践例の紹介／専門教科における実践例の紹介
2 「情報」教育の広がり
小中学校の教育との関連／総合的学習の時間や他教科との関連／社会教育との関連／情報社会と情報倫理
3 年間指導計画をつくる (レポート提出及び講評)
各自の構想する授業実践を年間指導計画に位置づけて発表すること。

【成績評価の方法】

面接授業課題についての講評結果などを基に評価する。

【履修条件及び履修年次】

- 履修年次
3年次～ (但し、別表第4での登録の場合は2年次～履修可)
- 履修条件
教職課程 (高校1種 [情報]) に登録していること。
「情報教育法 I」の単位を修得しているか、同時に履修すること。
- 備考
「情報教育法 I」を2年次に履修し、「情報教育法 II」を3年次に履修するのが望ましい。
3年次編入学生は、ともに3年次に履修すること。
スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

- 教科書
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 情報編』(開隆堂出版 2019年)
- 学習指導書
『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2020年度』(武蔵野美術大造形学部学通信教育課程 2020年)
*スクーリング時にセット販売
文部科学省検定済高等学校教科書『社会と情報』、『情報の科学』(日本文教出版)

【その他】

教材等の内容を補う情報がある場合は、ネットフォーラムにより提供するので、参照すること。

科目名	教育原理 I						
授業コード	1600	授業科目名	教育原理 I			担当者	高橋陽一教授、田中千賀子講師、大多和雅絵講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2~4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業 (Web提出可 科目試験あり)						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、教育の理念、教育の歴史、教育の思想など広くについて、学ぶものである。ここで学んだ教育の理念・歴史・思想が、これからの教育実践や教育の社会的意義を深く考えていくための前提となる。教育をめぐって、子どもと大人、学校と家庭と社会、教育学の諸概念を理解して、さらに、古代から近代にいたる教育の歴史と思想を実践の前提となる教養として獲得することが目標である。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

「子どもにとっての教育」と題して、教科書を理解して、関心のある子どもに関するテーマを論じる課題。

○通信授業課題 2

「歴史からみえる教育の機能と理念」と題して、教科書を理解して、教育の歴史を考える課題。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書の第 1 部 (第 1 章～第 15 章) を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。必要に応じて第 2 部も参照すること。

【成績評価の方法】

◎科目試験

教科書第 1 部 (第 1 章～第 15 章) の範囲より出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

教職課程に登録していること。

○備考

2年次の履修が望ましい。

【教材等】

○教科書

高橋陽一『新しい教育通義』(武蔵野美術大学出版社 2018 年)

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2020 年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020 年)

【その他】

通信授業課題については『学習指導書』の説明を十分に理解して取りくむこと。

科目名	教師論						
授業コード	1590	授業科目名	教師論			担当者	高橋陽一教授、桑田直子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業 (Web提出可 科目試験あり)						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、教育職員免許法施行規則に定める「教職の意義に関する科目」であり、「教職の意義及び教員の役割」、「教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）」及び「進路選択に資する各種機会の提供等」を内容としている。具体的には教員の役割や歴史、そして特に美術、工芸、情報の教員の職務とその意義について理解を深めることが期待される。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

「教員生活や教員社会の特徴について、経験豊かな教員あるいは恩師の教員からヒアリングを行い、それをもとに自分なりの理想的教員像を論じなさい。」

教科書を参考に論述すること。

○通信授業課題 2

「子どもの個性を引き出し、伸ばすということについて、美術・工芸・情報科の教員の役割を論じなさい。」

教科書を参考に論述すること。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

『新しい教師論』を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。

【成績評価の方法】

○科目試験

教科書全体の範囲より出題する。

教科書を熟読して受験すること。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

教職課程に登録していること。

○備考

2年次の履修が望ましい。

【教材等】

○教科書

高橋陽一編『新しい教師論』（武蔵野美術大学出版社 2014年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

科目名	教育原理 II						
授業コード	1610	授業科目名	教育原理 II			担当者	高橋陽一教授、田中千賀子講師、大多和雅絵講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	3~4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業 (Web提出可 科目試験あり)						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、教育をめぐる社会の在り方や学校教育制度などについて、学ぶものである。「教育原理 I」で学んだ教育の理念や歴史などを踏まえて、教育が現在社会でいかに機能し、どのような問題をもち、どのように改革されるべきかを考える。教育職員免許法施行規則の定めるとおり教育に関する社会的、制度的、経営的事項を学び、さらに学校と地域の連携や学校安全という課題も併せて理解するための授業である。とりわけ、現代の日本の学校教育制度と教育行政の在り方など、私たちの教育の在り方を展望するための視野を確立することを目的とした。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

教育基本法における教育の理念について要約と考察をおこなう課題。教科書を熟読し、現行の教育基本法の全体的な方針、法令上の位置づけについて概要をまとめ、関心のある条文の一つを選んで要約すること。

○通信授業課題 2

義務教育の制度について要約と考察をおこなう課題。教科書を熟読し、義務教育の根拠となる教育制度について概要をまとめ、小学校や中学校などの機能や役割について要約すること。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書の第 2 部を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。

【成績評価の方法】

◎科目試験

教科書第 2 部各章の範囲より出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

教職課程に登録していること。

「教育原理 I」の単位を修得しているか、同時に履修登録すること。

○備考

なし

【教材等】

○教科書

高橋陽一『新しい教育通義』（武蔵野美術大学出版局 2018 年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2020 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020 年）

科目名	教育心理学						
授業コード	1620	授業科目名	教育心理学			担当者	桂瑠以講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2~4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業 (Web提出可 科目試験あり)						

【授業の概要と目標】

教育心理学の知見に基づく教授法ならびに学習指導の原理や仕組みに関する基礎的事項の理解、把握を目標とする。なかでも特に、近年の学校教育で重視されている学習者主体の指導・教授について、自主性や主体性を育てる指導・教授に必要な条件、それらが損なわれる際に引き起こされる問題などの観点から考察する。教科書では、1. 様々な学習の仕組みや原理、2. 「やる気」と呼ばれる心理状態、3. 教授方法・学習指導の形態、4. 教育評価を中心に、教師による教授と生徒の学習に関する概観を把握する。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

自己や他者の経験をふまえ、実際の学習活動において「やる気」が高められた事例、逆に「やる気」が低下させられた事例を分析研究する課題。

○通信授業課題 2

教科書をふまえて、教育心理学的知見から、学習動機を高め、持続させる教授・学習指導法を考察する課題。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書の第3章、第4章、第6章、第7章を使用する。課題に取り組む前に、各章を熟読すること。

第3章 ほめることの大切さ

古典的条件づけによる学習／道具的条件づけによる学習／観察による学習／自己強化による学習

第4章 「やる気」を考える

期待－価値モデル／統制感／原因の考え方／内発的動機づけ

第6章 どのように教えるか

学習指導の形態／発見学習／受容学習／グループ学習と個別学習の具体例／適性処遇交互作用

第7章 児童・生徒をどう評価するか

教育の成果を評価する／評価のための情報を得る方法

【成績評価の方法】

◎科目試験

教科書の該当部分より論述形式の問題を出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

教職課程に登録していること。

○備考

2年次の履修が望ましい。

【教材等】

○教科書

鎌原雅彦・竹綱誠一郎『やさしい教育心理学』(有斐閣 1999年)

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2020年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年)

科目名	特別支援教育						
授業コード	1900	授業科目名	特別支援教育			担当者	高橋陽一教授、杉山貴洋講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業 (Web提出可 科目試験あり)						

【授業の概要と目標】

特別支援教育全般の理念と理論について教科書を活用して理解する。さらに実践力を養うために、美術教員として特別な教育的ニーズをもつ小学校児童や中学校・高等学校生徒を念頭において、特別支援学校、特別支援学級及び通常学級における全般的な実践課題を理解し、子どもの理解、教育課程の構想と指導・支援の基本を学ぶ。

目標としては、(1) 発達障害を含む特別の支援を必要とする子どもの障害の特性と心理の発達とインクルーシブ教育を含む特別支援教育の理解、(2) 発達障害を含む特別の支援を必要とする子どもに対する教育課程や支援の方法、(3) 障害以外の特別な教育的ニーズのある子どもの学習上及び生活上の困難への対応を理解して、特別支援教育の理解と実践力を獲得する。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

「インクルーシブ教育とは何か」

まず教科書第1章を熟読し、さらに第2章と第3章を踏まえうえて、今日の学校と社会の課題からインクルーシブ教育とは何かを整理すること。この動向は日々変化しているので、自己の見聞・体験や他の書籍・報道なども引用すること。

○通信授業課題 2

「障害や多様なニーズに対応する教育とは何か」

まず教科書第4章以後を熟読して、様々な障害や障害以外の特別な教育的ニーズについて考え、学校でどのような配慮をするべきか教師としての立場で実践的に記すこと。この動向は日々変化しているので、自己の見聞・体験や他の書籍・報道なども引用すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書『特別支援教育とアート』を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。

【成績評価の方法】

◎科目試験

教科書全体の範囲より出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

教職課程に登録していること。

○備考

なし

【教材等】

○教科書

高橋陽一・葉山登・杉山貴洋・川本雅子・田中千賀子『特別支援教育とアート』

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

科目名	道徳教育の理論と方法						
授業コード	1720	授業科目名	道徳教育の理論と方法			担当者	高橋陽一教授、大間敏行講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	3～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業 (Web提出可 科目試験あり)						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、道徳に関する人間と社会の在り方を考え、学校における道徳教育の意味を探求するものである。道徳が社会の中で果たす意味を歴史と現代社会において検討し、それをもとに、学校教育において道徳教育とはいかにあるべきかを考える。「道徳」なるものが自明の前提ではなく、研究され、そして課題となるものとして深く考察する姿勢が望まれる。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

「道徳とは何であったか」

歴史上の事象でも、個人の体験でも、あるいは作品の中の世界でも、「道徳」が如何に語られ、それについてどう考えるかを教科書と学習指導書を踏まえて論じること。学校教育以外のテーマでよい。

○通信授業課題 2

「学校で道徳をどう教えるか」

中学校又は高等学校において、道徳をどう教えるかを考えるレポート。かならず授業の目的と時間配分、教材について明示すること。その他学習指導書で示された条件をふまえること。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書『道徳科教育講義』を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。具体的な通信授業課題は学習指導書に説明しているので、十分に読んでほしい。

【成績評価の方法】

◎科目試験

教科書全体の範囲より出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

3年次～

○履修条件

教職課程に登録していること。

○備考

3年次の履修が望ましい。

【教材等】

○教科書

高橋陽一・伊東毅『道徳科教育講義』（武蔵野美術大学出版局 2017年）

文部科学省『中学校学習指導要領解説 道徳編』（教育出版 2017年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

【その他】

通信授業課題については『学習指導書』の説明を十分に理解して取りくむこと。

旧科目名：道徳教育の研究

科目名	総合的な学習の時間の指導法						
授業コード	1910	授業科目名	総合的な学習の時間の指導法	担当者	高橋陽一教授、川本雅子講師、田中千賀子講師		
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2~4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業 (Web提出可 科目試験あり)						

【授業の概要と目標】

総合的な学習の時間は、探求的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことで、子どもたちの課題探求能力やよりよく生きていくための資質・能力を育てるためのものである。美術教員を目指す学生がこの指導法を獲得して、さらにチーム学校で総合学習を牽引するためのアクティブ・ラーニングの効果的な手法であるワークショップの技法を修得することをテーマとする。

到達目標としては、(1) 総合的な学習の時間の意義や学校教育における位置づけを理解して美術教員がチーム学校の一員として率先して担うべき志向を体得し、(2) 総合的な学習の時間に関する学校としての全体計画、年間指導計画、単元指導案などを作成する能力を獲得して美術教員として言語活動や記録と表現を促進するワークショップ技法に熟練し、(3) 生きる力としての思考力・判断力・表現力、課題探求能力や問題発見能力などを子どもたちが獲得するための指導と評価の考え方を理解して、子どもたち自身の記録と表現としての自己評価・ポートフォリオ評価や教師による学習状況の評価方法などの知識と技術を獲得する。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

「総合的な学習の時間の概要と可能性」

教科書をもとに、今日における総合的な学習の時間はどのようなものを概説すること。その上で、自分自身の観点を含めて、総合的な学習の時間が子どもたちにどのような可能性を提供するかを論じること。

○通信授業課題 2

「総合的な学習の時間で取り組むテーマと計画」

自分自身の知識や関心をもとに、校種・学年などを仮想して、総合的な学習の時間に取り上げるべきテーマを設定すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書『総合学習とアート』を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。

【成績評価の方法】

◎科目試験

教科書全体の範囲より出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

教職課程に登録していること。

○備考

なし

【教材等】

○教科書

高橋陽一・葉山登・杉山貴洋・川本雅子・田中千賀子・有福一昭『総合学習とアート』

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2020年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年)

科目名	特別活動の理論と方法					
授業コード	1730	授業科目名	特別活動の理論と方法		担当者	橋本萌講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2～4	指定
科目区分	教職に関する科目					
授業形態	通信授業 (Web提出可 科目試験あり)					

【授業の概要と目標】

本授業科目は、「特別活動の指導法」(教育職員免許法施行規則)を内容としている。特別活動についての全般的な理解を深めると同時に、特別活動が抱える今日的課題を受講者の問題意識に沿いながら考察する。教科書では、「学級(ホームルーム)活動」「生徒会活動」「学校行事」のもつ問題点を個々に取りあげながら、特別活動という領域のもつ内容的広がりを多様に構想できるようになることを目標とする。その上で、教育の現状に対する自分なりの視点・視角をもつことができるようにする。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

教科書を踏まえて、「学級(ホームルーム)活動」「生徒会活動」「学校行事」について個々の現状を把握する。その上で、「批判」「分析」「提言」の三段階をもって考察し、「私のつくる特別活動」の構想を課題とする。

○通信授業課題 2

教科書を踏まえて、学校教育の抱える今日的課題(特別活動に関する)を自分なりにまとめる。その際に、自分固有の問題意識をもつことを条件とするが、「自主性と共同性」という視点からの考察が望ましい。

*「問題意識」：自分がこだわっている考え方、価値観など。

*課題については学習指導書を必ず参照すること。

*必ず「タイトル」を記載すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書『未来の教師における特別活動論』を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。

第1章 「特別活動」とは何か

第2章 学級活動・ホームルーム活動 (その1)

第3章 学級活動・ホームルーム活動 (その2)

第4章 学級活動・ホームルーム活動 (その3)

第5章 生徒会活動

第6章 学校行事

第7章 クラブ活動と部活動

第8章 諸外国の教科外活動

【成績評価の方法】

◎科目試験

教科書全体の範囲より出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

教職課程に登録していること。

○備考

2年次の履修が望ましい。

【教材等】

○教科書

伊東毅『未来の教師における特別活動論』(武蔵野美術大学出版局 2011年)

文部科学省編『中学校学習指導要領解説 特別活動編』(東山書房 2017年)

文部科学省編『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』(東京書籍 2019年)

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2020年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年)

【その他】

旧科目名：特別活動の研究

科目名	教育方法						
授業コード	1630	授業科目名	教育方法			担当者	三澤一実教授、北沢昌代講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T1、S1)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

教育計画は教育の理念や目標を具現化し、実践可能な授業としての形を作ることである。その場合、指導方法についての研究や、題材論、素材や用具についての知識、教育環境の整備など多岐に渡る視点が必要となってくる。ここでは、授業を成立させる要素についての理解を深め、美術教育法や工芸教育法、情報教育法などを通して構築した教育の理念を効果的に実践するための方法を研究する。具体的には学習指導案や年間指導計画表、週案の考え方を学習し、模擬授業へと発展させる。

【課題の概要】

○面接授業課題

「それぞれの履修科目に応じた学習指導案を作成し、模擬授業を行うこと。」

学習意欲こそが基本的な学力であるとする視点に立ち、各題材の導入部分を中心とした模擬授業を実施する。

○通信授業課題 返却用の封筒を同封すること

「生徒の主体性を生かした年間指導計画と、その中の一題材についての学習指導案及び、その題材で用いるワークシートを作成すること。」

現代の開かれた学校教育の理念を生かし、学習指導要領に基づいた発展性のある授業計画を考える。

面接授業内で、本課題の解説を行うとともに課題説明プリント、および課題用紙を配布する。

*課題については学習指導書を必ず参照すること。

*年間指導計画、学習指導案、ワークシートを一括して提出すること。

【授業計画】

面接授業 → 通信授業

○面接授業

教育計画の意味や目的を理解し、その具体的な作成方法を学習する。またそれぞれの状況に応じた指導方法を研究し、指導力の育成を図る。

第1日 教育計画の考え方、各種指導案の研究、教育環境の設計

第2日 学習指導案の制作

第3日 模擬授業による討議、講評

○通信授業

面接授業での学習をもとに、武蔵野美術大学出版局刊『美術の授業のつくりかた』、各学習指導要領解説を中心として、学習意欲を引き出す主体的な学習活動を基本とした教育方法を研究する。

・『美術の授業のつくりかた』第2章・3章・4章 授業の組み立てと学習指導・教科経営・題材開発研究

・各学習指導要領解説

【成績評価の方法】

面接授業課題及び通信授業課題を基に評価する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

教職課程に登録していること。

○備考

「美術教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」「工芸教育法Ⅰ・Ⅱ」「情報教育法Ⅰ・Ⅱ」などの教育内容の理解が前提となるために、登録している免許に応じてこれらの科目を修得または同時に履修登録をすることが望ましい。

スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

○教科書

三澤一実編『美術の授業のつくりかた』（武蔵野美術大学出版局 2020年）

（美術・工芸免許状登録者）文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』（日本文教出版 2017年）※

※webからのプリントアウトも可

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 芸術編 音楽編 美術編』（教育図書 2019年）

（情報免許状登録者）文部科学省『高等学校学習指導要領解説 情報編』（開隆堂出版 2019年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2020 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020 年）

※ スクーリング時にセット販売

（美術・工芸免許状登録者）文部科学省検定済中学校教科書『美術 1』, 『美術 2・3』（開隆堂出版）

文部科学省検定済高等学校教科書『高校美術 1』, 『高校美術 2』, 『高校美術 3』（日本文教出版）

文部科学省検定済高等学校教科書『工芸 I』, 『工芸 II』（日本文教出版）

（情報免許状登録者）文部科学省検定済高等学校教科書『社会と情報』, 『情報の科学』（日本文教出版）

【その他】

参考図書：大坪圭輔編『求められる美術教育』（武蔵野美術大学出版局 2020 年）

科目名	生活指導の理論と方法						
授業コード	1740	授業科目名	生活指導の理論と方法			担当者	渡辺典子講師
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2~4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業 (Web提出可 科目試験あり)						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、「生徒指導の理論及び方法」と「進路指導の理論及び方法」(教育職員免許法施行規則)を内容としている。指導の背後にある基本的な理論をふまえた上で、生活指導の歴史的・社会的意味について考察する。さらに、学校教育をめぐる諸問題に対する関わりを考えることを通して、主体形成の問題に迫っていききたい。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

「教員として子どもに関わる立場から、学級崩壊現象について論じなさい」
上記の課題について、教科書等を参考に論述すること。

○通信授業課題 2

「児童・生徒の主体性をどのようにのばすかについて述べなさい」
上記の課題について、教科書等を参考に論述すること。

*課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書『これからの生活指導と進路指導』を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。

- 第1章 学校教育における生活指導
- 第2章 学校教育における進路指導
- 第3章 生活指導とは何か
- 第4章 生活指導の方法
- 第5章 進路指導の歴史
- 第6章 進路指導の理論
- 第7章 キャリア教育の理念・実態・課題
- 第8章 不登校とサポート体制づくり
- 第9章 文部科学省のいじめ対策
- 第10章 いじめへの対応と学級活動・生徒会活動
- 第11章 ジェンダーと学校
- 第12章 多文化教育と学校
- 第13章 問題行動と生活指導
- 第14章 十八歳成人と主権者教育
- 第15章 懲戒と指導

【成績評価の方法】

◎科目試験

教科書全体の範囲より出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

教職課程に登録していること。

○備考

2年次の履修が望ましい。

【教材等】

○教科書

高橋陽一・伊東毅編『これからの生活指導と進路指導』(武蔵野美術大学出版社 2020年)

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2020年度』(武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年)

【その他】

旧科目名：生活指導の研究

科目名	教育相談論						
授業コード	1750	授業科目名	教育相談論			担当者	伊東毅教授
開講期間	通年	単位数	2単位(T2)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業(Web提出可 科目試験あり)						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、教育職員免許法施行規則上の「教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法」に相当するものである。教育相談やカウンセリングの理論・実践を、その歴史的経緯をおさえながら学ぶことを目的とする。教育相談やカウンセリングの成り立ち、及びこれらが立脚する基礎理論を学ぶことからはじめ、いじめ・不登校・非行などの諸問題にかかわる具体的な実践をも考察していく。

具体的な到達目標は、(1) 学校における教育相談の意義と理論やこれに関わる心理学の基礎を理解し、(2) 生徒の不応や問題行動の意味を知るとともにそのシグナルを受けとめる方法を理解するとともにカウンセリングマインドの必要性と基礎的技法を理解し、(3) 生徒や保護者に対する教育相談の目標の立て方や進め方を例示することができたり、諸問題に対する発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方や各機関との連携の意義や必要性を理解すること、である。

【課題の概要】

○通信授業課題 1

「フロイトに基礎を置く精神分析療法とロジャーズに基礎を置くカウンセリングのそれぞれの特徴を指摘した上で、それらのメリットおよびデメリットについて論じなさい。」

上記の課題について、教科書等を参考に論述すること。

○通信授業課題 2

「いじめ・不登校・非行などの教育問題に対して、どのような教育相談の方法やシステムが有効か、これまでの文部科学省（含かつての文部省）の対策にも触れながら論じなさい。その際、議論を具体化するために、一つの教育問題に焦点を絞ってもよい。」

上記の課題について、教科書等を参考に論述すること。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

○通信授業

教科書『新しい教育相談論』を読みながら学習を進め、通信授業課題に取り組むこと。

第1章 教育相談とは何か

第2章 教育相談をめぐる学校教育政策の動向

第3章 教育心理学の基本

第4章 発達理論の基本

第5章 友人関係・社会性の発達

第6章 発達障害の理解と支援

第7章 カウンセリングの基本

第8章 心理療法の理解

第9章 いじめの実態と対策の動向

第10章 不登校の実態と対策の動向

第11章 非行少年の実態とその処遇

第12章 問題行動とカウンセリング

第13章 道徳教育と教育相談

第14章 多文化をめぐる対応

第15章 宗教と多文化をめぐる学校教育政策の動向

【成績評価の方法】

◎科目試験

教科書全体の範囲より出題する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

教職課程に登録していること。

○備考

2年次の履修が望ましい。

【教材等】

○教科書

高橋陽一・伊東毅編『新しい教育相談論』（武蔵野美術大学出版局 2016年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2020年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020年）

科目名	教育実習 I						
授業コード	1770	授業科目名	教育実習 I			担当者	大坪圭輔教授、三澤一実教授、高橋陽一教授、伊東毅教授
開講期間	通年	単位数	2単位(S2)	学年	4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、中学校又は高等学校において行う教育実習である。教育実習は、実習校においてその学校の指導教諭の指示のもとで、観察実習、授業実習、研究授業等の形態で行われるものである。しかし、実習生は、その学校の生徒にとっては教師を目指している人、つまり「先生」としてみられるのであり、実習生の高い自覚と十分な研鑽が求められる。なお教育実習は4年次に実施され、高等学校免許状のみ取得する場合は本授業のみの2週間であるが、中学校免許状を取得する場合は引き続き「教育実習 II」と併せて3週間又は4週間の実習となる。

【課題の概要】

○面接授業課題

実習に当たっては、『教育実習日誌』に毎日の実習を記録し、指導教諭の点検を仰ぐ。この『日誌』が実習校を通じて大学に提出されることとなる。

【授業計画】

○面接授業

「教育実習 I」のみの場合は2週間又は3週間、「教育実習 II」と併せて行う場合は3週間又は4週間にわたる。日程や具体的な実習内容などは各実習校により異なる。

【成績評価の方法】

実習校より提出された評価をもとに、『教育実習日誌』などを勘案して採点する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4年次

○履修条件

教職課程に登録していること。

「教育実践の理論と方法」の第1回から第3回の事前指導をすべて受けた4年次の者に限る。

その他『教職課程ガイドブック』に示された教育実習受講資格を満たしていること。

○備考

なし

【教材等】

『教育実習日誌』（武蔵野美術大学通信教育課程）※「教育実践の理論と方法」第3回面接授業時に配付

【その他】

教育実習にあたっては多くの注意事項や手続きがあり、大学の指導を守り、必要な条件をみたく場合のみ実習を行うことができる。また実習校の選定や各種の調整など、学生の責任において行うことが多い。このため、月刊誌『武蔵美術通信』などに掲載する情報を十分に読んで準備をする必要がある。

科目名	教育実習 II						
授業コード	1780	授業科目名	教育実習 II			担当者	大坪圭輔教授、三澤一実教授、高橋陽一教授、伊東毅教授
開講期間	通年	単位数	2単位(S2)	学年	4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、「教育実習 I」に引き続き、中学校又は高等学校において行う教育実習である。教育実習は 4 年次に実施され、高等学校免許状のみ取得する場合は「教育実習 I」のみの 2 週間又は 3 週間であるが、中学校免許状を取得する場合は引き続き「教育実習 II」と併せて 3 週間又は 4 週間の実習となる。

【課題の概要】

○面接授業課題

実習に当たっては、『教育実習日誌』に毎日の実習を記録し、指導教諭の点検を仰ぐ。この『日誌』が実習校を通じて大学に提出されることとなる。

【授業計画】

○面接授業

「教育実習 I」と「教育実習 II」と併せて 3 週間又は 4 週間となる。日程や具体的な実習内容などは各実習校により異なる。

【成績評価の方法】

実習校より提出された評価をもとに『教育実習日誌』などを勘案して採点する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4 年次

○履修条件

教職課程（別表第 1 の中学 1 種 [美術]）に登録していること。

「教育実践の理論と方法」第 1 回から第 3 回の事前指導をすべて受けた 4 年次の者に限る。

その他『教職課程ガイドブック』に示された教育実習受講資格を満たしていること。

○備考

なし

【教材等】

『教育実習日誌』（武蔵野美術大学通信教育課程）※「教育実践の理論と方法」第 3 回面接授業時に配付

【その他】

教育実習にあたっては多くの注意事項や手続きがあり、大学の指導を守り、必要な条件をみたまつ場合のみ実習を行うことができる。また実習校の選定や各種の調整など、学生の責任において行うことが多い。このため、月刊誌『武蔵美通信』などに掲載する情報を十分に読んで準備をする必要がある。

科目名	教育実践の理論と方法 教育実践の理論と方法(1) 教育実践の理論と方法(2)						
授業コード	下表参照	授業科目名	健康と身体運動文化 I～IV			担当者	北徹朗教授
開講期間	通年	単位数	1単位(S1)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	面接授業						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、教育実習の事前事後指導である。教育実習を行うにあたっての基礎的な知識と心構え、実習校との各種手続を含む事務的な連絡などをオリエンテーション形式で行う。

【課題の概要】

○面接授業課題

第1回・第2回の面接授業を受けるに際して、月刊誌『武蔵美通信』別冊『スクーリング持参物』により告知して予めレポート課題を指定し、当日これを回収する。課題は、教育実習にあたっての準備や心構えなどに関することで、テーマは適宜指示する。

【授業計画】

○面接授業

教職課程登録年次から4年次（教育実習受講年度）にかけて合計3回の授業すべてに順番に出席すること。

第1回 教職課程登録年次

教育実習の理念と実際、教育実習までの日程概要、美術・情報に関する視聴覚教材の上映、第1回小論文提出

第2回 3年次（教育実習前年度）

教育実習の事前学習の指導、教育実習についての視聴覚教材の上映、模擬授業の実施、教育実習までの各種手続の説明、第2回小論文提出

第3回 3年次（教育実習前年度）又は4年次（当該年度後期教育実習予定者）

教育実習の直前指導、美術・情報についての視聴覚教材の上映、模擬授業の実施、各種手続の説明

事後指導（4年次 通信の方法による）

教育実習終了報告書の提出

【成績評価の方法】

提出された小論文及び出席状況、教育実習終了報告書によって採点する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

*下表参照

○履修条件

教職課程に登録していること。

○備考

添付ファイルの表のとおり履修登録し、面接授業第1回～第3回に順番に1回ずつ出席すること。

後期に実習を行う場合は、面接授業第3回を実習年度で受講することができる。

教育実習後に本学指定様式の「教育実習終了報告書」を提出し、合格する事によって、単位修得となる。

スクーリング時に、受講人数を制限する場合がある。

【教材等】

『教育実習日誌』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程）※ 第3回面接授業時に配付

【その他】

実習校の選定や各種の調整など、学生の責任において予め行うことが多い。このため、月刊誌『武蔵美通信』などに掲載する情報を十分に読んで準備をする必要がある。

旧科目名：教育実践の研究

<各年次の履修登録と面接授業の受講回>

年次	授業コード	履修登録科目	受講する面接授業
教職課程登録年次	2100	教育実践の理論と方法(1)	面接授業第1回(春期または夏期)
3年次(教育実習前年度)	2110	教育実践の理論と方法(2)	面接授業第2回(春期または夏期)
	1790	教育実践の理論と方法	面接授業第3回(春期)
4年次(教育実習受講年度)	1790	教育実践の理論と方法	面接授業第3回(夏期)
			※当該年度後期実習者のみ

科目名	教職実践演習（中・高）						
授業コード	2270	授業科目名	教職実践演習（中・高）			担当者	大坪圭輔教授、三澤一実教授、高橋陽一教授、伊東毅教授
開講期間	通年	単位数	2単位(T1、S1)	学年	4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業（Web提出可）		面接授業				

【授業の概要と目標】

本授業科目は、教育実習を行った者が免許状を受ける前に学校教育全般と免許科目（中学校美術、高等学校美術・工芸・情報）にわたって、自分自身の教育実習を踏まえて教員としての能力の向上の課題を把握して、教育現場で指導力を発揮するための演習科目である。具体的には、オリエンテーションを受講し、通信課題のレポートを作成して合格し、面接授業では演習に参加して発表や討議を行って、教職課程の「総まとめ」「総仕上げ」を行う。

【課題の概要】

○オリエンテーション課題

指定された様式に基づいて「教育実習の概要」（A4判1枚）を当日に提出すること。

○通信授業課題

「教科教育以外の教育実習の反省」

上記の課題について、行った教育実習と教職課程の各科目の教科書を参考に論述すること。

○面接授業課題

「研究授業学習指導案」（実際に実施したもの）と「教科教育の教育実習の反省」

上記の課題については、行った教育実習と教職課程の各科目の教科書を参考に論述し、当日提出すること。

* 課題については学習指導書を必ず参照すること。

【授業計画】

教育実習 → オリエンテーション → 通信授業 → 面接授業

* 教育実習、オリエンテーションは順不同

○オリエンテーション

この授業科目の目的や具体的な学習内容などを説明する。各自から提出されたオリエンテーション課題により、討議や質疑応答なども行う

○通信授業

教育実習を終えて、学校教育全般についての学習の総まとめとして、通信課題に取り組み、教員として能力の向上のための自分自身の課題を明確にする。

○面接授業

教育実習を終えて、教科教育などの学習の総まとめとして、演習に参加して、教員として能力の向上のための自分自身の課題を明確にする。

- ・ 前提講義
- ・ 設定したテーマと各自の面接授業課題レポートに基づく発表と討議
- ・ 講評

【成績評価の方法】

面接授業の講評などを基に評価する。この授業科目は教育職員免許法施行規則の改正による新課程で追加となった授業科目として、厳正な成績評価が求められるもので、オリエンテーション提出物から面接授業講評にいたる情報のほか、毎年度の履修カルテ等の提出物、教育実習の状況等をふくめて担当教員全員の合議による評価を行う。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

4年次

○履修条件

教職課程に登録していること。当該年度内に教育実習を行う予定であるか、前年度までに教育実習を終了していること。「教育実習Ⅰ」（中学1種・高校1種）または「教育実習Ⅱ」（中学1種のみ）、「教育実践の理論と方法」の単位を修得しているか、同時に履修登録していること。

○備考

オリエンテーションを受け、さらに通信授業に合格したうえで、面接授業を受講する。必ず教育実習を終えてから通信授業課題に取り組むこと（日程等の都合上、「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」の単位が未修得である場合も通信授業課題の提出可能）。教育実習が中止となった場合は、オリエンテーションの受講はできない。

【教材等】

○教科書

『求められる美術教育』大坪圭輔編（武蔵野美術大学出版局 2020 年）

『美術の授業のつくりかた』三澤一実監修（武蔵野美術大学出版局 2020 年）

○学習指導書

『造形文化科目 文化総合科目 教職に関する科目 2020 年度』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2020 年）

【その他】

平成 24 年度までに「教職総合演習」の単位修得をした者（旧課程適用者）はこの授業科目を履修する必要はないが、旧課程適用者でも平成 24 年度までに「教職総合演習」の単位修得ができなかった場合は、この授業科目の履修が必要となる。

科目名	介護等体験						
授業コード	1800	授業科目名	介護等体験			担当者	高橋陽一教授、田中千賀子講師
開講期間	通年	単位数	2単位 (T1、S1)	学年	2～4	指定	
科目区分	教職に関する科目						
授業形態	通信授業 面接授業						

【授業の概要と目標】

本授業科目は、介護等体験特例法によって小中学校の免許状授与にあたって義務づけられた介護などの体験とその事前事後指導である。介護等体験では、社会福祉施設や特別支援学校において合計 7 日間の介護、介助、交流などを行う。この授業では、介護等体験をするにあたっての準備を整え、7 日間を自分にとっても高齢者・障害者にとっても有意義に過ごしていくものである。また、介護等体験の終了後にその記録を作成して、これからの教育実践に生かしていくことをも目標とする。

【課題の概要】

○オリエンテーション課題

オリエンテーション前に『介護等体験ガイドブック』を熟読し、介護等体験を行うにあたっての考えをレポートすること。

○面接授業課題

介護等体験を踏まえて『介護等体験ガイドブック』のなかの日誌部分に記録し、介護等体験終了レポートと共に提出すること。

【授業計画】

○オリエンテーション

『介護等体験ガイドブック』を熟読し、介護等体験の理念や在り方、社会福祉の意義などを考え、これらをレポートにまとめてオリエンテーション時に提出すること。

○面接授業

各社会福祉協議会及び教育委員会の定める手続きに従い、原則的には特別支援学校で 2 日間、社会福祉施設で 5 日間の合計 7 日間の介護等体験を行う。実際の日程や内容などは、学校や施設により異なる。

この介護等体験にあたっては毎日の日誌をつけ、記録を作成すること。

【成績評価の方法】

提出されたレポート、オリエンテーションの出席状況、介護等体験の内容と記録を合わせて採点する。

【履修条件及び履修年次】

○履修年次

2年次～

○履修条件

教職課程（別表第 1 適用の中学 1 種 [美術]）に登録していること。

○備考

2 年次以降にオリエンテーションを受け、翌年度に介護等体験を行う。オリエンテーション受講年度と介護等体験受講年度に履修登録が必要。

【教材等】

『介護等体験ガイドブック』（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程）

【その他】

地域ごとに定められた手続きに従い、各種の調整など学生の責任において行うことが多い。また実施日程は受入施設等の予定にあわせることになる。その他、定められたルールや条件を満たした場合のみ実施が可能となるので、十分な自覚をもって臨む必要がある。このため、月刊誌『武蔵美通信』などに掲載する情報を十分に読んで準備をする必要がある。